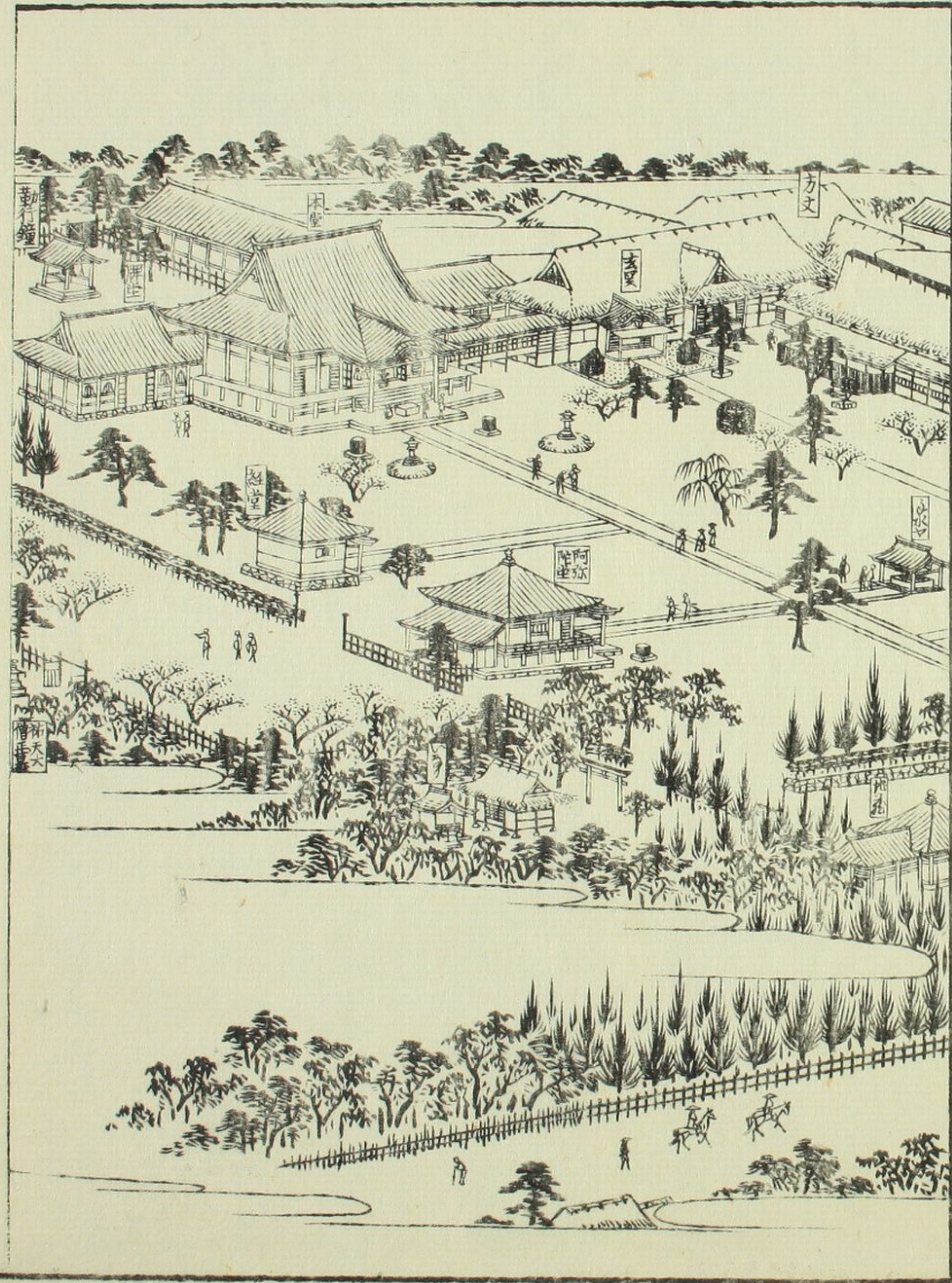


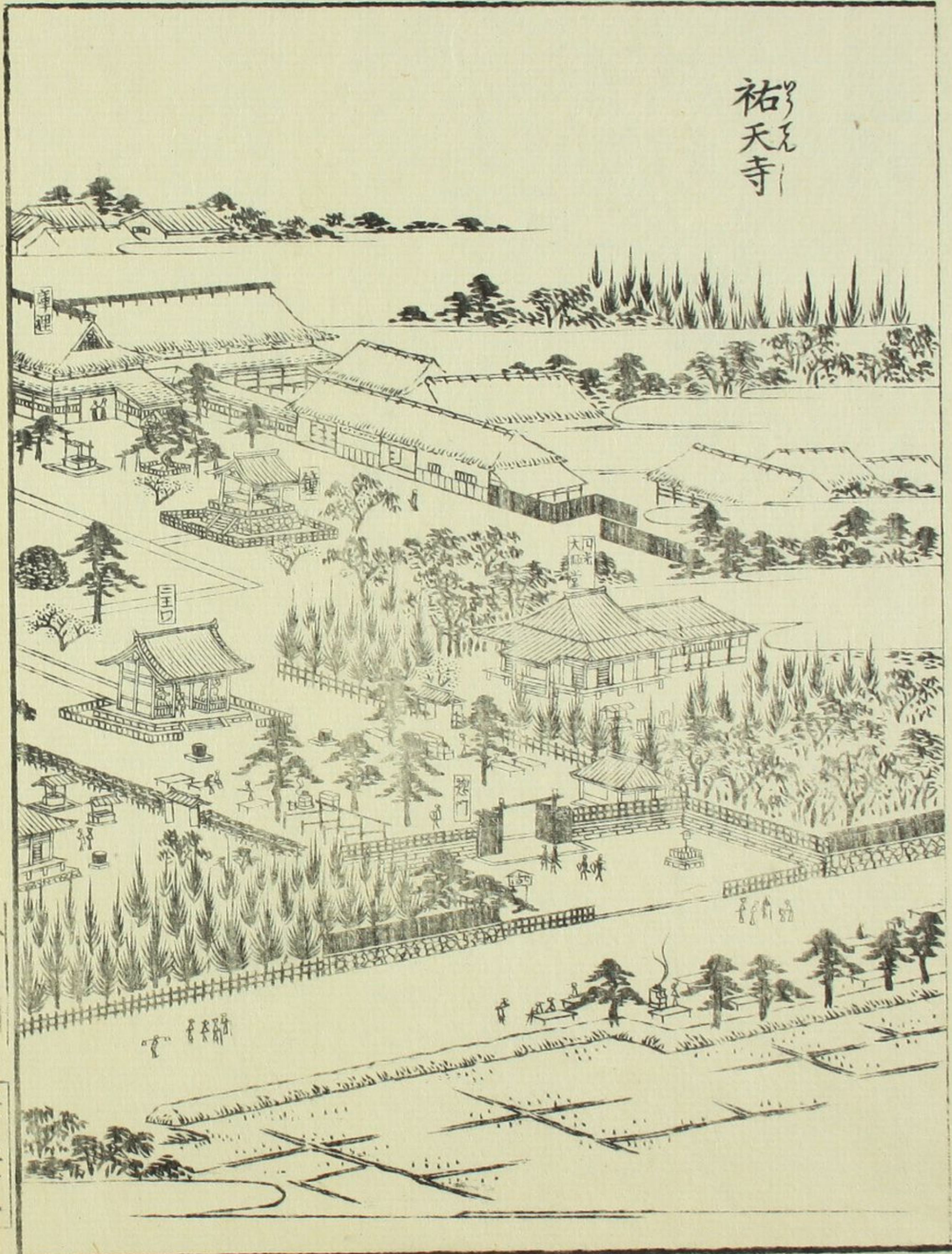


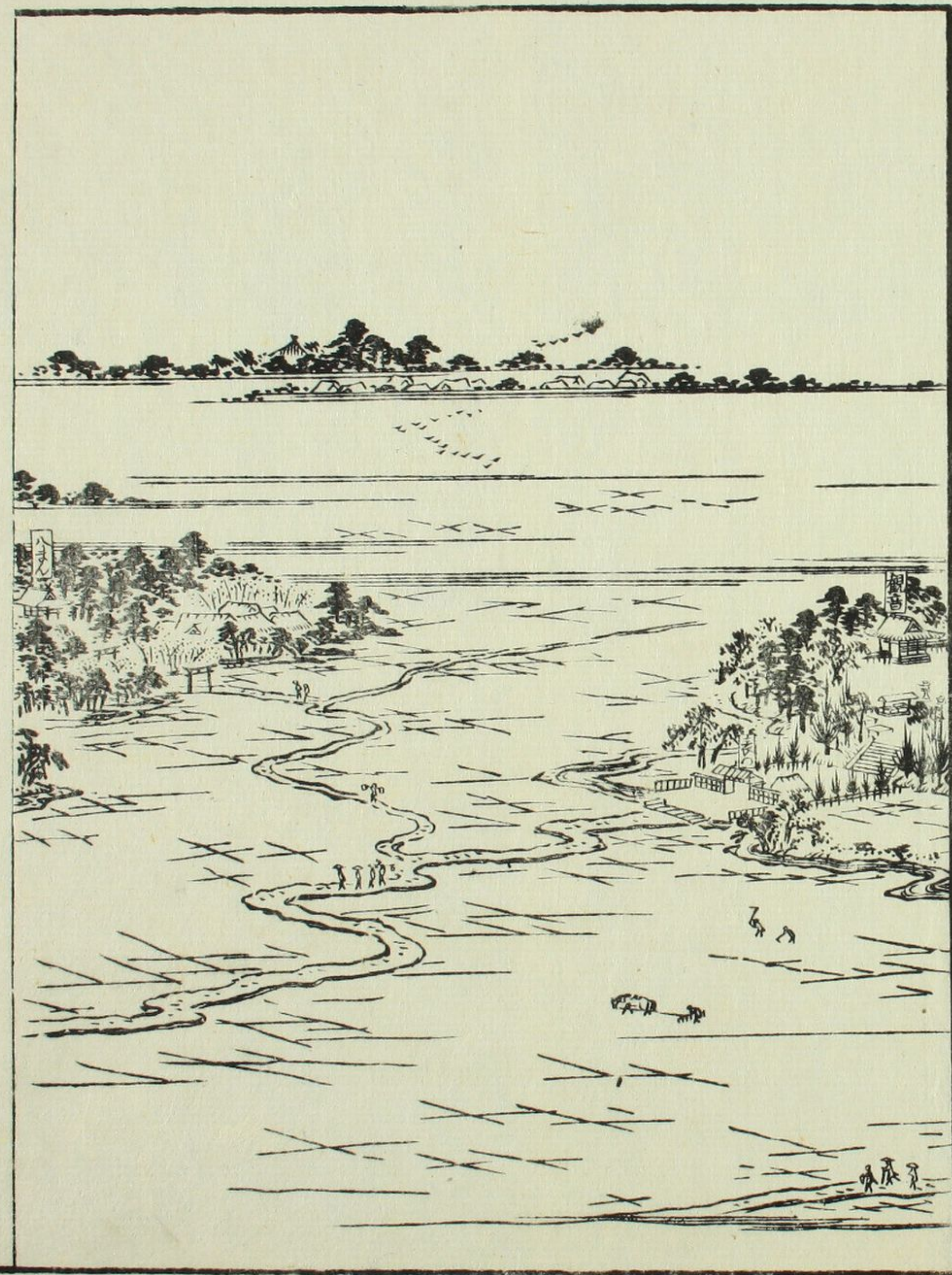
江戸名所圖會
八



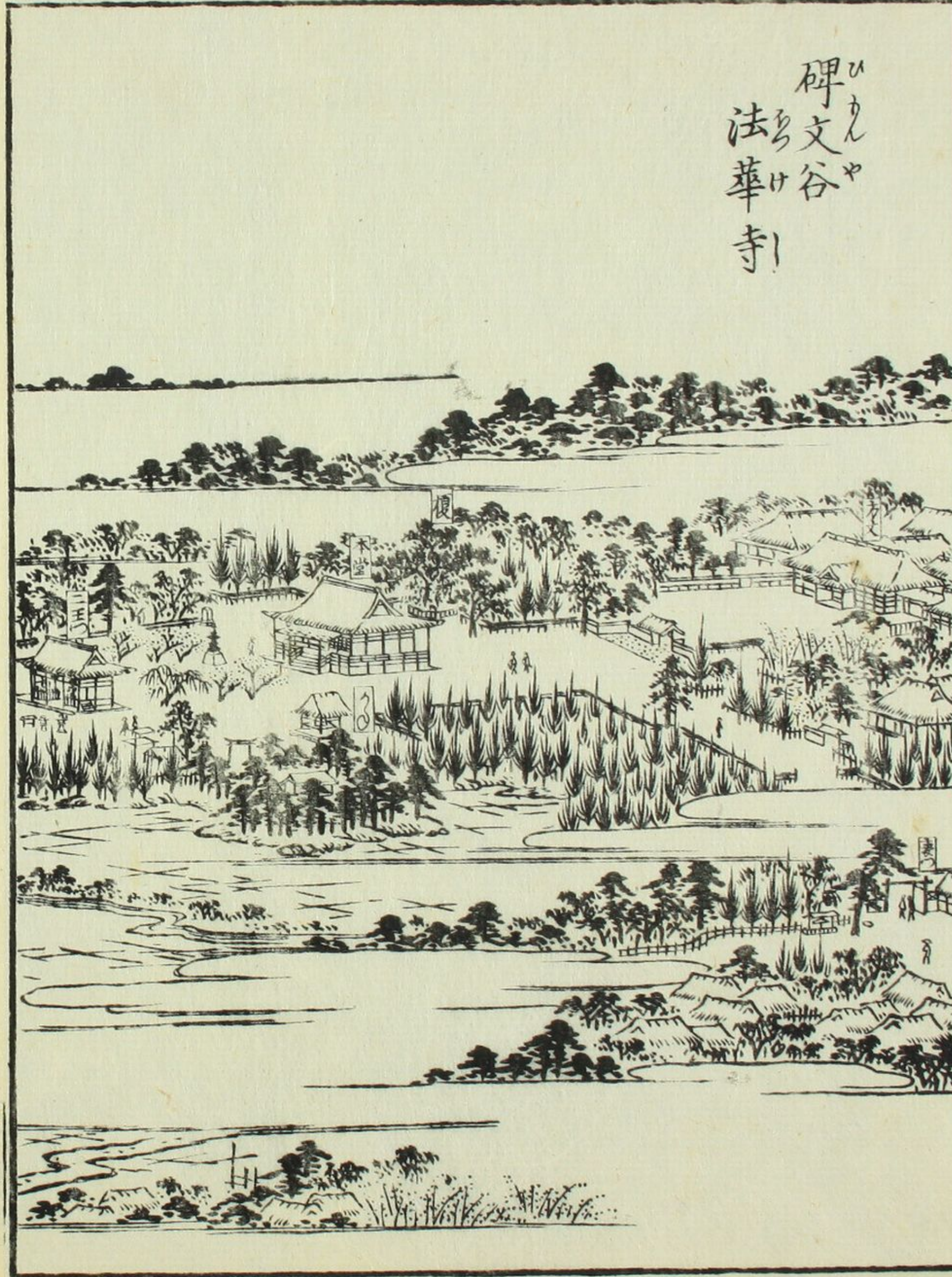


祐
天
寺





碑い文かん谷や
法り華け寺し



化と蒙る者夥し元禄十二年己卯 台命不依て下總生實の大
巖寺に住持し半島の庵室より直に大巖寺に 同十三年戊辰飯沼此
弘経寺に轉し紫袍を賜ふ又辛未江戸小石川の傳通院に
移り正徳元年増二寺に住せり大僧正に任せり 後目黒の地へ隠栖
せり竟小享保三年戊戌七月十五日化寂あり當寺ハ則祐天大の僧正終焉の地なり 一世の
行状并書寫しありその名號の奇特ハ世人普く知所あり開山臨終
各号書寫急ぎて一人ありて是と云む開山云く惠心僧都ハ一期の間來と彫造
其中中々往生と違はれ我も又弥陀の各号と書寫し其中ハ往生と違はれ
命終の日不遠近一日も怠りありと云ふ

妙法山法華寺 碑文谷よりあり祐天寺の南半道中あり吉祥院と号

中天台宗中々東叡山に属す本堂本尊ハ釋迦如来服土ハ文殊

普賢なり里諺ハ今存せる所の堂宇ハ飛驒

觀音堂 堂前左の方よりあり本堂ハ上面觀音の榎木釋迦堂の後左の垣添あり

その村に垣を築す 二王門 金剛密迹の二像ハ佛工安阿弥の作りと

靈威杖著世に信せり友や寛政紀元の年己酉の頃より後十二
當年の間靈驗著しく都下の人群悉く道も入りありと云ふ
當寺其先ハ慈覺大師の開創中々天台宗の古刹なり後
日蓮の宗化し歸し日源上人中興開基と云ふ竟元禄に至る舊
貫は復し元の天台宗を唱ふ今堀内妙法寺ハ安置せり日蓮境内櫻
楓の二樹多く春秋せし頗る壯觀と云ふ

碑文谷ハ幡宮 同所耕田を隔て南の方一町斗あり相傳ふ富山

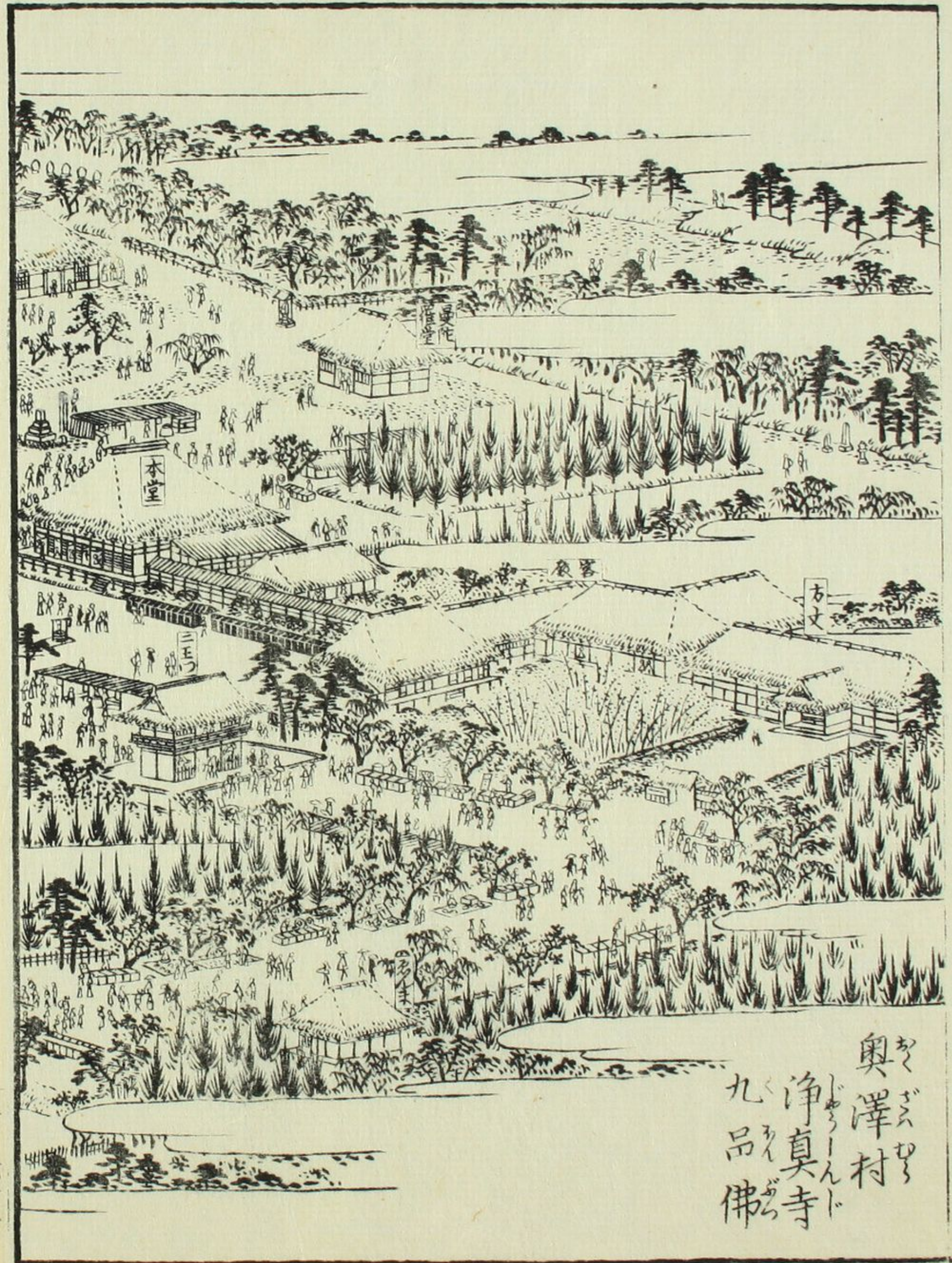
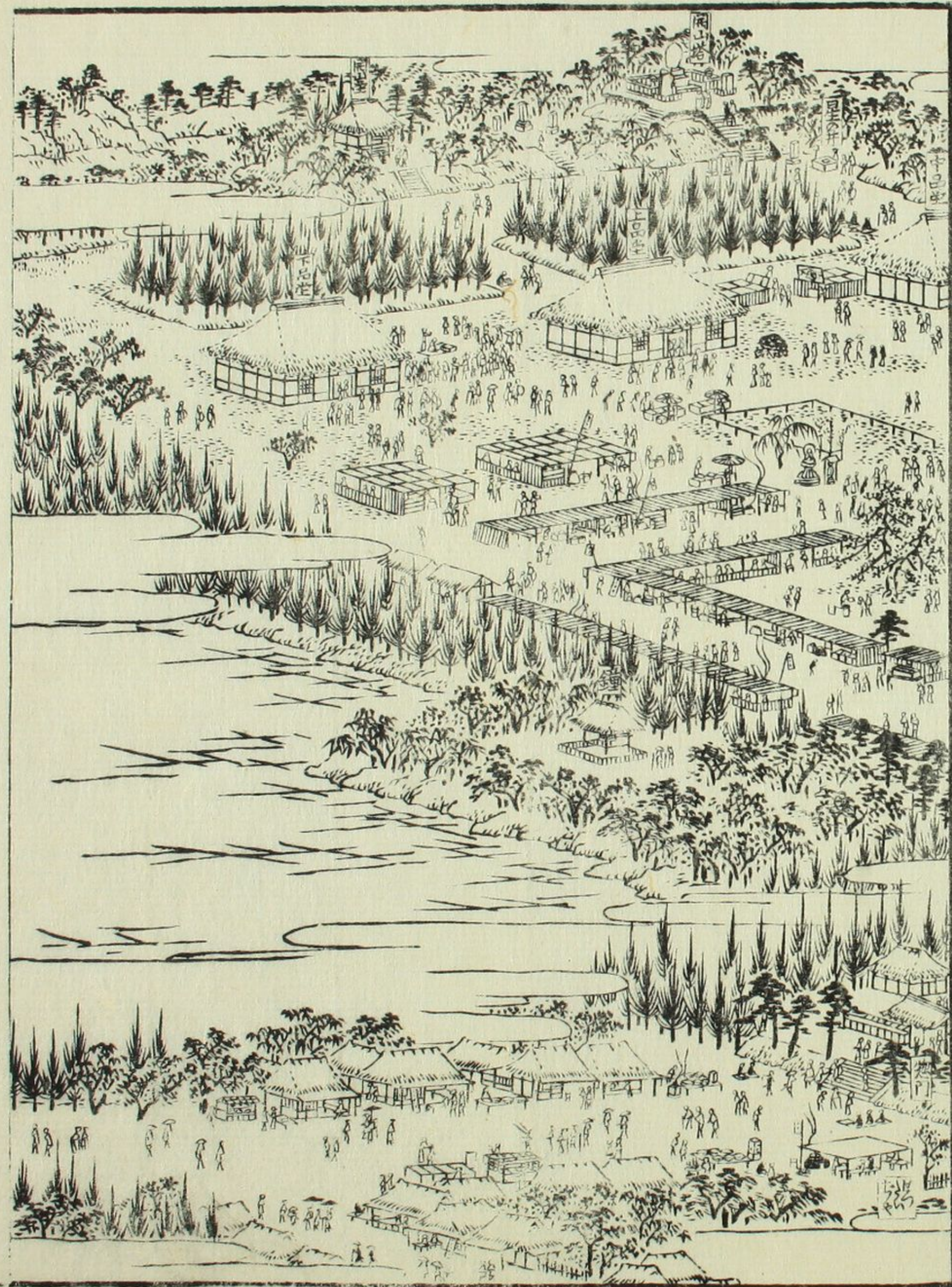
重忠の崇信せし神ありと云或ハ云神跡ハ秘物ありと云或ハ云

別當ハ天台宗中々法華寺末神宮院奉祀と云昔ハ此地の農

人社司此宮氏ハ重忠の家臣の遠裔なりと云或ハ云幡宮の西にあり地ハ
御古の後倉街道中々路傍に古碑あり或ハ日源上人ハ卒都婆ハ碑文を書きて埋めし
鐵守ハ幡宮の社地へ埋藏しと云或ハ日源上人ハ卒都婆ハ碑文を書きて埋めし
加の名なりとも云又江戸鹿子と云る草莽ハ忠致と云る御門卒都婆一基を建

九品山淨真寺 碑文谷より一里あまりを隔て西南の方奥澤村あり

淨土宗中々唯在念佛院と号京師知恩院延宝六年戊午珂碩



奥澤村
 浄真寺
 九品佛

和尚開基する所の浄刹中より九品九會の靈場なり

本堂 本尊阿弥陀如来 文六の額 龍護殿 當寺珂慶上人筆

内佛本尊阿弥陀如来像 聖德太子四十二歳の山時一切衆生の災難を除く

靈岸寺の傍に庵室をむすひ念佛修行をなすあり夫より一人の智徳盛なり此靈像の背

賤の道俗利益をわらむ都立上人不附馬あり夫より一人の智徳盛なり此靈像の背

地藏尊 本堂の向小堂の中安置を所山珂碩上人の本地佛と稱し惠心僧都の作あり

狩人一時山に至り急雨に逢ふ地蔵堂を休らひ一時堂宇破壊し佛髻雨露の露

一度死し其府より移す野山に移すありしを山法印當寺開山上人の道光を慕ひ

駈を附殿あり

開山珂碩上人像 客殿に安置を上人生前の靈像再三かゝり依て是を彫造

此像ハ如来の流告三度依て得刻せしなり末代の輩此像に待接せし

曼陀羅堂 本堂の左あり中堂の念佛堂ありしを堂守浄性といふ此像當寺へ

此故よ世人除厄の靈像と稱せり

移す其餘五智如来より超載永劫佛五劫思惟佛を安置を此像の面ぬ

中品堂 同右の並み中品中生中品上生中品下生以上

上品堂 本堂の向小堂中生上品上生上品下生以上

下品堂 同左の並み下品中生下品上生下品下生以上

以上九品の阿弥陀九體を安置を各座像より一丈六尺あり佛像一軀毎小圓

光ありて附まざるの小佛一十一軀あり共ありし像も開山珂碩上人の彫造

中々開山常小一日三錢を財へ造佛の費を充寛文四年より同七年に至り其間

う四年竟九品の弥勒像を財へ成就せしむるなり此中初靈岸寺の地

あきし洪波の流に破らる後延宝六年戊午とく此地小移すなり或云珂碩

上人諸堂不成り遷化せし後亦珂碩上人河州玉手山安福寺より來りて建

とる九品堂の額ハ此も珂碩上人の筆あり

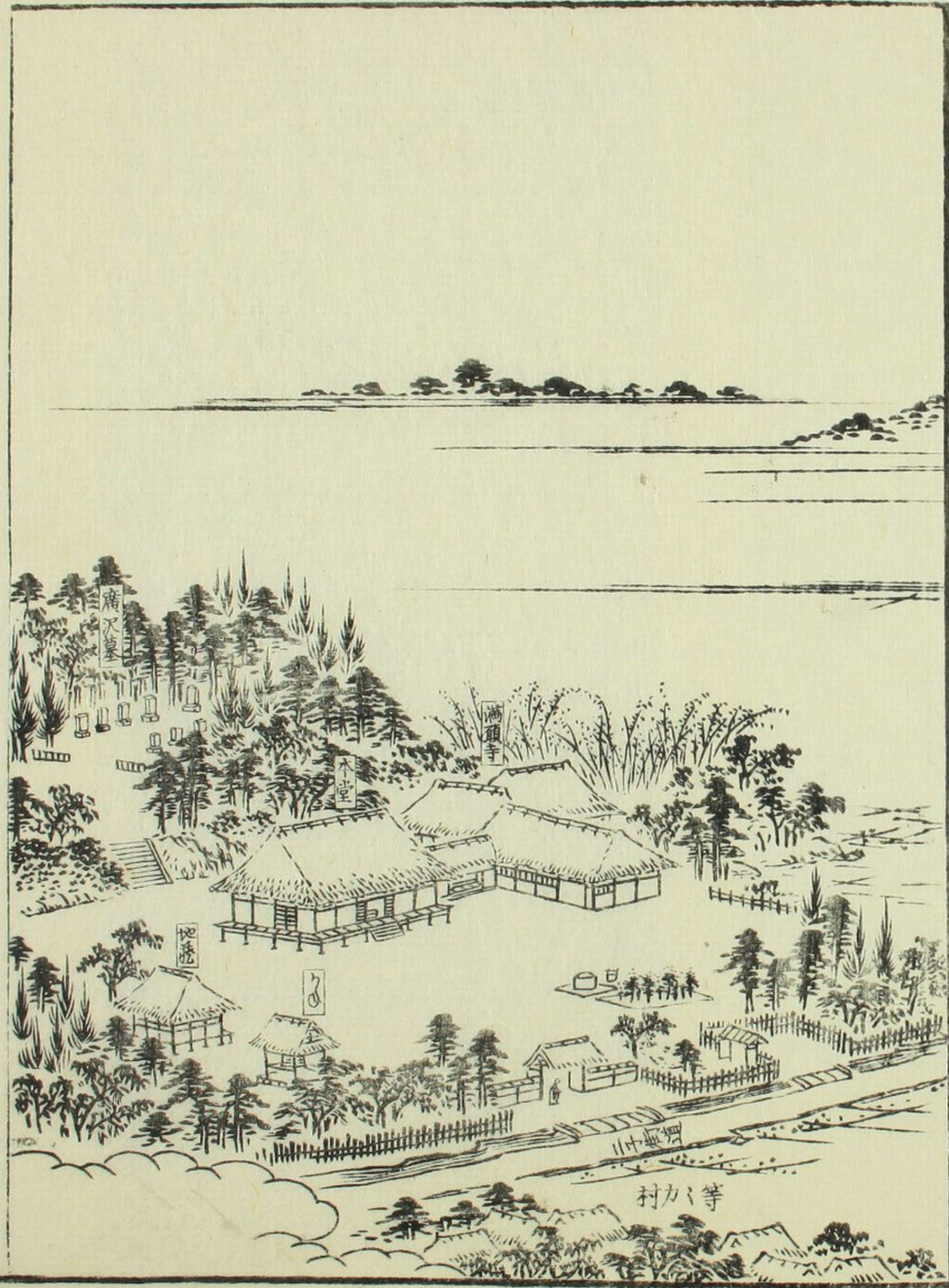
開山堂 上品堂の後古城跡堤の上あり

開山珂碩上人廟 開山堂の右のつぎあり奥の院と星の井 開山廟の前

有信の人偏に稱名せられ白日とくとも鐘樓 本堂の右あり九品の阿弥陀像の

水底に衆星の光を照らすなり鐘樓 本堂の右あり九品の阿弥陀像の

鯨鐘樓門 同ありあり金剛密迹の二玉の木像を置き



満願寺



額 般舟場 當寺 珂慶和尚筆

之 枯大 大名号 一幅 長十三間中九尺白布十反を合せて用ゆ 珂慶上人の筆なり 草木小針

阿弥陀如来画像 珂慶上人の筆なり 細字の六字名号を以て 其の姿を畫つたれば 像なり

亡者の帷子 後珂慶上人の十念脈符と撰 眞府の苦を道れ成佛して死す 其の妻難産して死す

亡者の文 徳化の先妻の死 珂慶上人の 遺るの先妻の死 珂慶上人の 遺るの先妻の死

攝待大茶金 當寺に收む 毎年四月十日の 此茶金を以て 煎す

南無阿弥陀佛 奉寄附 罐子一口 為二親善提

于時寛文八年霜月廿五日 當九百日 武州豊島郡

葛西莊大島村念佛堂常住物沙弥淨性施主山城

國字治里宮本仁左衛門鑄物師金屋八右衛門

開山大蓮社超譽上人珂碩和尚ハ松露と号ハ俗姓ハ野村氏武

州の人なり元和四年戊午正月元日小生る江戸覺真寺の圓若に

投しく難凍一十八歳あり業を珂山和尚より受 珂山和尚を下總 生実大巖寺に住す

和尚後年武陵の靈巖寺に住持す頃師も亦後つゝかゝりに

移る初越後國泰叟寺に住し後此地の郷民の招に應り一歳

七十七の時武州に歸り世田ヶ谷奥澤小幽樓を題す 當寺 遂小元祿

七年甲戌十月七日化寂す 本朝浄土高僧傳に元祿八年報壽 師の姿貌

温雅中々慈恩尤浚く奇驗孔多凡在世の感應ハ勝教を

へり其の最煥灼としく人々是を傳ふ 以上浄土傳燈系圖上文 傳本朝浄土高僧傳の

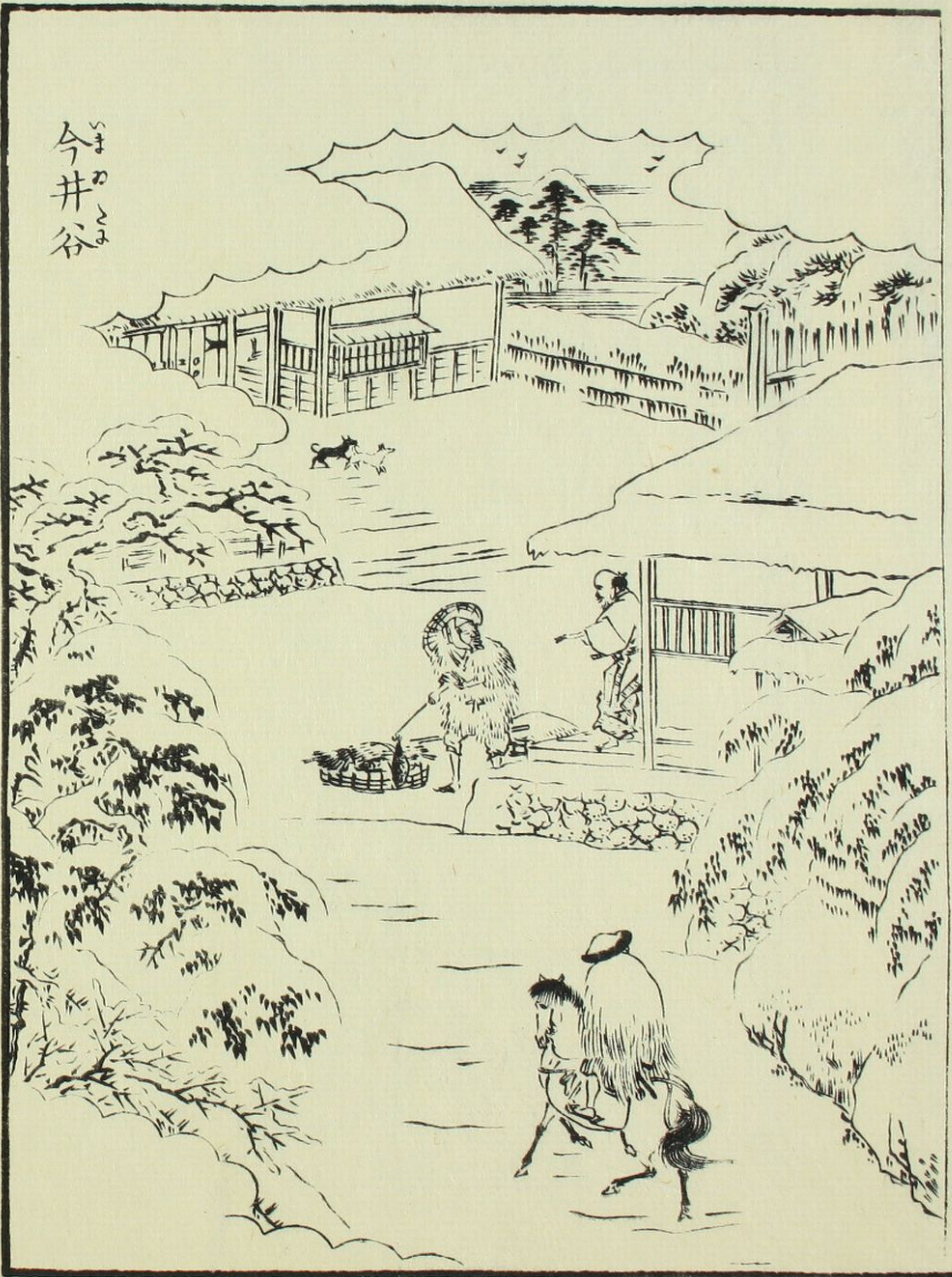
當寺ハ不断念佛の道場中々閑寂玄隱の浄舎なり 毎年

四月三日より同十二日小至る迄十日の間阿弥陀經千部讀誦修

行七月十六日より同十八日迄虫拂ゆく當寺什室を出し 諸人小拜

此寺境内ハ昔小田原北条家の属將吉良家の老臣大平左馬 或出羽 守とも

といひ人の構へり墨隍の旧跡なりとしく今も北より西南の方へ



今井谷

繞々々々堤の形空堀の跡を存す後門の方ハ大沼ありあり

とあり今ハ耕田とあり

大平山 奥澤新田村あり大平出羽守の若の跡ありとあり

致航山 満願寺 二子街道等々カ村道より右あり新義の真言

宗中々々山城醍醐報恩院ノ属を開創の時世詳あり中興

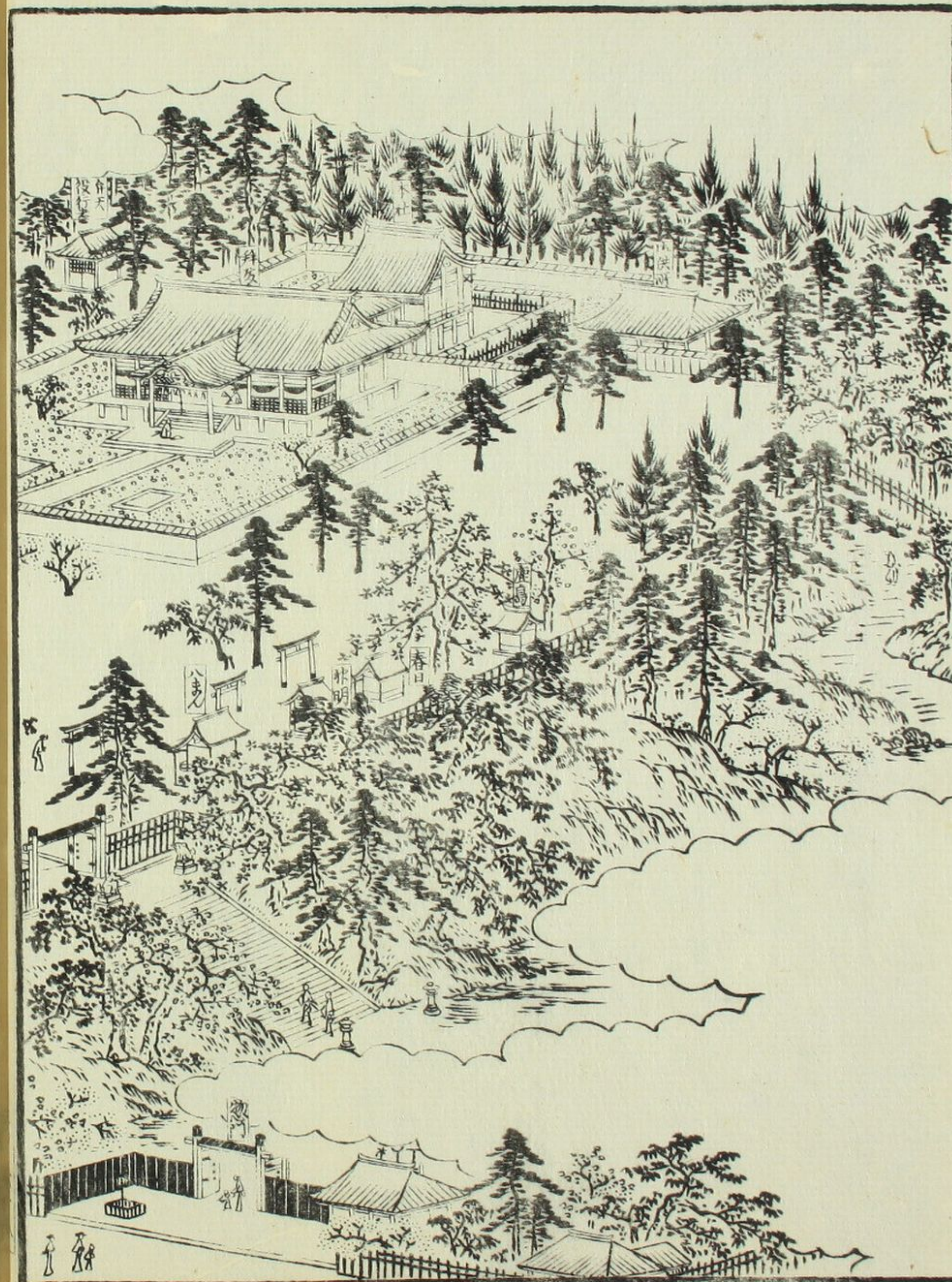
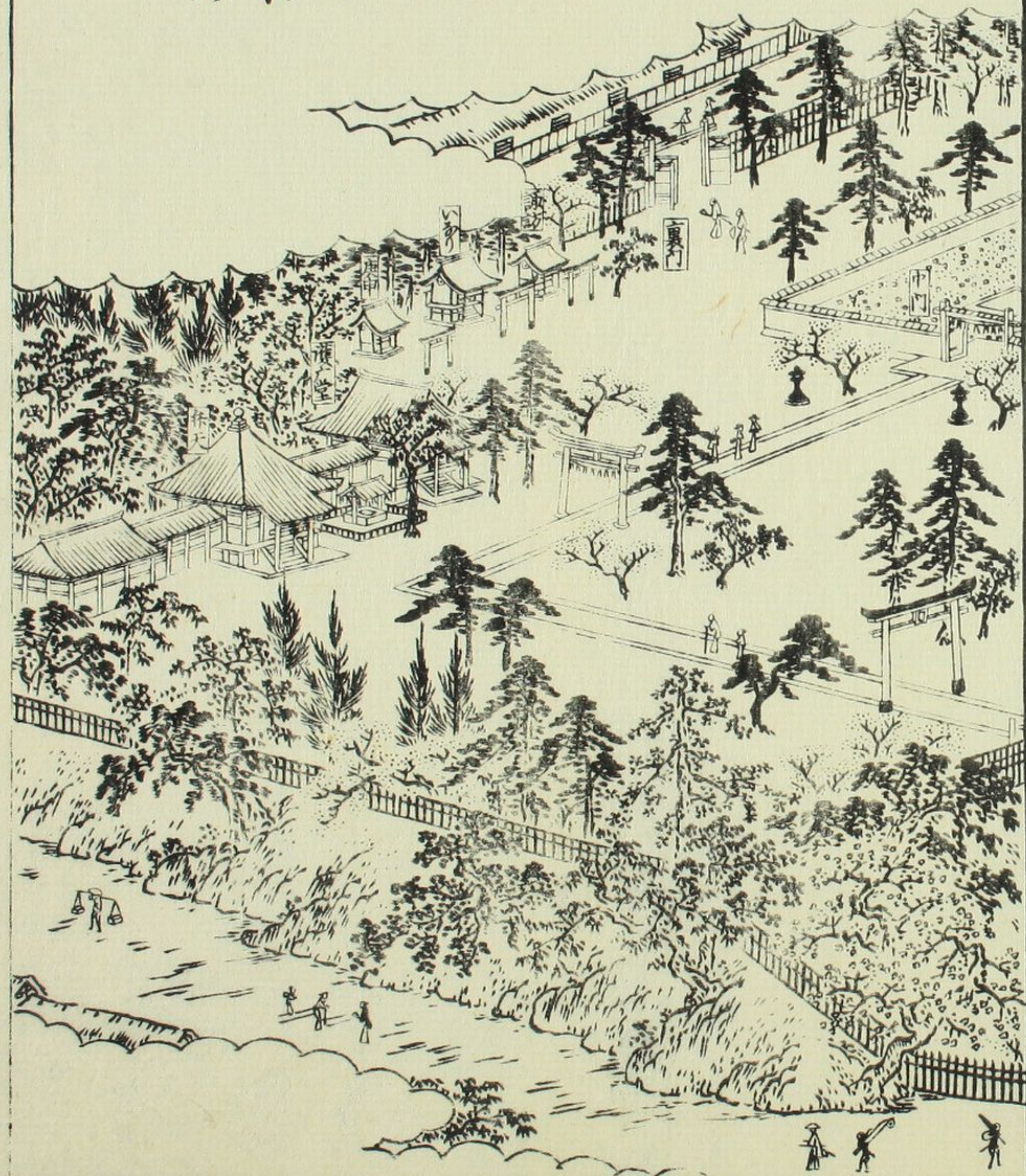
開基を定采法印と号し慶安年間寺領に寄附の朱章をあり

本尊ハ大日如来なり當寺ハ世田谷の吉良左兵衛佐源頼康の祈

願所中々々其頃ハ頗る盛大の寺院なりとあり

世田谷私記追如云
 當時性古政忠の男
 經弁仕職を蒙徳寺所蔵の吉良系因也と政忠の子経弁満願寺屬とあり當寺ハ
 天文弘治大正等の戦号ある吉良頼康北條氏康政等の證據或ハ書簡をて十八通
 中一通中々々世田谷村澤村の満願寺とあり其故をあるは昔等々ハ深澤は属
 致航山よりあり山満願寺とあり其後世
 中々々廣澤先生の筆又本堂の向拜小掲く満願寺と書せしハ

赤坂水川社



なりとの人 或人の説は赤坂の萬山の辺の坂あり云と按は赤坂の地名は永祿二年小田原北条家の所領後帳に赤坂村十葉及所領を

氷川明神社 赤坂今井小あき 此所は世よ三河臺とのみ天和の頃松平別當ハ

聖護院 汎の觸頭中へて大乗院と云祭神當國一宮は相同し

赤坂の總鎮守中へて祭礼ハ隔年六月十五日永田馬場山王権現

と隔年修修す 江戸名勝志惣鹿子考の草帝は當社元一本村ありしを

按小當社と云古坂宮と一又事保中一本あり今の地は今の一本は記し

此れとも詳ありを覽文は此國古呂故宮と稱せり今の一は記し

氷川明神ハ同繪圖今の地ハ記しありと此ハ名別の社あり

一各所記ハ天曆年間江州甲賀郡小蓮林と号し此ハ天宮四明の法也

念三ヶ所の觀行を擬せあり東國遊化の興此ハ一夜と明し蓋中

得て七轉り上而觀音の像を感得し安んず一木觀音と稱す蓮林

氷川明神と崇めまつるとあり

古呂故天神社 同所一本の地赤坂田町はあり或ハ小六ハ作別當ハ

洞家の禪宗中へて清徳寺と号ハ

武藏國風土記殘編曰 荏原郡赤坂庄小六天神或

古呂故圭田三十五束 三毛田天武天皇三年甲戌

信康山龍泉寺 同所一ッ木町道より右側はあり浄土宗中へて花洛

知恩院は屬を閑山を隨流和尚と号ハ寛永十一年の閑創より

當寺佛元和尙ハ扶宗の志厚く曾て字信録千卷を著し刊行

して普く学徒も尔を尾州の産物を當寺に子安觀世音を安

置も聖觀音中へて傳教大師の作あり又同一相殿は茶師佛

とて安せり同作ありと云世よ一本觀音一本茶師と号一本そのハ立

像沙丈三尺餘の弥陀如来行基の作あり照士觀音勢至此兩

像ハ作者あり又境内天滿宮の宮ありて稻荷を相殿とハ

十一月始行神禮有神戶巫戸所祭大已貴與少彥

名園韓神也跡小六者以古呂故岡之名也云云

按茶の一本は此大明神元當國八王子の辺は木呂子と云あり其所の

氷川明神と此ありを道灌の書は木呂子の某と云ありと云又同書

及ハ江戸名所括の書は慶長の頃關東の小六と云美貌の女あり馬追

あり此赤坂は住を常は氷川明神と号信一後其家富に依て社の破壞を

再修す故は後小六の宮とあり諸説紛々として詳ありは姑く風土記の説を用ひ

明本武蔵の垂跡ありとあり

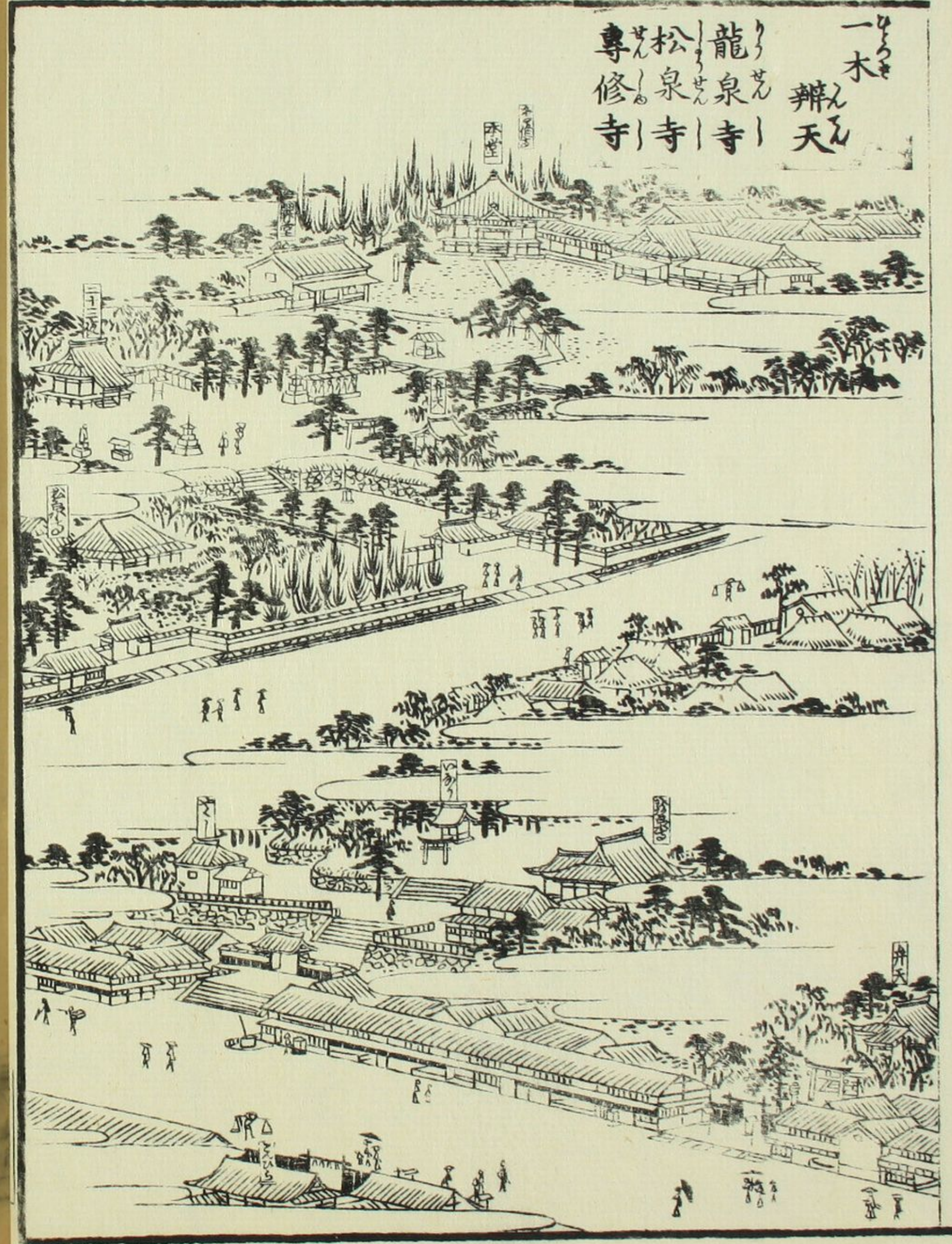
明本武蔵の垂跡ありとあり

明本武蔵の垂跡ありとあり

明本武蔵の垂跡ありとあり

明本武蔵の垂跡ありとあり

一木 辨天
龍泉寺
松泉寺
專修寺



天満神の神像ハ東叡山慈眼大師作らせりなり云傳ふ

平河山浄土寺 源照院と号は同所龍泉寺より半町程南の方

同一側あり浄土宗中々縁山は属を本寺阿弥陀如来座像
四尺餘作者詳かり閑山ハ教養聖公上人と号も中興も源蓮
社本養利覚一故と号けり當寺昔ハ濟城内平河口の辺ハ

ありと元龜三年今の地に移されりと云

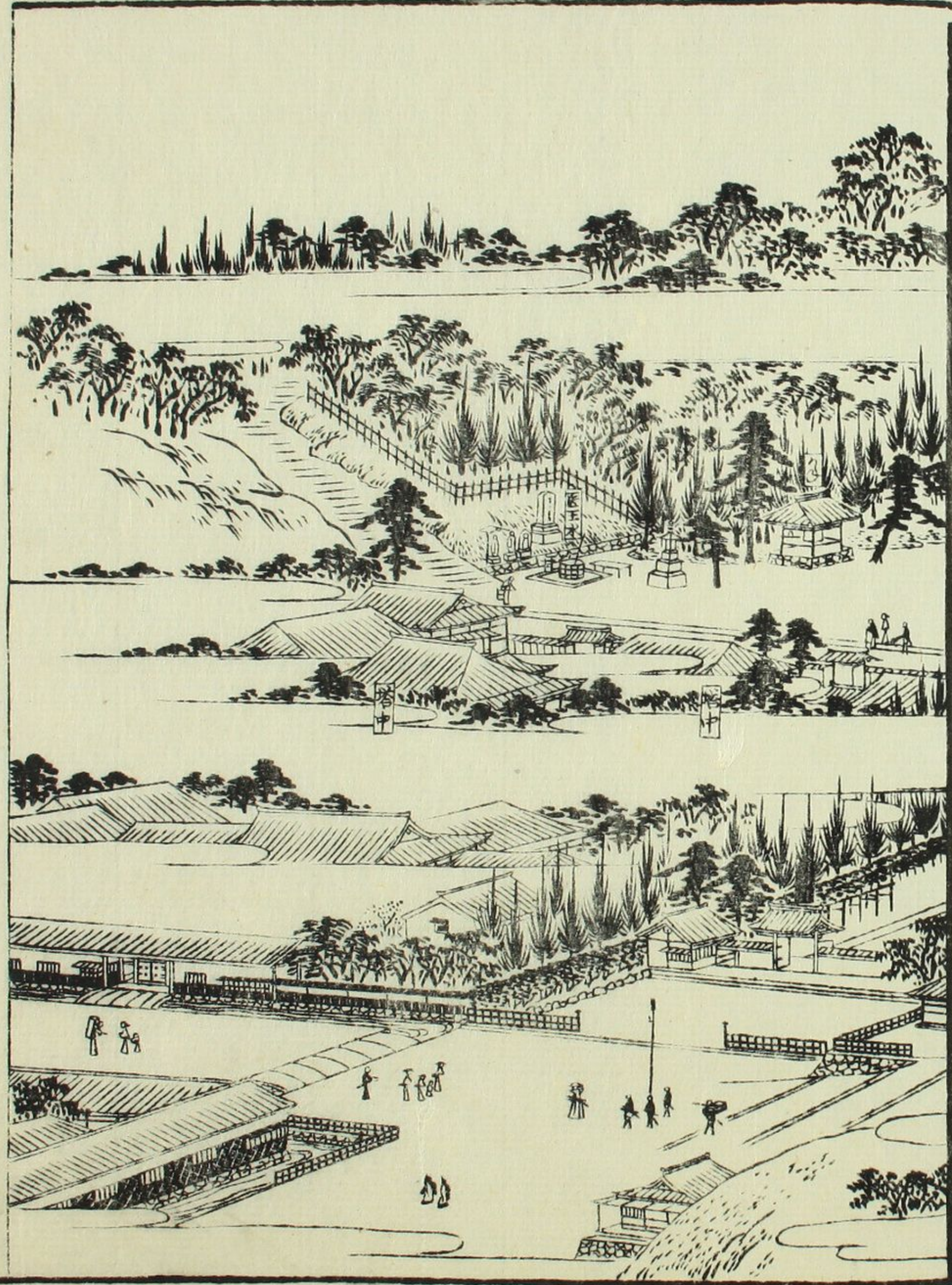
一行山專修寺 同所寺町あり當寺も縁山は属する所の浄刹

中々本寺阿弥陀如来ハ惠心僧都の作丈三尺 閑山ハ寂蓮社
曇誓上人と号は昔ハ青山ありと勢至菩薩と安せり草堂
なり一永祿年間閑山上人一字梵宇と一其後赤坂水川
明神の辺に移ると又寛永に至ると同寺町地とわくは遂に
元祿に至ると今の地に移る

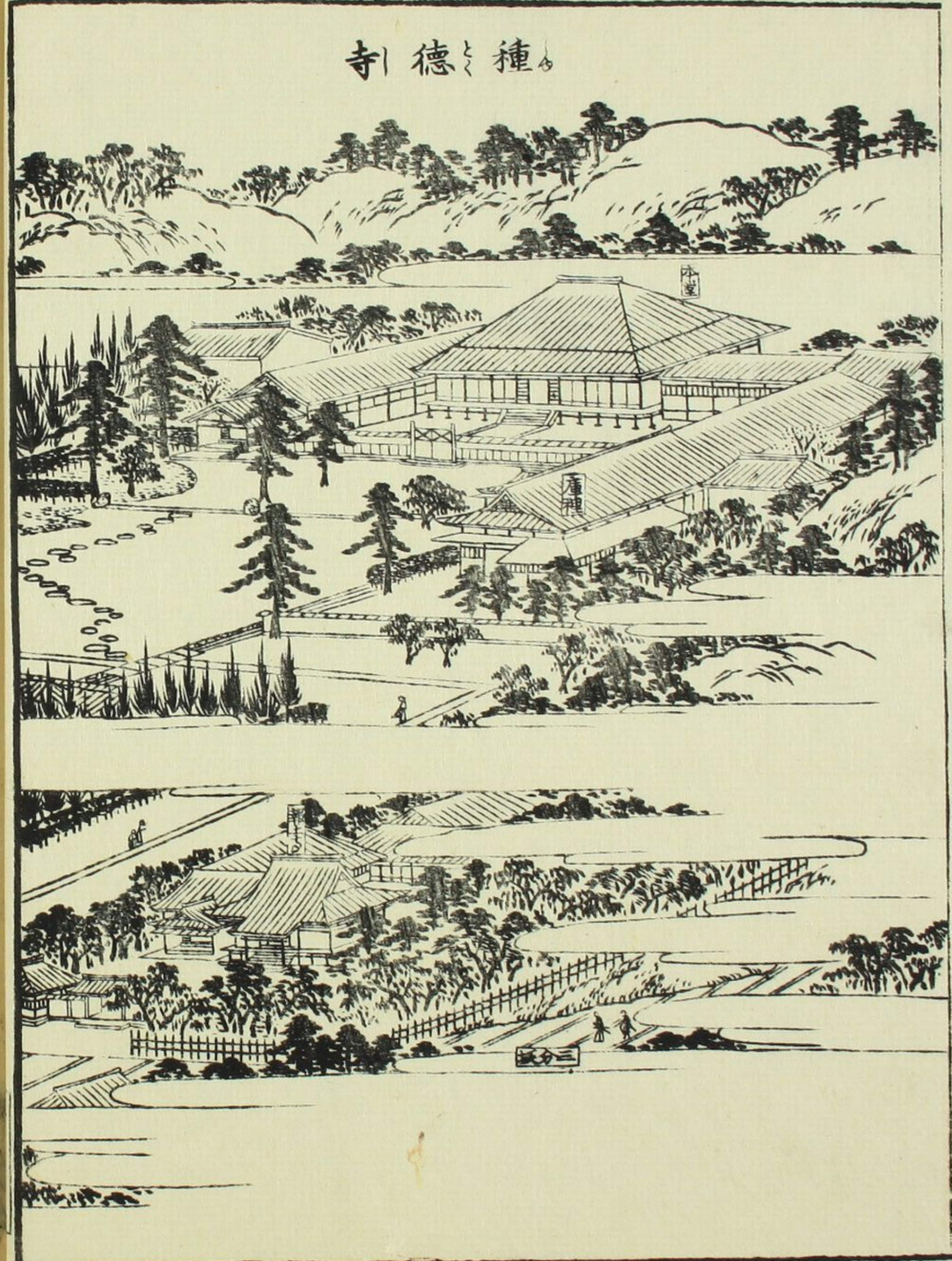
往古安置の勢至菩薩の靈像ハ今於當寺に存せり金銅中々甚古佛なり

一木原 今赤坂傳馬町の裏通僅一木町の名と残せり昔此辺
なま一木原とのひ矢蓋莊七郷の中ゆく古き名ありと云
上下と二ツは上河原一本谷敷の橋の辺なり今四谷ヶ谷の境に
王寺といふ薬師の靈場あり昔の境内は大本の檀ありと云
又下一本は此赤坂の中河原清岸寺の中茶師ありと云
神代共一本茶師の稱ありむり此寺中茶師ありと云
人代と書し徳大樹の傳あり北条五代記大永四年正月十三日北条氏綱
上杉朝興と打勝敵の首とも實檢一本原は積打揚作法のや
勝関を執りたるなり
北条家の所領後帳大田大膳亮所領の
中一本原の地名を如く貝塚を
北条家の所領後帳大田大膳亮所領の
中一本原の地名を如く貝塚を
天正十九年の頃なり
花町の辺一本の肉なりと云或人云此地町屋ありしハ
狩野興意墓 同所三分坂下靈鳳山種徳寺の境内あり當寺を
大徳寺派の禪園や昔ハ相州小田原ありと云天正十九年
花町を引き後又當所を移る用山ハ東光知灯禪師と号し
医王水も當寺の靈泉なり
今井古城址 氷川明神の西北の方松平藝州彦の中をさきの

地といふ今井四郎兼平の城址ありと云紫の一本といふ
草紙ハ齊藤別當實盛の城といふ或ハ田子先生義賢の山城あり
ともいふ傳ありとも共ニ詳なり北条家の所領後帳大田新六郎渡辺
氏家系ニ宮内少輔勝行北条家より此地を所領し又半邊
赤根山 紀州公中居の地といふ昔ハ此地小多く茜を産
故ニ茜山ともいふなり今紀伊國坂と呼ぶ地昔ハ赤坂と稱へ
と云り赤根山の坂ありハかく赤坂とを号けりといふ云
圓通寺舊跡 同所寺町あり此地申の方より寅の方へ向ひく
下る坂と圓通寺坂と云も此故なり今此地ハ佛智山圓通寺
といふ日蓮宗の寺ありとも古の圓通寺ハ異なり往古廢
せし圓通寺の洪鐘ハ圓通坊といふ沙門建立する所と云銘ハ
深草元政法師の撰む所なり其鐘今ハ亡びくをといふ古き
存せんる草山集小物と以て之を記し其旧跡を失はしむ



種徳寺



金峯に分入る法威を震ふて龍を伏し抖擻修行の道を再興し
次て奏聞を経て吉野郡に一寺を創建し給ふ鳳閣寺是なり即
尊師の上足貞崇僧正を以て第一世とし昌泰三年始て此處に
於て峯受灌頂の密法を興行し久し爾來七百餘年と經て元祿
年中中興俊尊僧都寺號を東都に移して一派總綱の役寺
なり神祖御由緒の地遠州白山二諦坊康松院を兼領して
天下泰平國家利民の御祈願所とし毎年四月八日七月十九日
少ハ順逆二峰の神事柴燈護摩の儀式あり此日諸人群衆に
當寺本尊不動明王ハ靈驗の尊像にして里人出世不動尊と
稱して常小詣人あり脇壇にハ神變菩薩理源大師の像と
安置を寺内に三峯權現稻荷の小祠あり境内に櫻樹有暮春
の頃清賞あり此樹ハ當寺の一代俊賢僧都葛城山より種と
取りめてもと昌平坂の舊地に殖て高間櫻と名つけたる名木

寛政年中聖堂御造営の節替地を賜ひて當寺に
今の處に移され刻舊樹ハ枯て僅ハ蘗生乃若木と存し
高間櫻の名を遺せり當寺の西隣ハ即梅窓院あり

長青山梅窓院 實樹寺と号を青山久保町道より左側あり

浄土宗中々京師知恩院ハ屬を當寺ハ清山家累世本寺阿弥陀

如来の像ハ聖德太子の作あり當寺ハ寛永年間戴蓮社頂誓

冠中南龍和尚開基し觀智國師と請し開山祖を國師ハ

中興開 惣門の額長青山の三大字ハ黄檗悦山の筆なり

泰平觀世音 自然銅也文三寸三寸の千手大悲の靈像あり天竺佛と稱し

聖武帝ハ獻り南都大佛殿の傍あり源賴義公兄弟興州追討の頃此靈

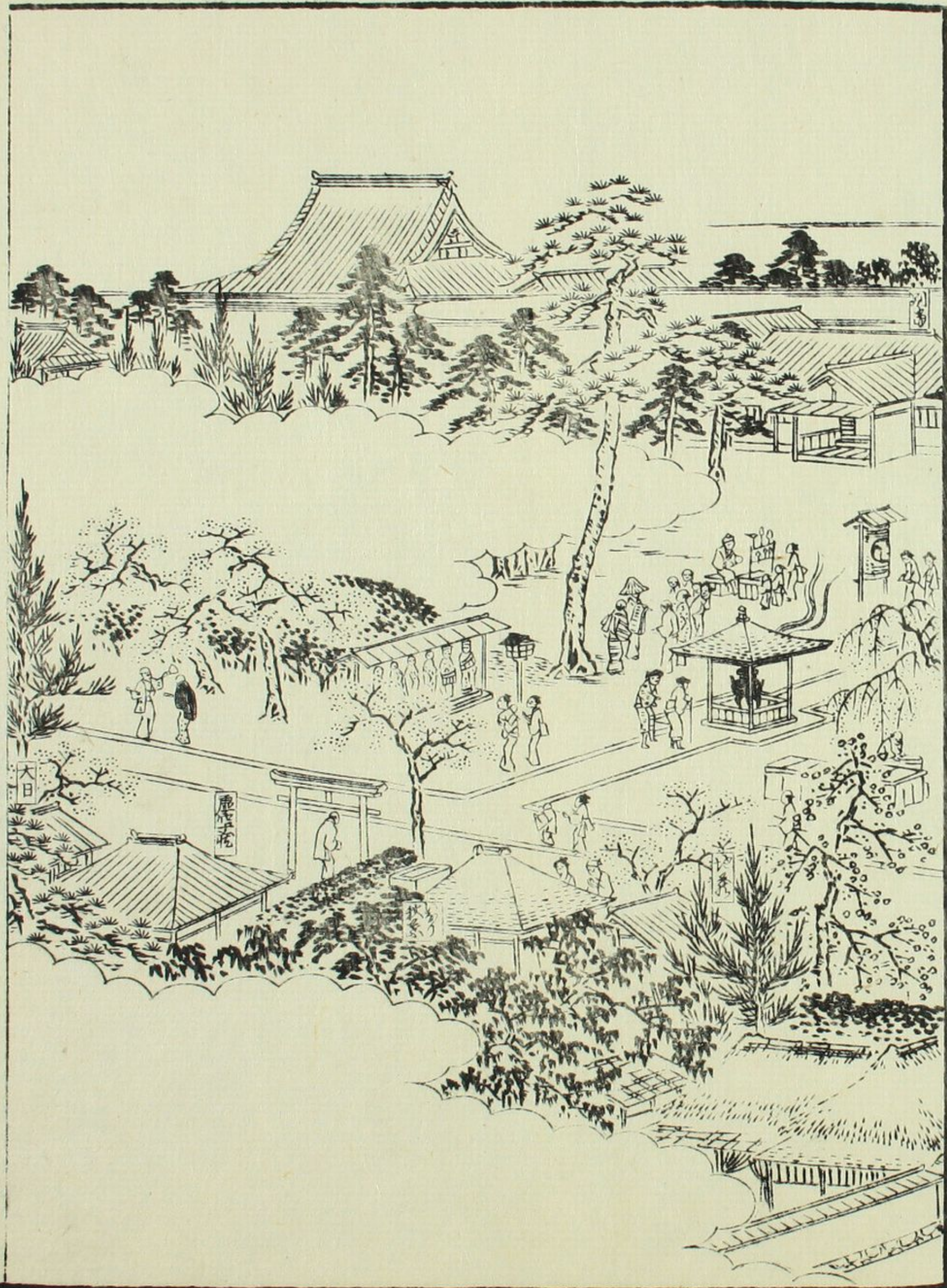
像を奉持し陣中守護とせ凱陣の時興州伊達郡小安置あり

青山家ハ傳り後又當寺に常小系流絶す 羅漢堂 中興ハ紫銅の釋を左右ハ

菩薩の像を安置す 鯨鐘 樓ハ揚々室永七年十一月當寺弟八世法蓮社壽

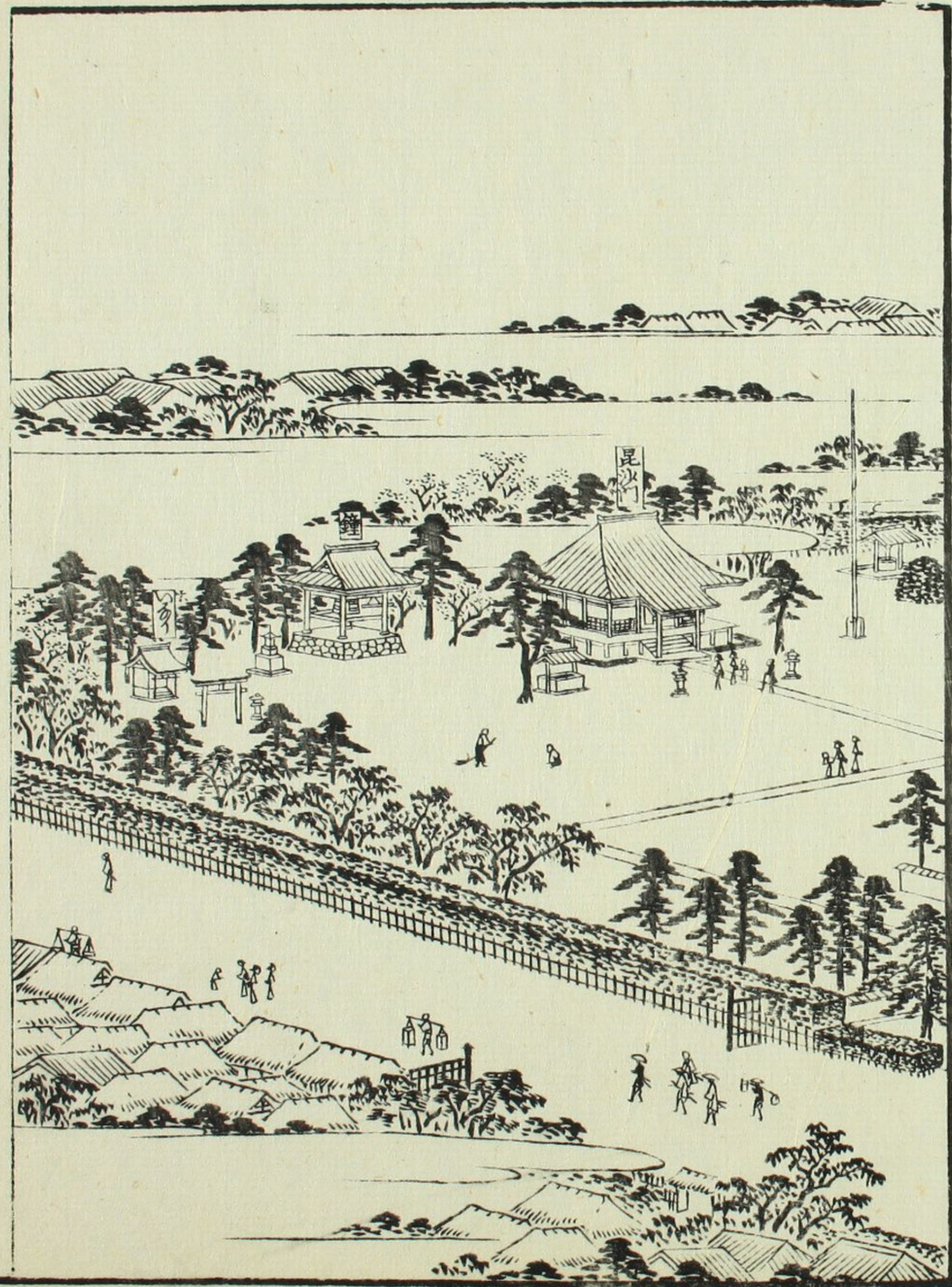
夢中ハ告く云く我今畜身を解脱せん一面の鏡を携來し師願ハ

是と加へし夢覺て後枕上ハ一面の

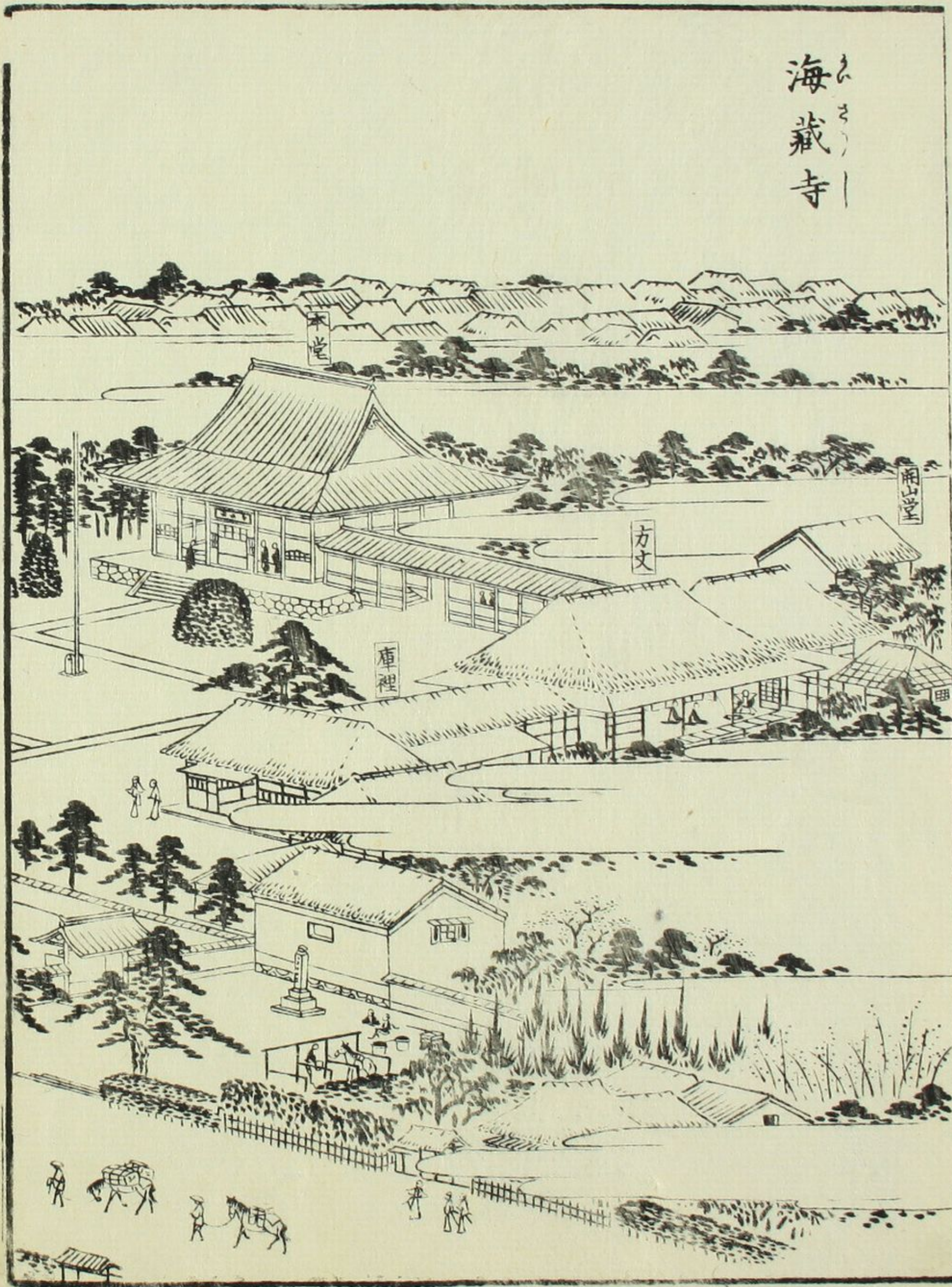


堂音觀平泰





海藏寺



鏡を存せり師是と奇と其鐘とも如く終に洪鐘成就を依其澄として夢ふ
又その龍女は宝光祐龍大姉と法号と授へらる鏡の面は其号と鑄ま
撰地蔵尊 慈覺大師の作ありと云ふ當寺九世順善上人北徳行徳の海濱
淡村の法傳寺にありと云ふ頃夢中靈應ふより同所の海岸に
感得あり海岸撰あり本尊得たり
然ふ其撰と云ひハ則此本尊あり故に名を
記し此梅窓精舎は鎮座ありく永く衆生を
度せんといひ依りて社に奉すと云ふ
親裁りといひて今堂前ハ
存する所の垂枝櫻是なり 虚空藏堂 明塔の興あり故にハ座像あり
作られ

青山海蔵寺 同所一町を隔て乾の横町右側あり黄
檨派の禪宗中始ハ海蔵庵と号く寛文十一年井伊彦夫
人掃雲院殿の堂建なり其項鏡眼禪師をく此草庵に
居らむ竟に正徳三年に至り公許を蒙り一字の蘭若とす
菊岡沾涼云岡山
室州和尙と云く 當寺より唐杖の一切経を由せ
熊野権現社 同所東南の方三丁を隔て原宿町あり祭る
南紀の熊野権現は同く三社あり青山の鎮守あり祭礼ハ

隔年九月廿一日は修行を別當ハ真言宗中浄性院と号せ

心見觀音 同北に隣り天台宗中竹園山教學院と号れ本尊ハ

聖徳太子の真作といふ

南命山善光寺 同所百人町右側あり信州善光寺本願上人

の宿院中浄土宗尼寺あり本尊阿弥陀如来ハ長一尺五寸

股士觀音勢至の二菩薩ハ共一尺二寸あり稱徳天皇の景雲

元年八月十五夜法如尼和州當麻の紫雲庵に念佛誦持の

頃信州善光寺の如来來現ありと拜しなり直一乃三禮

中く其形と摸る是則當寺の本尊あり

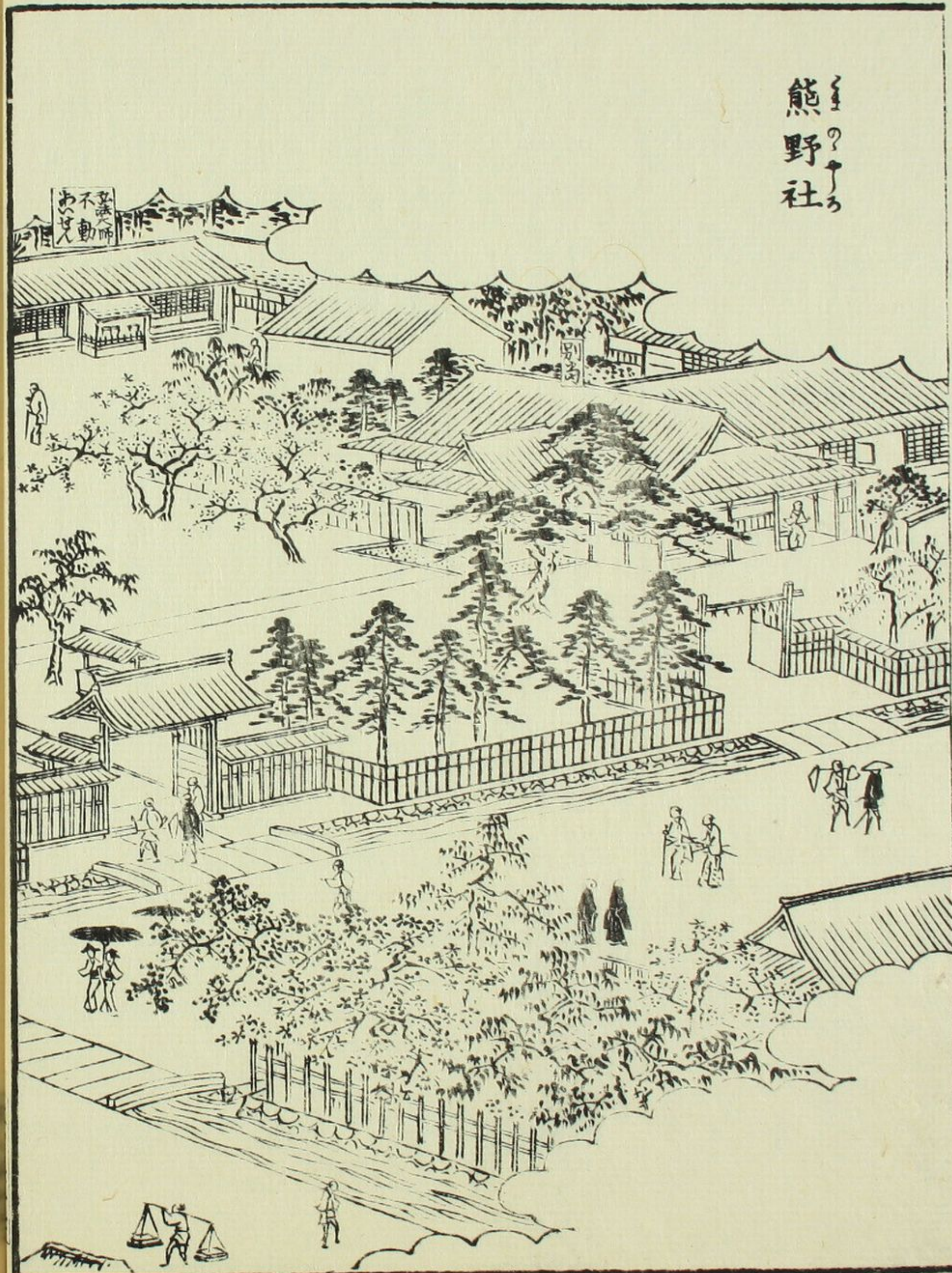
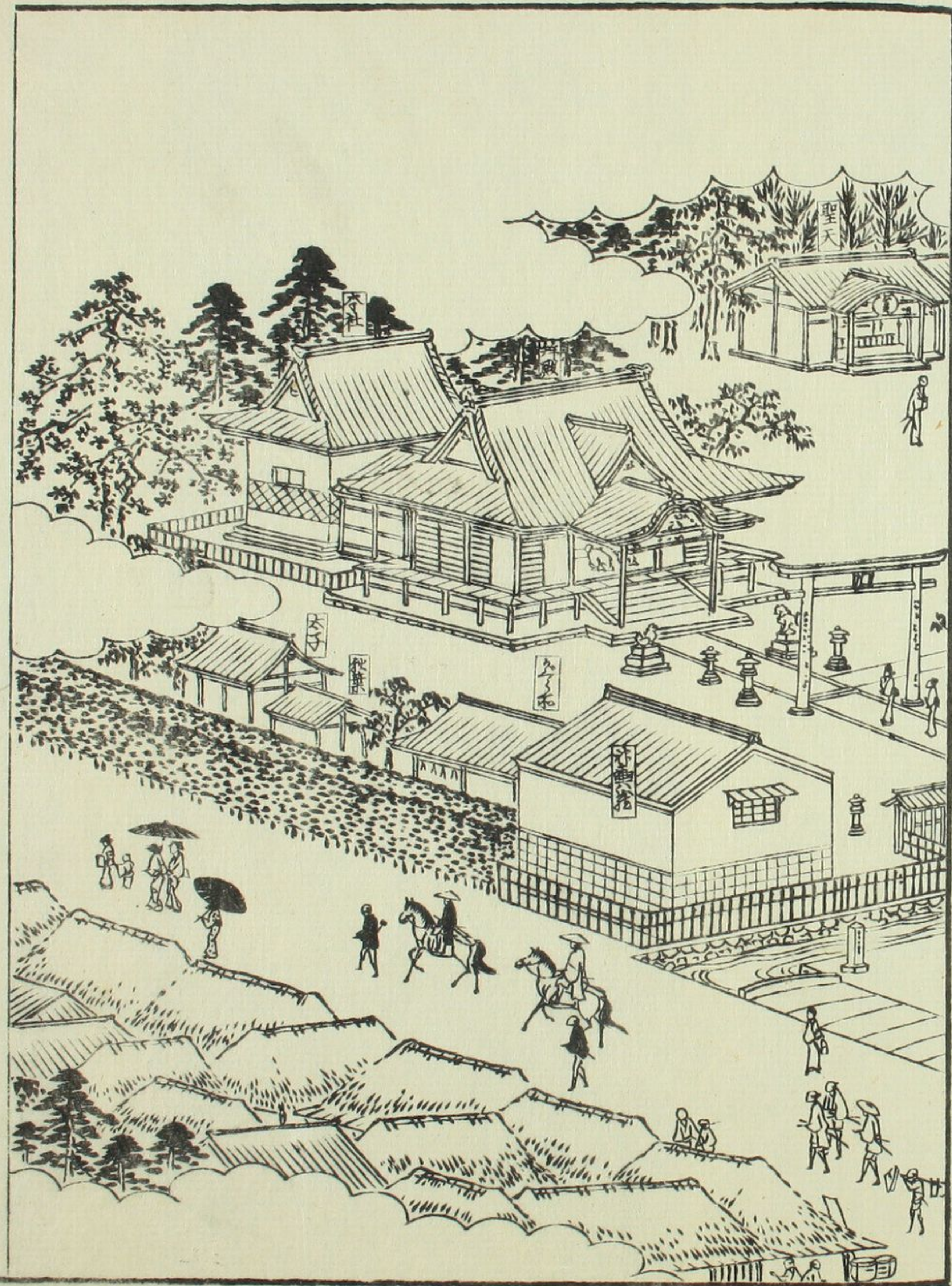
當寺ハ永祿元年戊午の創建あり始ハ谷中ありと中興

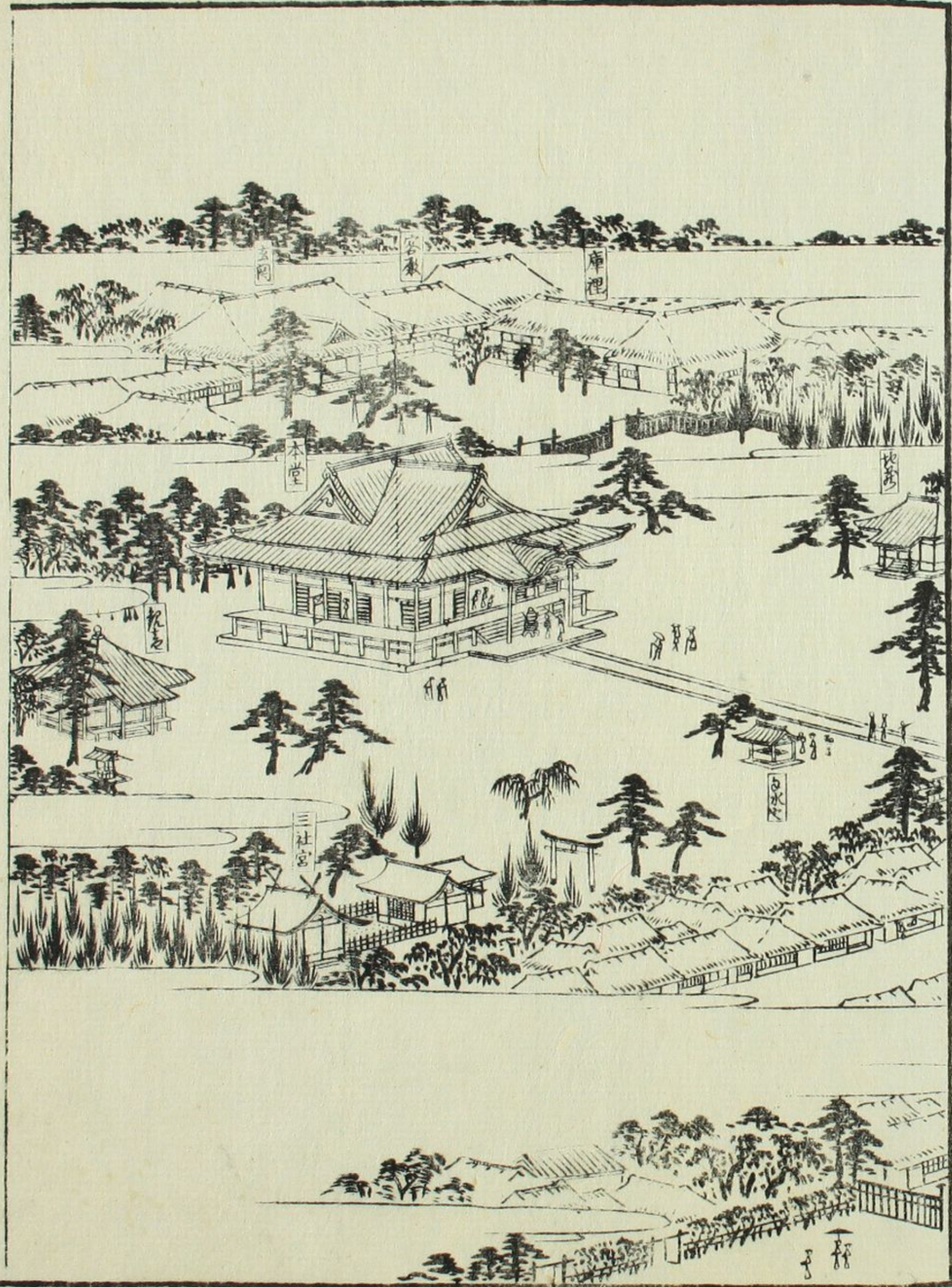
光蓮社心誓知善上人明觀大和尚の時宝永二年

台命は依り此地へ遷されるとあり

玉林寺の 什宝ハ中将姫自の毛髪を以て製造する所の六字此

今谷中ハ善光寺と号り其
旧地ありたふして其旧跡ハ今の

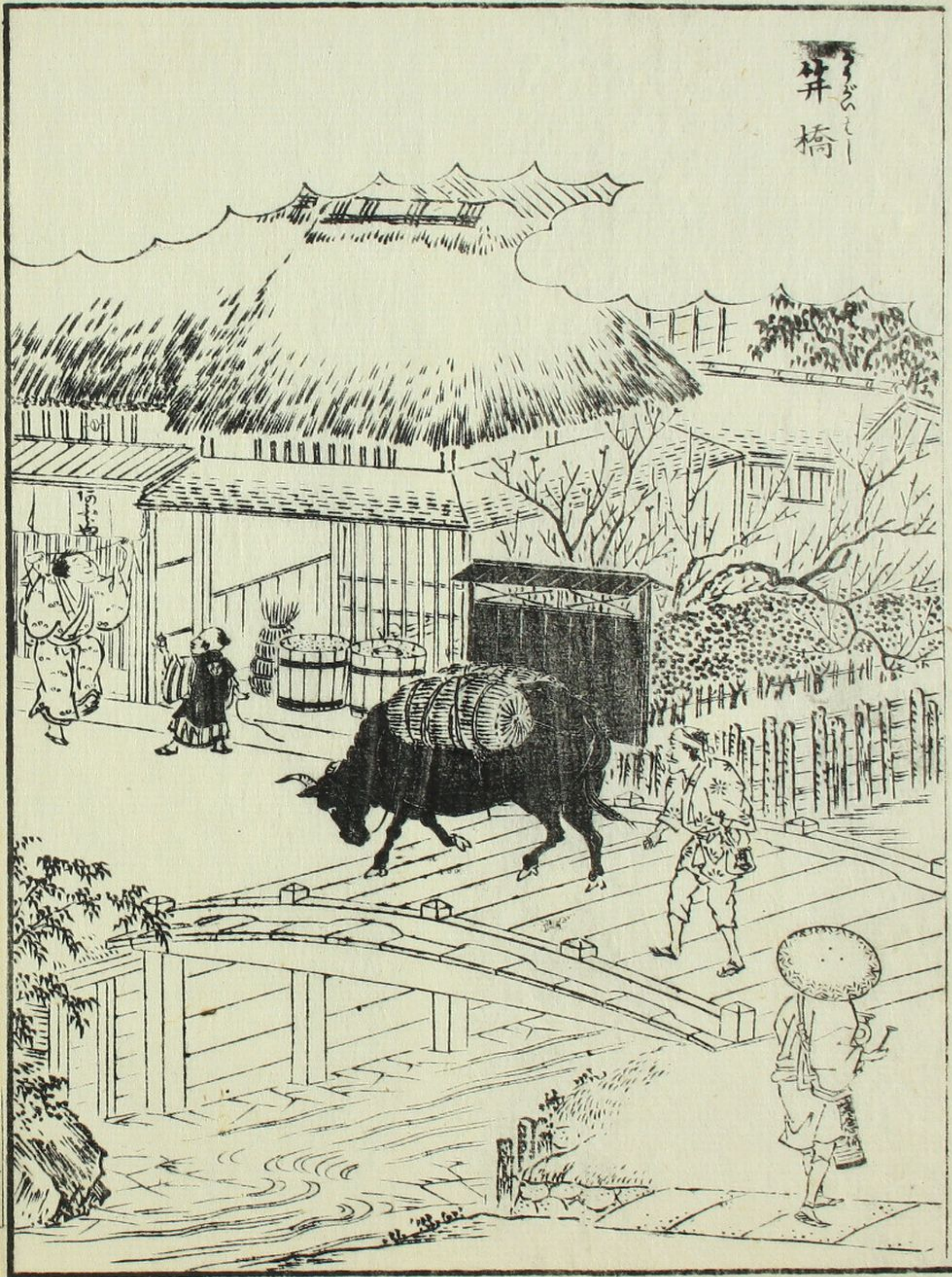




名山
善光寺

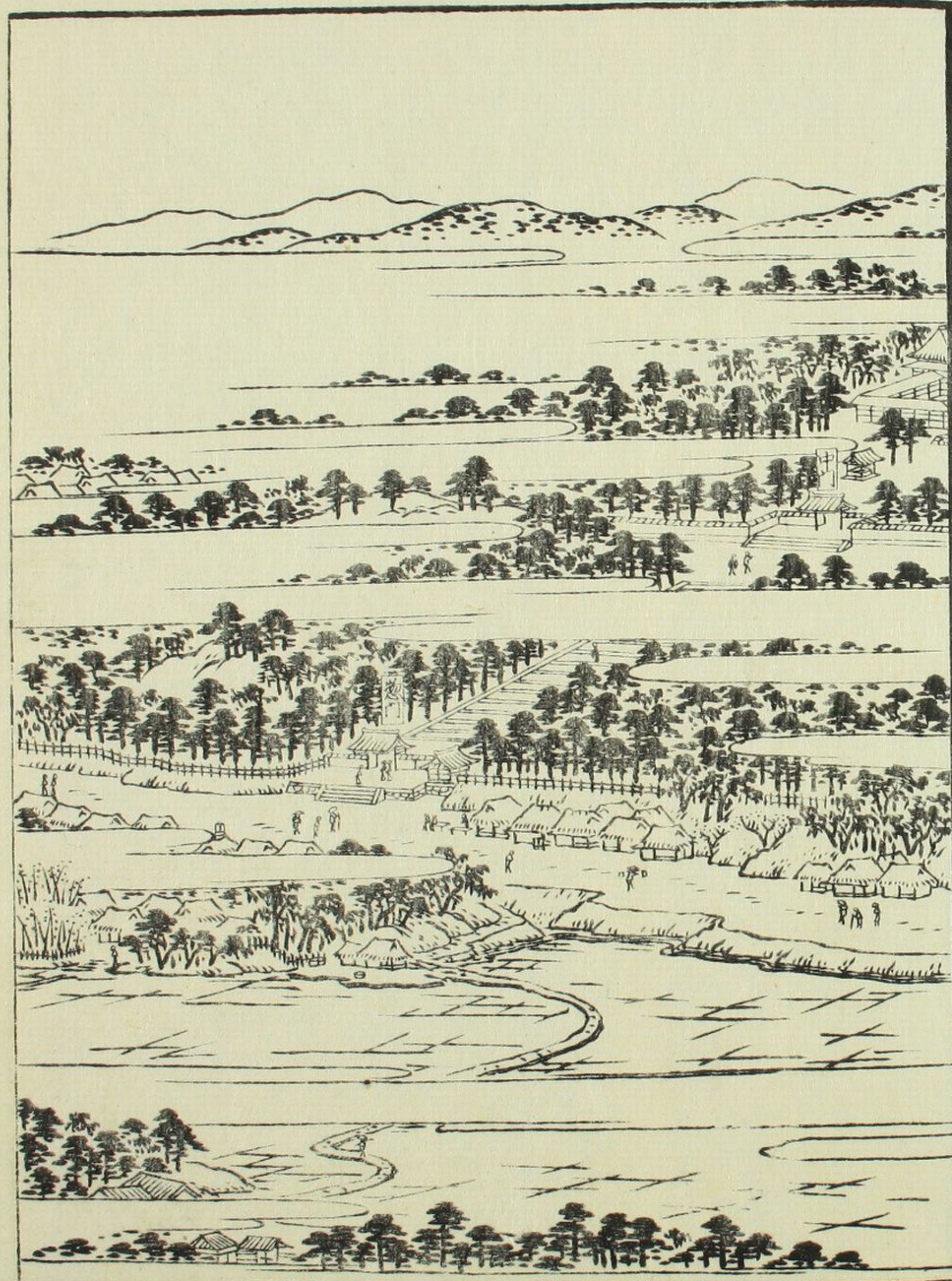


箕橋



土民云此地ハ往古渋谷重國旧館の跡とも又ハ富民慶福といひ
 一の住跡なりとも

普陀山長谷寺 同所ハあま曹洞派の禪窟中々江戸檀林の
 なる野州富田の大中寺ハ属を本多十一面観音の像ハ和州長谷
 寺の観音の模形中々立像二丈六尺あり沙首の中ハ法丈四寸ハ
 十一面観音の靈像を安置せ則和州長谷寺の本多と同本の樟ハ
 一と同作ありといふを岡山ハ門庵宗開和尚より當寺昔々赤坂
 溜池の上ハあり龍雲院といひと天正十二年甲申此地より
 移し寺号を改むるといふ
 号と寺号と一山口家の香花院よりとたりこれと
 古佛倉 本地の古佛あり希世の靈佛靈神の像を安し庫中に充満せり此
 一縣ありと云世ハ渋谷長者
 當寺境内ハ古杉老松蒼鬱とて常々寂々寥々これハ座禪



寺|谷|長|谷|波|表



公案の爲に便ありき佛目祖風をわくやを勤てよろしく
へくなん

氷川明神社 淡谷川の端にあり相傳ふ右大将頼朝卿の勸清

なりと則此地の産土神中々祭礼は九月廿九日なり此日社前

中々角力を與れを別當八天台宗中々惠日山茶王院宝泉寺

と号を慈覺大師の岡基を築くハ藥師や兼之作者詳

淡谷川寺前を流る此北の端は源秀山室泉寺と云る真言

律の寺院あり閑寂玄隱の地なり道項法如比丘

金王磨守佛正觀世音 上淡谷慈雲山長泉寺と云る禪院に

安置を本寺觀世音ハ運慶の作中々則金王磨寺信あり

靈像なりと云る岡山ハ瑞翁和尚中興ハ不中のと号を

鶴谷 同所ありと云る今あらく傳云建久二年右大将頼朝

卿飼ふ所の鶴此地ハ巢を作らぬ鶴谷或ハ又鶴澤とも云と

なり羽澤といふも同所ありと云る羽澤ハ花洛妙心寺派の禪宗

朝霧ヶ滝 是も同所ありといふも未だ地をあらはれ里塚あり

昔此地ハ淡谷宗順といふ富民あり女を撫子姫と云り容貌

衆に勝たり一年弥生の頃圓證寺の櫻を看んと云く父母其

女を誘引く彼寺に往くも朝霧といふ可髪ありて姫を

意慕し竟に思を遂げを恨み此滝の下に身を沈めると云

其傍に小き岡あり願山といふも其塚ありと云又東の傍に

圓證寺の旧跡もあり

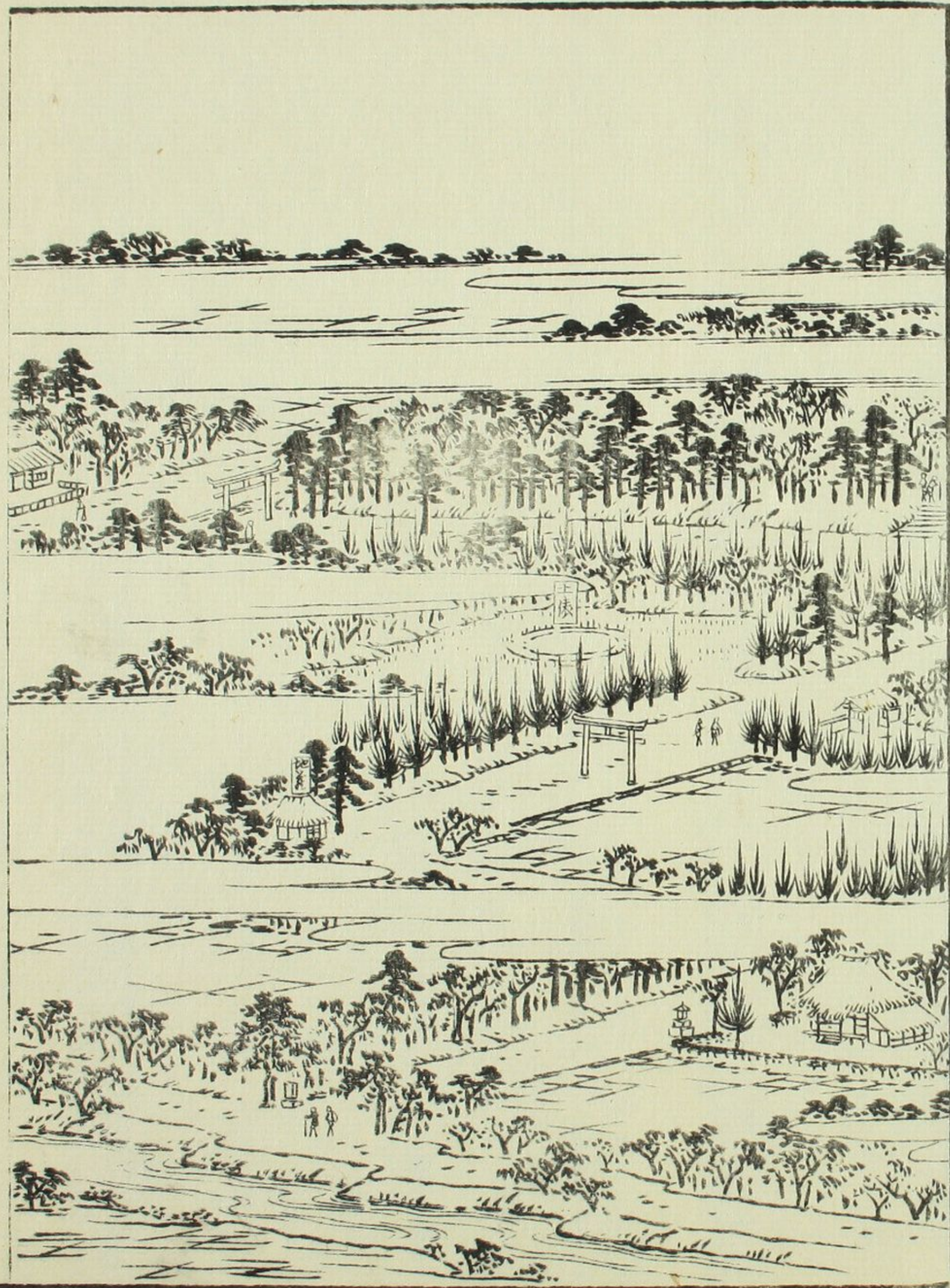
淡谷八幡宮 同所中淡谷あり此所の産土神とを祭礼は八月

十五日なり

本社祭神 應神天皇一座社記ハ此神像ハ上古弘法大師豊前國

山城國鞍馬寺に安置しありと淡谷次郎高勳護持し當社の神祭と

東福寺創建の時彼脚の僧来りて授けしと云り



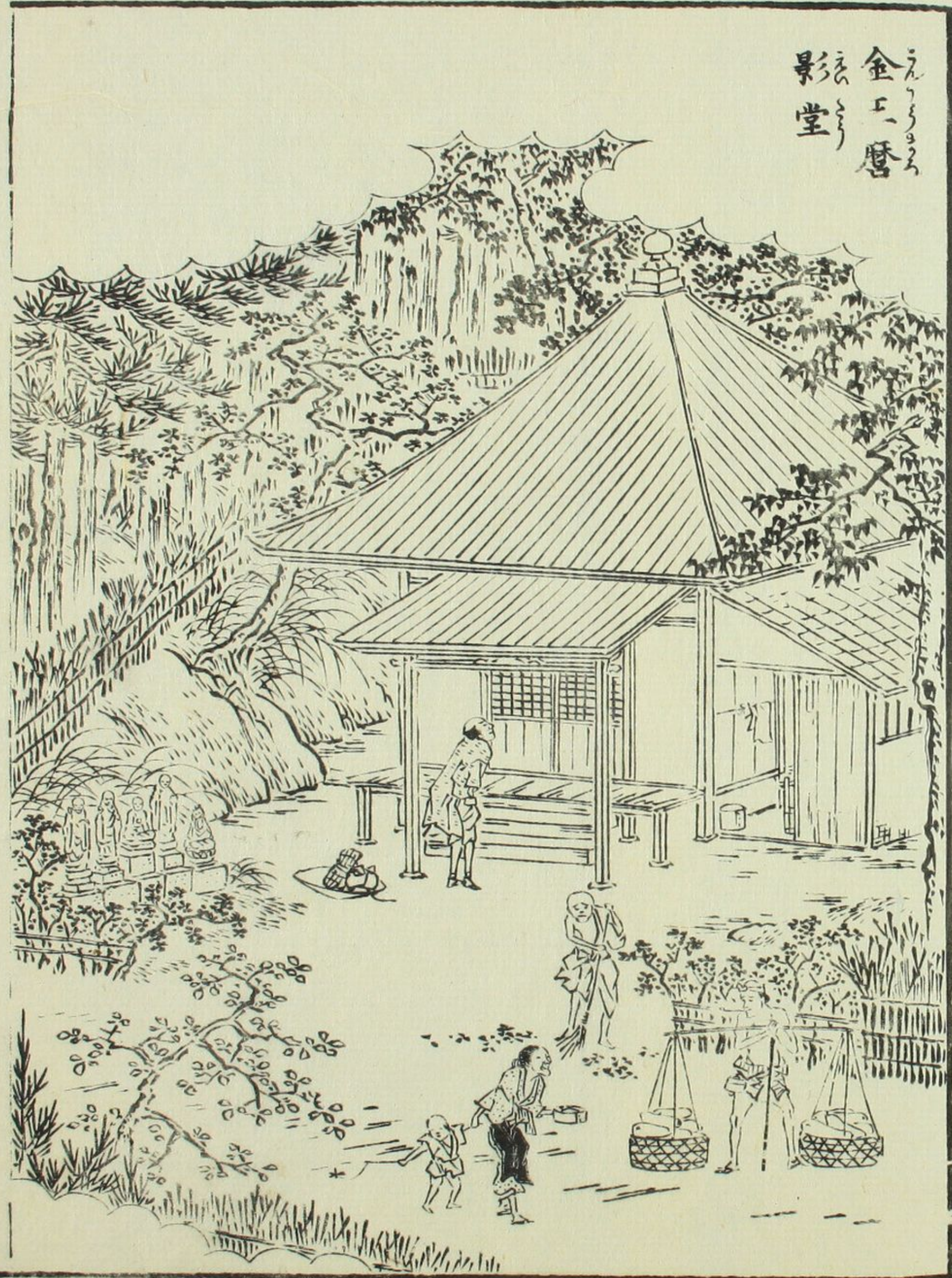
氷川明神社
氷川明神社



えん王金八幡の社



金王磨影堂



地を擇ひ同六年正月始く米邑の地小當社を營建し金王磨近代々氏神と稱し重嚴なりとて別當ハ天台宗中々淡谷山東福寺と号に相傳ふ六孫王徑基の閑創にして昔ハ親王際と呼しあり閑山ハ圓鎮僧正と号す養和元年百十一歳中々化寂ありしと云云

金王磨影堂 同所向ハ側叢林の中ハあり八幡宮社記云く金王磨十七歳の時主君義朝の命により鎌倉ニ赴く頃其母別と惜之悲歎の涙ニ沈む依金王磨自ら姿を造りて母

堂の許小残しとめらると云云 其像ハ鐵衣ニカと
 按ハ金王磨祖先ハ高望王より五代の後裔村岡五郎良文ハ曾孫義父別當武基の子同十郎武綱其子と六郎基家とて此時中至を始て淡谷を以て此社とす同く一子重家河崎平三大夫後從五位下小任し土佐守と云爾カニシテ當社ハ楠宮ニ祈請しより永治元年一手を以て八月十五日に生る金剛夜叉明王の化身ありし靈ありとて上下の文字を借用ひて金王磨とハ名保りたりとて一説ハ金王磨ハ庄司重國の子ありしとて時代違へり似たり保元物語と云く考ふハ金王磨ハ左馬頭源義朝ハ化し童子ハ度々みりしとあり願ふ大功の節なり義朝平治元年ハ大佛説經亦信賴みりしと云ふ

淡谷下郷所濟乃重等所被免除也云云

河崎庄司次郎高重宅舊趾 同堀の内あり土俗傳へ云此重國ハ
違論のありあり六郷の河崎へ引移るを其頃此地ふあり
山王の社とと彼地へ引りりり其旧地は稻荷の叢祠を残り
留りりりり

姉尾平次左衛門光景旧館地 是も同所あり今も光景馬と冷
たりとりりり小池あり早魁ゆと潤りありあり霖雨中も溢りり
なり常は岩間ととりりり清冷りり傍は駒繫擾と称りり
あり光景愛せ安達粟もとりりり駿足を繋りりり水を飼ひ
りりりりり

甘露水 同所ふあり里俗傳へ云天慶年間六孫王経基朝臣此地
旅宿ありり頃此水と搾り味美中りり甘露のめりりりり
ありりりりり名とせりりりり

玉池

同所あり里人云く天文の頃天下大旱早魁一河水ハ
流と絶り池沼ハ平地ハ異ありり時此水涌出りりり常に
倍りりり此里は住り一女子水と掬んりりり水器の中ハ鞠の如
一顆の宝珠を得りり玉精其女子ハ託りりり云く是ハ古れ八幡
宮の神器なり大永の兵火とさけりり此井中あり直ハ神祠ハ
収むりりり依里氏大ハ恐れ謹りり是を神祠ハ収むりりり
此宝珠今淡谷ハ幡宮ハ収むりり此故ハ玉の井とも唱りりりりり

神水

八幡の西あり相傳りり往古空鉢仙人此谷ハ入りり不老
長生の仙丹と煉りりり靈泉なり故ハ神仙人谷とも云りりり
鉢山とのりり法道仙人の鉢此ハ自ら飛来りり故ハ号りりり
りりり

富士見坂

淡谷宮益町より西へ向ひりり下る坂と云斜ハ芙蓉の
峯ハ對りりりり名とも相模街道の立場中りりり茶店酒亭



富士見坂一木本松



あり麓の小川に架せる橋をも富士見橋と名づけしを
相州街道の
中坂の敷

四十八ありとあり此富士
見坂ハ其首ありとあり

道

玄坂 富士見坂の下耕地を隔て向ふ方西へ登る坂をいふ

此坂と登りて三丁程ハ岐路あり直路ハ大山道中ハ三間茶屋あり登りて
渡りて二子の渡へ通す右へハ駒場野の所用を發の前通北澤淡島への

世田ヶ谷へ行道あり 道元或ハ里諺云大和田氏道玄ハ和田
義盛一族なり建曆三年五月和田の一族滅亡ハ其殘黨

此所の窟中小隠れ住て山賊を業とを故ハ道玄坂といふなり

東鑑 廿一云 建曆三年 癸酉五月二日壬寅和田左

右衛門尉義盛率三衛門尉常盛同子息新兵衛尉朝

者嫡男和田新左衛門尉義秀四男和四郎左衛

盛入道三男朝夷名三郎義重男和四郎左衛

門尉義直五男同七郎兵衛尉義重六男同六郎兵

衛尉義信七男同七郎兵衛尉義重八男同八郎兵

古郡左衛門尉保忠七郎兵衛尉義重八男同八郎兵

重政同尉重忠七郎兵衛尉義重八男同八郎兵

左衛門尉實忠七郎兵衛尉義重八男同八郎兵

三郎景盛同七郎兵衛尉義重八男同八郎兵

景家大田五郎政直尉義重八男同八郎兵

下中田四郎左衛門尉義重八男同八郎兵

盛重被討取父義盛年六十七歎息於今者願合戰無

益云揚聲悲哭迷惑東西遂被討于江戸左衛門尉

能範所從云同男五郎兵衛尉義重七人共伏誅朝夷

名三郎義秀三郎並數等出海濱棹船赴安房國其

勢五百騎左衛門尉新岡崎余一左衛門尉常盛四二山内

先次郎左衛門尉和田新兵衛入道以上大將軍六人遣

郡左衛門尉和田新兵衛入道以上大將軍六人遣

戰場逐電云云

概大和田大和和統三浦一族の中ハ大和和統三浦義連大和和統三浦義久子息義成

治兼四年八月廿二日三浦次郎義澄同十郎義連大和和統三浦義久子息義成

和太太郎義盛同次郎義茂中畧三浦と出く糸向とあり或人云道玄と

洲江中此地ハ昔一字の寺院あり道玄寺と稱し故ハ坂の名ハ此

來りてと云ふなり

道玄物見松道玄坂を登りて七町あり西の方同一街道大坂

と云ふ此方右側小あり一ヶ明和の頃枯りしハ伐りて

と云ふ其の圍五々程あり根あり三文と云ふと上ゆく東西へ廿間をゆく南

北へ十六七間をゆくは枝なりと云ふ今駒場坂の卜用水堀の傍ハ一採の古松あり

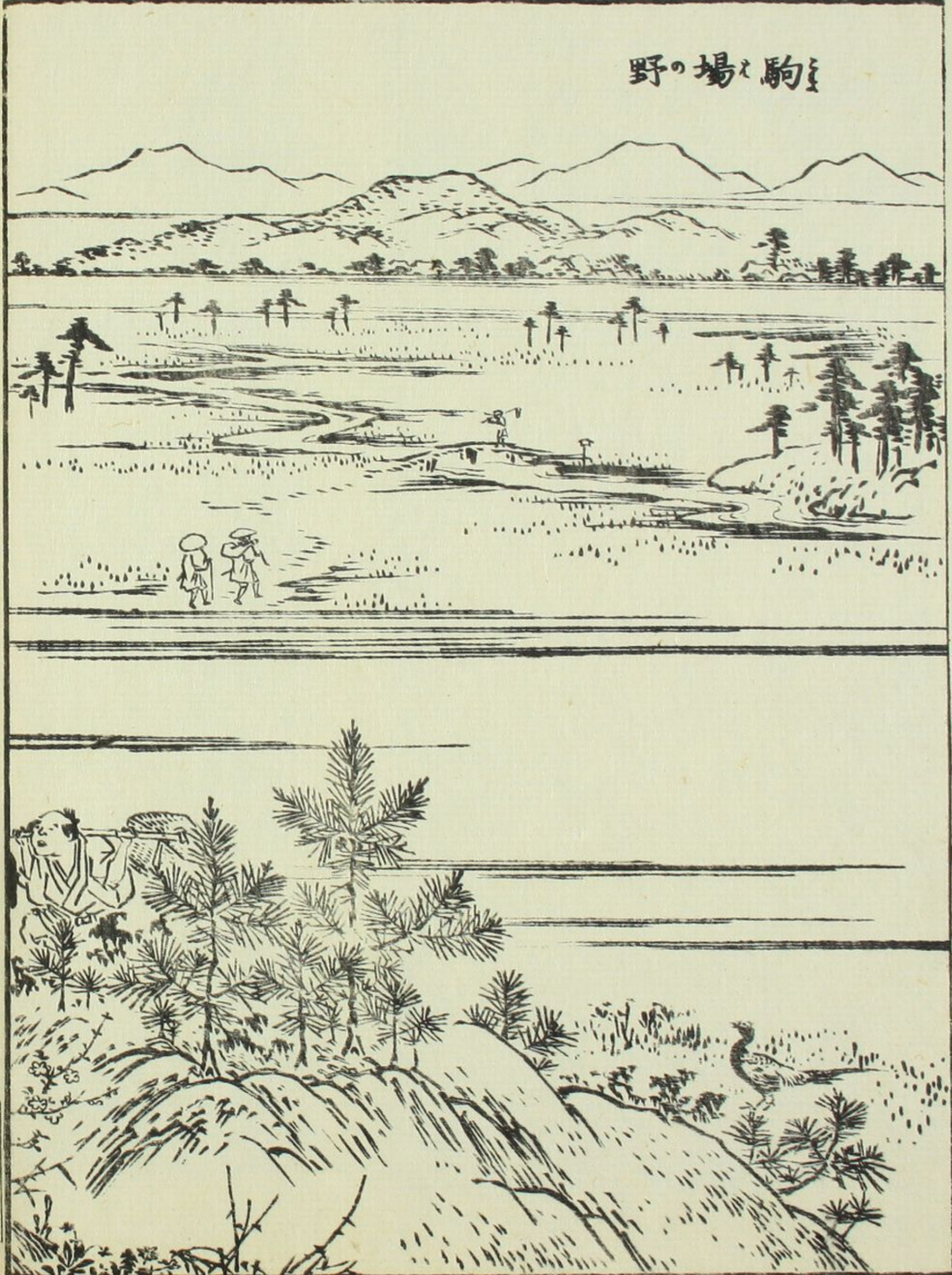
混下やうく道玄松と稱せし一本松と稱し此の松と別

里諺云道玄此松樹を登りて往来の人を見下し小賊ハ命

衣服物の具を奪ひ採りしなりと云ふ



野の場と駒



駒場野 道玄坂より乾の方十四五町と隔てて代々木野

類多く御遊獵の地なり 此地の官林ハ享保の初御狩場ニ定まられ

蛇池 官林の中よりありと云享保三年此地御遊獵の地ニ定まられ

鐘鑄塚 駒場野の中よりありと云方九尺高サ七八尺許なりと云此の寺の鐘也

去我苦塚 別所墓と云地ありと云塚の高サ一丈あり相傳ふ

昔淡谷長者某此辺の人民を語らひ時とて此塚の邊に

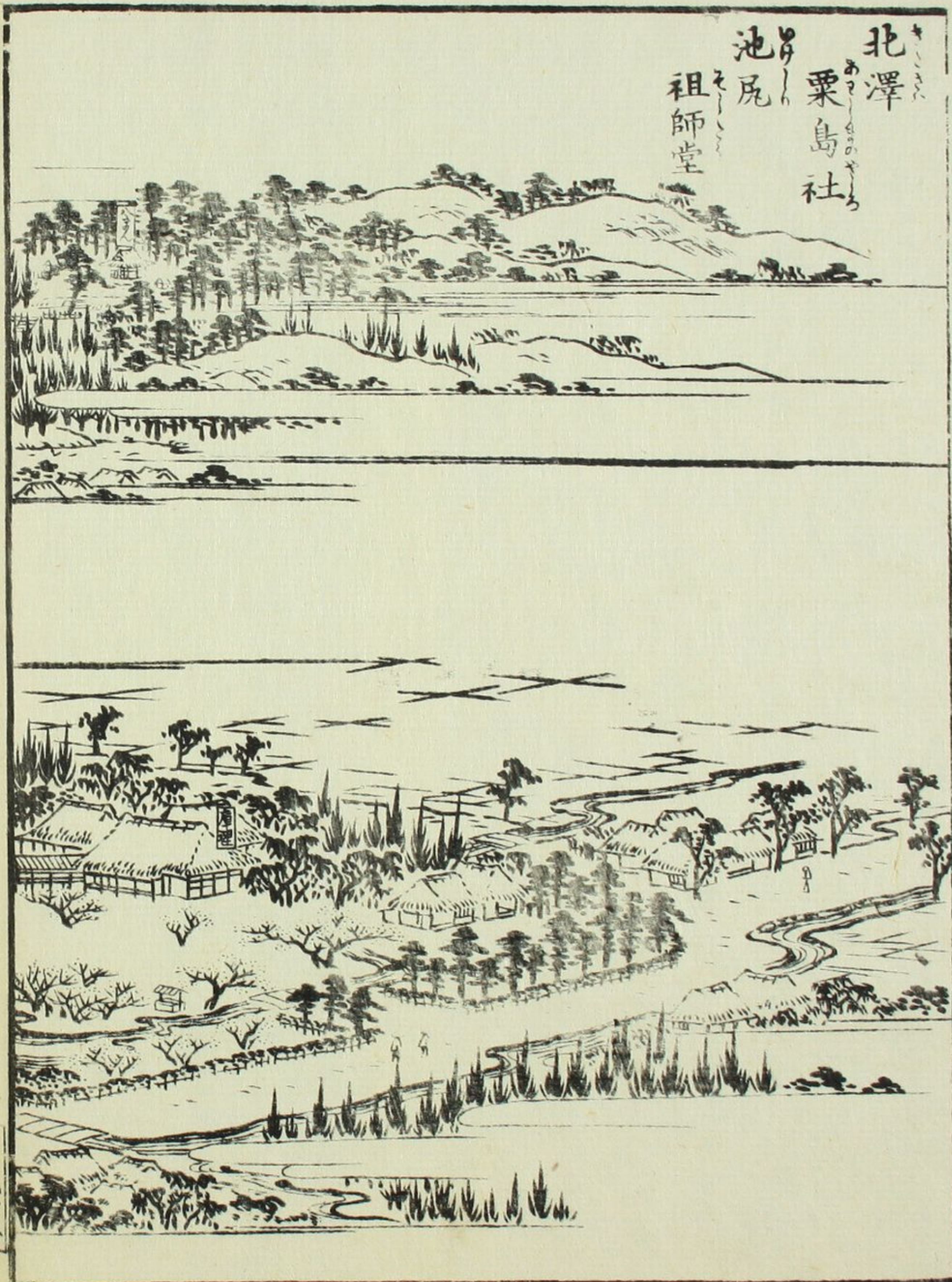
やゝ酒宴を催し歡樂せしふより苦と去の所謂なりと云

土器塚 駒場野の内なる里諺云往古此地奥州街道なりしやを

源義家朝臣奥州征伐の頃此地に至り酒宴あり
土器を後土人等此地小埋り義家朝臣の武功英名を
あつとて土器塚と稱せしと云其塚の側を同勢山と稱ふ義家朝臣
供奉の葦の居たり一曰跡と云 按此地は芦毛塚と稱するものあり其
往古ハ馬なると埋り
駒場野の跡下あり

足毛塚 宿山と小地名小稱ある地の里正金子氏構の内より頼朝卿
乗せし下の芦毛馬の斃れを埋蔵せし一曰跡と云

氷川明神祠 駒場野官林より此方の岡よりあり祭神素盞鳴
命一座天正年間甲州郡内上の原とつる地ありと云加藤
氏 如藤氏の跡下あり 此地に移り住む頃産土神なるものあり
此神を勧請なりと云とて祭礼ハ毎歳九月廿九日執行
天満宮 同所駒場野道玄坂より一町半東の方より相傳ふ



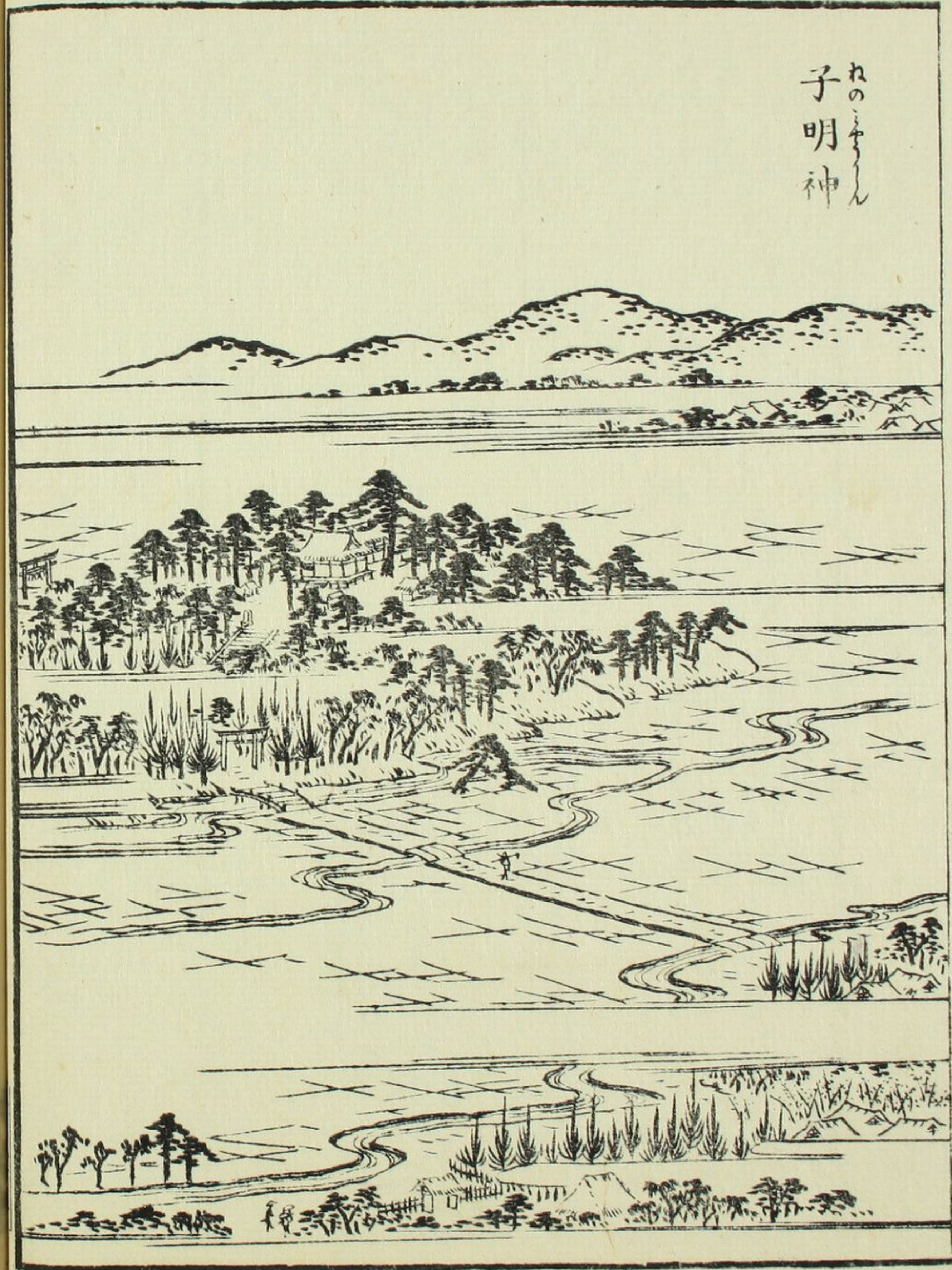
北澤
栗島社
池尻
祖師堂

往古此地の農氏市兵衛との地の地を穿ちて小き壺の中より印子の菅神の像を感得せりとのみ坐像一寸五分故に此地に宮居と營々鎮守と崇むると云昔の菅神の像ハ賊の所ハ奪取せりとのみ菅神の像を宮中安置せしむるに古神跡と堀穿ちて今中川兵衛の山平氏の神ハ入と云石劔 同社地稻荷の小祠ハ長二尺二寸半圍本あり八九寸廻りあり北澤淡島明神社 北澤村八幡山森巖寺とのる浄土宗の寺院浄土宗の寺ハ此地ハ幡宮の別當とあり八幡山の号あり又森巖寺と云清養上人其師萬世上人の遺命を奉り慶長十二年丁未四月當寺を創創し惠心僧都の作の座像一尺五寸の阿彌陀佛を塑せり世田谷大丸の迎至の兩像ハ行基大士の作と云此地西向と産す工品とす同西と稱せり

祭神ハ紀州名草郡加太の淡島明神同相傳ふ當寺
岡山清養上人紀州名草郡の産なり修形成就の後當寺を創創せしむるとのいと常小腰痛の患あり依年月淡島明神の祈願と籠まり夢中靈示ありを以て灸治し終積年の

病病を道れたりとの其報賽とて紀州加田淡島明神の神主小告く此御神と此地ハ勸精なりなり法樂ありと云此故に累世の住僧連綿とて此灸治の法と口授相傳一衆病悉除のる毎月三八の日は是と施せり依灸治と求むると云革遠きと厭はるる此地に至る者少くは祭礼ハ三月十九日と云除劍難日蓮大士堂 同所八町半南の方池尻村二子街道の右側常光院とのみ日蓮宗の寺ハ安置也此寺ハ日蓮上人の開基やて往古ハ研文谷法華寺の南坊ありと云日蓮大士の本像ハ丈二寸二歩あり相傳ふ文永八年辛未九月十二日相州龍口に於て大士殊小伏せんとせられ時刀尋段く壞の奇瑞ありを以て終に北條時頼の赦免あり誅を遁るる同國依智は移り本間六郎左衛門重連の家に入り重連大士の化とて大士手刻の自像をありんすと乞依自ら此像と彫造ありて重連ハ附属せられりて後故ありとて

子明神



當寺は安置せしむる所の靈驗照くはる故小指人常は絶す

正一位子明神社 二子街道下馬牽澤邑道より左の方耕田を

隔ち丘の上より別當八天台宗宿山村壽福寺より兼帯に

馬牽澤舊跡 同所子明神の前今田畑とある地の旧名なりや

今ハ上目黒世田ヶ谷へ跨り都て上中下と三に分れたる

邑名とあり里諺云文治年間頼朝卿奥州征伐の時波谷

八幡宮へ恭籠あり其時荏原野より東條芦毛の馬を撰

んで献せしれんと此地を牽れしと云ふ蹟とあり是を

止られしと云ふ或云頼朝卿伊狩の時この中より乗りあはる馬類は驚き

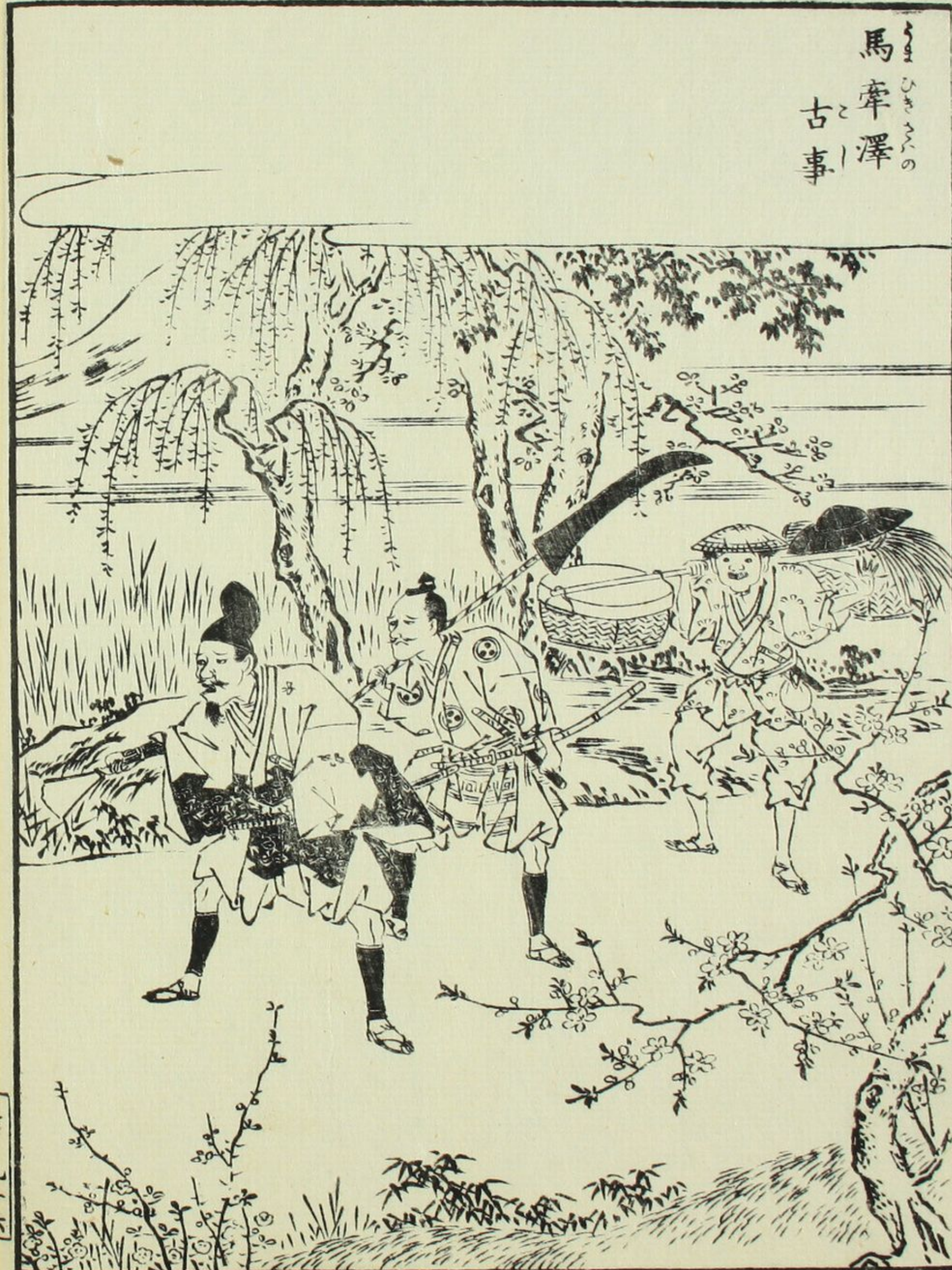
若宮八幡宮 上馬牽澤村二子街道より右の方三丁斗入る小き

森の中あり駒留八幡宮と称し北條相模守時頼朝臣崇徳の

靈像中々神躰ハ一寸五分あり左のぬす小弓を持し



馬牽澤古事



像の背に本牌を建る其牌面は銘する文左の如し

最明寺時頼公守本尊

經塚 駒留八幡宮
北條左近太郎入道成願

奉安鎮所 德治三戊申年十月廿三日

經筒 紫銅中合目とハ銀めて留るものとハ海くもれとも
檜根して銀の跡の存せり圍五寸六分長五寸あり

敬白 八幡大菩薩御寶前

奉如法書寫六部妙法蓮華經

奉讚誦妙法蓮華經一千部

志者為身心大施主現世安穩

後右 南無法界平等利益壽增長

同 德治三本戊申十月廿三日 沙弥見佛

按皇朝年代記皇代記如是院年代記等德治三年戊申十月九日
改元ありて延慶とせしむるありしと將軍執権次第を十一月廿五日
改元とありて延慶とせしむるありしと將軍執権次第を十一月廿五日

田中辨財天祠 同社地あり常盤前此地に崇ると云一説小常盤
前記云當社八幡宮ハ何れ時世の創建なるを云と云

背面ハ左の如く記してあり

香林院 慶海岸實樹大坊
田中辨天之施主 常盤御前御法号也

按上馬牽澤村の隣村若林村小香林寺と云一説常盤寺の禪刹あり其
寺に常盤寺前の靈牌墳墓あり過去帳に香林寺慶海岸實樹大坊
天文四年未七月七日あり香林寺ハ即常盤寺前の所創なりと云

社祀云當社八幡宮ハ何れ時世の創建なるを云と云

社廟傾廢神跡も又ありたり然小天和二年此地に領主

大久保侯藤原忠誠當社を修造せんとして其項徑塚と云

地を穿ち土中一の壺を得る又其壺中小銅器あり

德治三年戊申北條左近大夫入道成願沙弥見佛等の名を

銘し内今存する所の神跡を蓋して又其一箇ハ法華經六部を

書寫し又一千部を讀誦する由銘せり依忠誠當社に修造

常盤橋

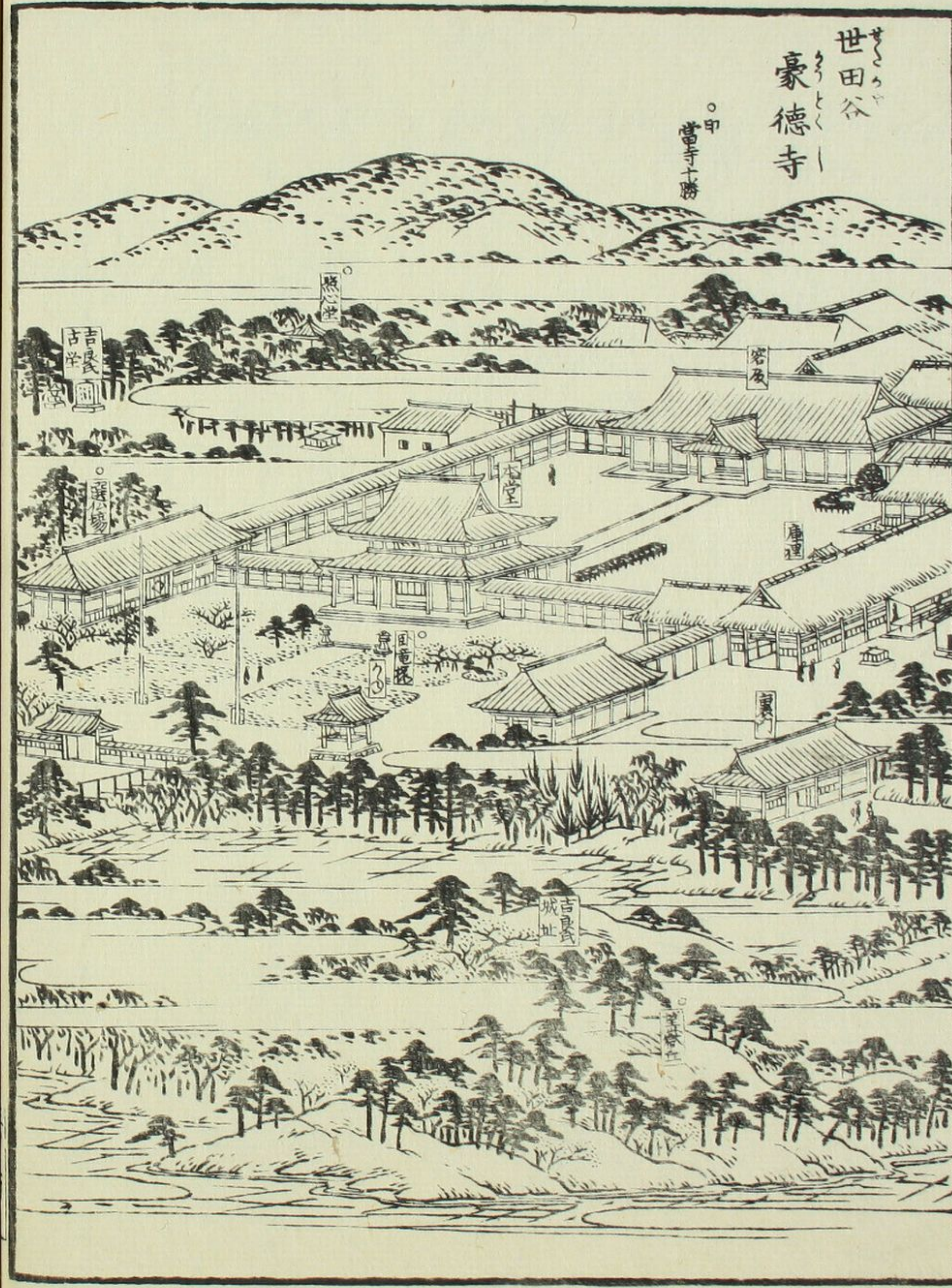
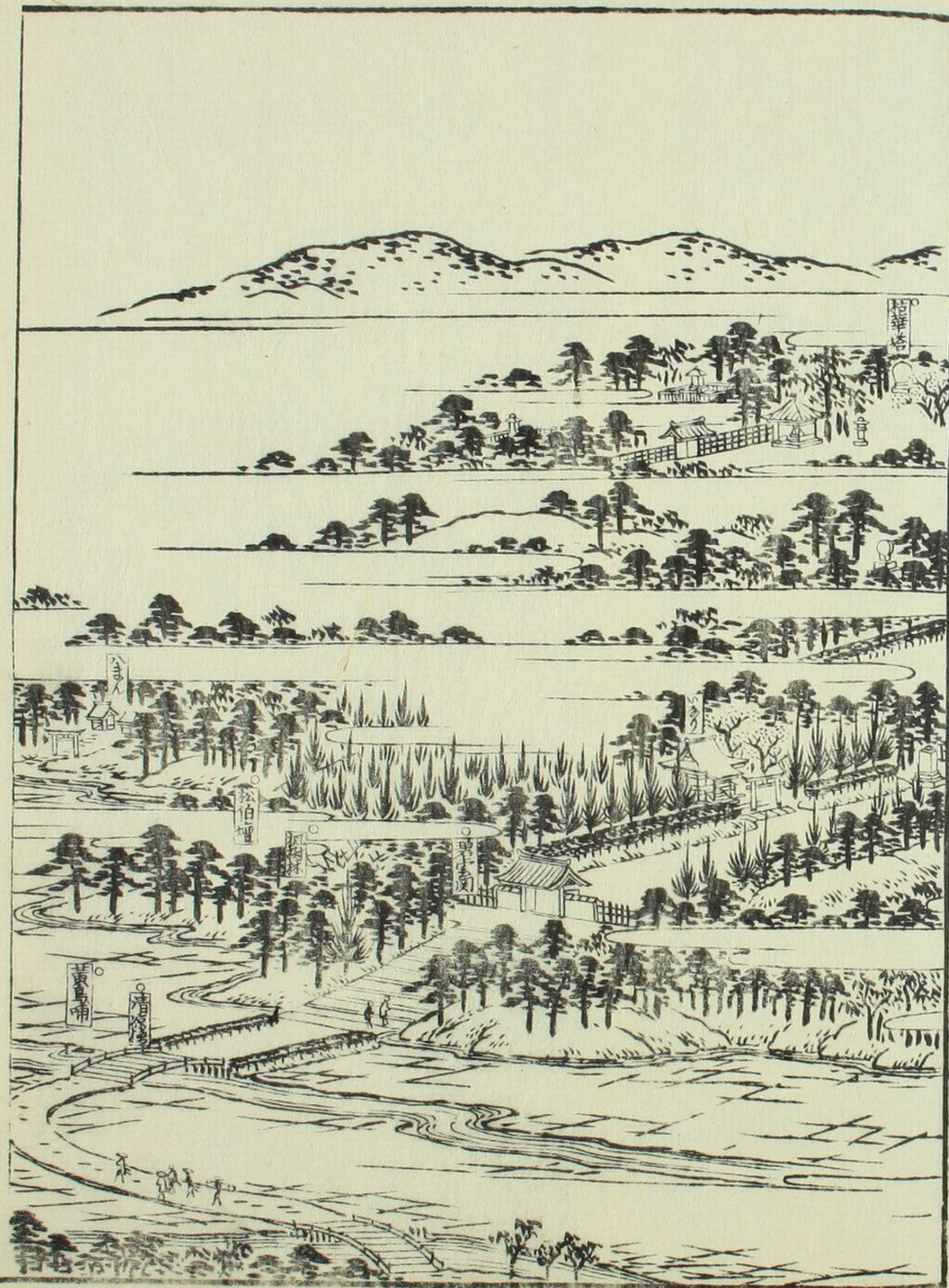


徑營落成の日新ひやうしん法華經六部ほくわきやうろくぶを書寫しやうしやして銅壺どうこ収め社の礎下いしに埋藏まいざうし駿州建徳寺せんしゅうけんとくじの僧隆範そうりゅうはんをしん遷宮せんぐうの式しきを執行しゆぎんせしむるとのよ

八幡山宗圓禪寺はつぱんざんそうえんぜんじ同所どうじよ二子街道ふたこがうの左品川上水ひだりなまがわの上みづの端はたあり當寺とうじハ若宮ハ幡わかしみの別當寺べつとうじなり洞家どうけの禪院ぜんいんあり江戶駒込えとこまごの大圓おほいえん寺じハ屬まゝを本もと多おほく座像ざざうの釋迦しやくぢや如来にがひを安置あんぢせり當寺とうじハ北条きたじやう左近太郎さこんたろう入道にゅうだう成願じやうげんの閑創かんさうあり存應林ぞんおうりん可和尚かおしょう中興ちゆうきやうあり北条きたじやう左近太郎さこんたろう入道にゅうだう成願じやうげんの靈牌れいはい

文保元丁巳年十月廿三日
 當寺開基 心覺宗圓菴主
 北條家孫左近太郎入道成願

長立山常光寺ちやうたてやまじやうかうじ 菘卷村すまきまきむら世田谷上宿せたがはの上しゆくの南みなみあり日蓮宗にっぜんしゆ身延みのぶの末すえあり天正十三年てんしやうじゆんしやう乙酉おつしゆ八月はつげつ草創くささう屯閑基とんかんきハ越後人えちごのひと泉藏院いづみざういん日禮にちらいと号なづか日禮にちらい采雲さいうんの頃ころ此地このち青山氏あやまのうぢの家いへあり此人このひと嗣ついであり



世田谷
八幡社



照心堂

客殿の左林叢の中あり
吉良氏古塋
照心堂の前
石塔並に立一ハ世田谷所
吉良右京大夫政忠朝臣の墓なり
當寺過去帳前
開基同春院殿照岳道也居士文龜二年壬戌六月十七日卒
弘徳院久栄理椿大姉の墓なり
弘徳院ハ當寺過去帳ハ文明十二年庚子十二月二日逝あり

古石燈籠一基

同一墓の前あり
政忠庭中のもの
ありと云世云地藏形これなり

當寺開基碑

佛殿の西に立る寛政十一年の冬當寺十五世靈潭和尚の撰
文あり古吉良家小因ある者力を戮せり靈潭和尚の志を
補助しこれを
立るといふ

碧雲閣

徳門の名なりこれも當寺十勝の一なり
其の黄鳥哺ハ同一門の
左の叢林の中にあつたの梅樹と云松柏壇も又同一方の樹林を名く

清凉橋

徳門の前の小川に架かる橋の
名なりこれハ十勝の一なり

當寺ハ文明年間

或ハ十二年庚子
世田谷所吉良右京大夫政忠
其先吉良治部大輔治家上野國飽間の地あり
伯母弘徳院殿
此世田谷郡を賜り初て移住を夫より後世田谷殿と称せり
過去帳ハ文明十二年
久栄理椿大姉の御おん創建せり
其の精舎なり
庚子十二月二日とあり

直ニ其法号を採く

弘徳庵と号け昌譽禪師を請く
岡山

當社梁牌一枚 當社に蔵を其
文左のこと

天文十五年八月廿日 齋同土月十廿上棟 同廿日 御遷供養道師 鶴岡相兼院法印大和尚位快元
當社八幡宮新建立大檀那源朝臣賴貞 鍛冶奉行鈴木藤十郎有宗 熊澤入道々珙
于時惣奉行江戸振津守法名浄仙太奉行石渡戸新 兵衛常久惣空 番上山井大藏丞 由木内面助 鶴岡兼在 法橋九喜
同松原藤次貞 同善寛院權律師 大工青木右馬助安重

延命山勝光禪院

豪徳寺の前の道を隔て向ふあり洞家の禪

刹中々八王子安下の心源院に属せり本寺ハ虚空蔵菩薩あり

座像二尺計あり 作者不知 建武二年乙亥世田谷所 吉良兵部大輔

源頼氏開創の精舎中々往古ハ濟家の禪宗あり龍鳳寺と号

豪徳寺所蔵吉良系圖ハ左京大夫とあり又當寺ハ相傳ハ頼氏法号ハ興善寺殿

月山清公と号故ハ始當寺と興善寺と号云ハ世田谷私記とあり又興善寺

と治氏の法号とあり又豪徳寺吉良系圖の仲ハ政忠の二男文貞と 鎌倉建長寺の

吟峯龍公禪師開山とあり 文和三年甲午 五月七日崩也 其後天文十五年丙午世田

谷吉良家六世の孫左兵衛佐源頼康 豪徳寺吉良系圖ハ三位或ハ云
左兵衛督と号ハ勝光院殿

中良閑基より然も天文元年癸酉同吉良家七嗣の孫

左兵衛佐後四位下源氏朝 豪徳寺所蔵吉良系圖ハ左兵衛督と号ハ法号と
實相院殿と号ハ茲卷の實相院と建

當寺の号と勝光院とあり又天永琳達和尚 琳達和尚ハ小村村長
寺の住持あり

請く當寺ハ今ノ如ク曹洞派の寺院と也 當寺過去帳ハ延命院殿尚山榮久
居士と云法名と載り疑わらハ

當寺の山号此号あり知るあり然此延命院没卒の年号忌口をあるあり又何人

住家ハ奥州の吉良家とあり 又太郎と号せ一人あり

愛縁薬師如来丈二尺斗本像運慶の作なりと云相傳ハ往古

北条氏康卿の息女崎君常小此靈像を崇信一 天文六年の春

此靈像の靈尔より 蒔田の地わく三千石けり
めんとして漸らうと云 終も永祿元年世田

谷所頼康卿の室とあり 縁記ハ云えたりと云中良の

その中々尤拙文と云疑ふべきなり故ハ其文皆畧

按よ崎君ハ氏綱の女中々氏康よりあり

廣戸備後又三郎正之碑 當寺佛殿の右に正之の産所と云ふ

柳營社稷の臣なり高祖五郎久行江州廣戸郷と管領なる因氏とす永祿十三年己巳召ふ應じて柳當家仕まり後仕と致して世田谷の地は退居し慶長十年壬子十月十二日行年八十八歳中々終る依り當寺に葬せり延宝八年の冬孝孫行隆正武正次等とて立す

吉良氏古塋 堂前左の方あり頼康の古墳も當寺にありとも定あり

鶴松山實相院 登戸通道世田谷元宿の左の裏通弦卷村より

曹洞派の禪林なり同所勝光院に屬せ當寺ハ世田谷の吉良

家七世孫左兵衛佐氏朝岡居の旧跡なり其岡居の号を学

翁齋と稱せしと云学翁齋卒去の後 九月六日卒とあり 其息

頼久當寺を岡創りて法号實相院殿学翁玄誓大居士の

文字を採り寺号を用ひ天永琳達和尚岡山より 或ハ應天和尚と云ふ

本寺阿弥陀如来作詳なり

学翁齋の墓碑境内にあり又當山岡岡鶴松院殿快窓壽溪

大姉と稱する石塔並ひ立し鶴松院何人なるを去りし猶

可尋 氏朝吉良左兵衛佐頼康の養子なり今川の一族堀越治部少輔貞基の次男なり駿州嶺名陸奥守一邦の弟なりといふ

弦卷郷 世田谷より此地ハ昔桑原右京進といふ人の所領なり

由永祿二年小田原北条家の所領役帳より見えしなり

世田谷八幡宮 同所より相傳へ八幡太郎義家朝臣の勸請

なりと傳則此地の産土神なり祭礼ハ八月十五日なり

龍華山永安寺 長壽院と号し天台宗なり東叡山に屬せり

本寺子手觀音ハ惠心僧都の作なりといふ岡山を清仙上人

堂氏 俗姓ハ二階 岡基ハ鎌倉公方源氏滿朝臣なり中興岡山ハ兼海

法印 俗姓石井 同中興岡基ハ石井内匠兼雄法名と良賢居士と号し

龍華樹 堂前櫻樹を号し今枯る 當寺の岡山清仙上人鎌倉大藏谷永安寺の旧地より述し哉 當寺を龍華山と号するも此樹よりあり永安寺の旧跡ハ鎌倉大藏谷瑞泉寺の門外

石井氏移塋碑 本堂北の側より 相傳鎌倉公方氏滿朝臣 左馬次基氏 應永五年十一月四日逝去

あり永安寺殿壁山全公と号し乃鎌倉の大蔵谷に新一精舎を造り直し其法号を採て永安寺と号し建長寺に異芳和尚を請し寺主たりしむ建長寺瑞林菴の開祖あり夫より後満兼朝臣持氏朝臣相継て重修ありし永安寺十一年二月十日持氏朝臣此寺に於て自害せられしハ管領上校憲実其男成氏公永壽王幼稚なるに依り暫く難を美濃國に避り然し嘉吉元年京都將軍の命を奉りて再び鎌倉に歸入りしとて上杉の兩執事良もれハ上を蔑し権柄を争ひ鬪諍遂に止時なく享徳四年六月十六日今川上總介より鎌倉を追補せし當社宮殿民居に至り逆悉く灰燼となり永安寺も又廢れぬあふ於て足利六世の繁昌一時は滅し都會空しく草莽此地となり爰に二階堂信濃守なる者あり持氏朝臣に仕へる不二股肱の臣なり永享の時公の從臣悉く永安寺に入り死す

信濃守一人公の遺命もるありあつと以て俱に死せしむるを免さしとて遁り其後裔孫名ハ某法名清仙と云者あり永安寺を鎌倉幕府世々の墳壘安鎮の地たりし荒亡年久しく兵馬馳走の巷とありと患へて終に再復の願を發し延徳二年三月勝長壽院の門主寺記に持氏の季子とあるの命を奉りて此武州中丸郷大蔵村ハ其名鎌倉の旧地は同一とて回授し禪刹一字を建立し鎌倉幕府世々の神主を安置し寺号をも又永安寺と稱す門主某の功を奉り長壽院と云當持の天正年間當寺第六世良深より以後台密の二教を改り堂宇を修補せ然し其父良賢居士の没後追福のため堂塔を重修し佛殿を莊嚴を是中興開基なり

不動明王画幅妙澤華聖護院道與准后開眼せられし云侍の眼紙中ニ華押を注しあり

御澤和尙ハ嘉慶の頃の人なり。足利三代義満公の時世に當り、大草紙の
妙澤ハ夢窓國師の法嗣なり。不動明王の化身なり。鬼の形あり。好くは不動
の序と云ふ。本朝西暦毎日本一と云ふ。奇蹟あり。お井坊に宿し。これを庇服あり。
十八年道真后東興下向の時、其時徒なり。お井坊に宿し。これを庇服あり。
附与せし。

岡本半助裁許状一通 武藏七黨系圖 古写本なり

永川明神社 大蔵村あり。永安寺別當奉祀せし。祭神五座大己

貴尊素盞鳴尊奇稻田姬手摩乳脚摩乳等なり。祭礼ハ毎年

九月廿一日なり。相傳ふ曆仁元年九月九日宮同廿日始祭祀を修む當地の主江戸氏

此江戸氏ハ桓武平氏の裔良文の流 足立郡大宮の御神を勧請せしと云。此

畷山一族ゆへ北見氏の祖也 唯一宗源の社なり。其後二百有餘年を経く天文年間松井

坊とて山伏奉祀の宮とあり。西郡習合とす。此松井坊ハ武州都筑郡

なり。依て道真崇せし。十一面觀音の像を傳來し。或云永祿の頃、松井坊奉祀

補まの。後田中三河守とつる人 當社昔ハ五所ニ並ひ建く宮居。魏と云

神職あり。再唯一とせしと云。唯此一社のと残れしと云。其の證ハ

し。この頃の頃、うを荒区し。唯此一社のと残れしと云。其の證ハ

別當ニ補せしれし。再び習合の社とす。神躰及い本地佛

等を新ニ安置せし。たりとあり。肯の神躰ハ江戸氏の兜の立物

中ニ黄金の瓶子ニ畠山重忠と銘し。ありとあり。されとも

の頃、失い。今ハなり。とのみ

棟札一枚 當地石井氏の家は傳は棟札は神主田中松井坊敬白とあり

面 哀愍衆生者 永祿八年乙丑正月十九日

武藏國 荏原郡 大蔵村永川大明神第四宮

我等今敬禮 神主田中松井坊敬白云云

裏 再建副願主 長島源太郎 伊丹孫次郎

清水源兵衛 河野大 學

石井玄 蕃

大旦那 石井内近助平兼實敬白云云

武運長久 在屋

大野新兵衛 大工石渡

帶刀先生義賢之墓

大蔵村石井土の内殿山といひ地の東南此見

塚農家清水氏の宅地の傍ありと清水氏ハ清水冠者義高の後裔

清水源兵衛とある則土人ハ大将塚と呼べり

東鑑曰治承四年庚子九月七日丙辰源氏木曾冠

者義仲主者帶り先生義賢二男也義賢者久壽二

年八月於武蔵國大倉館爲鎌倉悪源太義平主被

討亡于時義仲爲三歳嬰兒也乳母夫中三権守兼

遠懐之遁于信濃國令養育之云云

相傳此地ハ義賢居館の旧址なり故ハ殿山の称ありといひ

天明年間此地の農民清水氏義賢の塚をわきまきりて石壁の中ニ其後大永

古乃及び砂金の類を存せしとありと崇めありといひのやく埋蔵しりて

年削石井氏某法名良寛と云一人京都より此殿山の地ニ移り住む

土人云く同所新坂の上神明宮の殿ニ伊田中務大捕兼紀と云人の居跡

大六天の宮あり此良寛の靈と祭ると云或伊田中務大捕兼紀と云人の居跡

なりといふなり

按石井家の先祖良寛ハ武州久良岐郡益利谷の伊丹氏より小田原へ属

一考とて伊丹氏と号せりあり然と徳世丹と田は誤り傳へり云かん

これと中務大捕兼紀と名乗る其家ハ所傳なりと云後世土人傳へ誤る

ものあり又先ハ奉りて水川明神の棟札ハ石井内匠助兼實とありと良寛の

子ハて其子孫今猶連綿と云

大神宮祠 殿山の神あり永安寺より別當兼帯を神木ハ

石井神社 弦巻村より西南の方大蔵村石井氏某の地ハ

郡ニ屬し明暦より己降祭神詳なりハ寛永年間石井氏兼忠社と

多磨郡ニ入たり

舊地 石井土より今の地へ移り稲荷と相殿ハ合祭せり又近世

故あり同兼昌磐井と斎の假名ハ違へとも其訓の相似と云

以て斎稲荷と稱せりといひ土人云當社ハ武蔵國荏原郡二

座の内延喜式神名帳ニ載らるる磐井神社是なりと石の文字

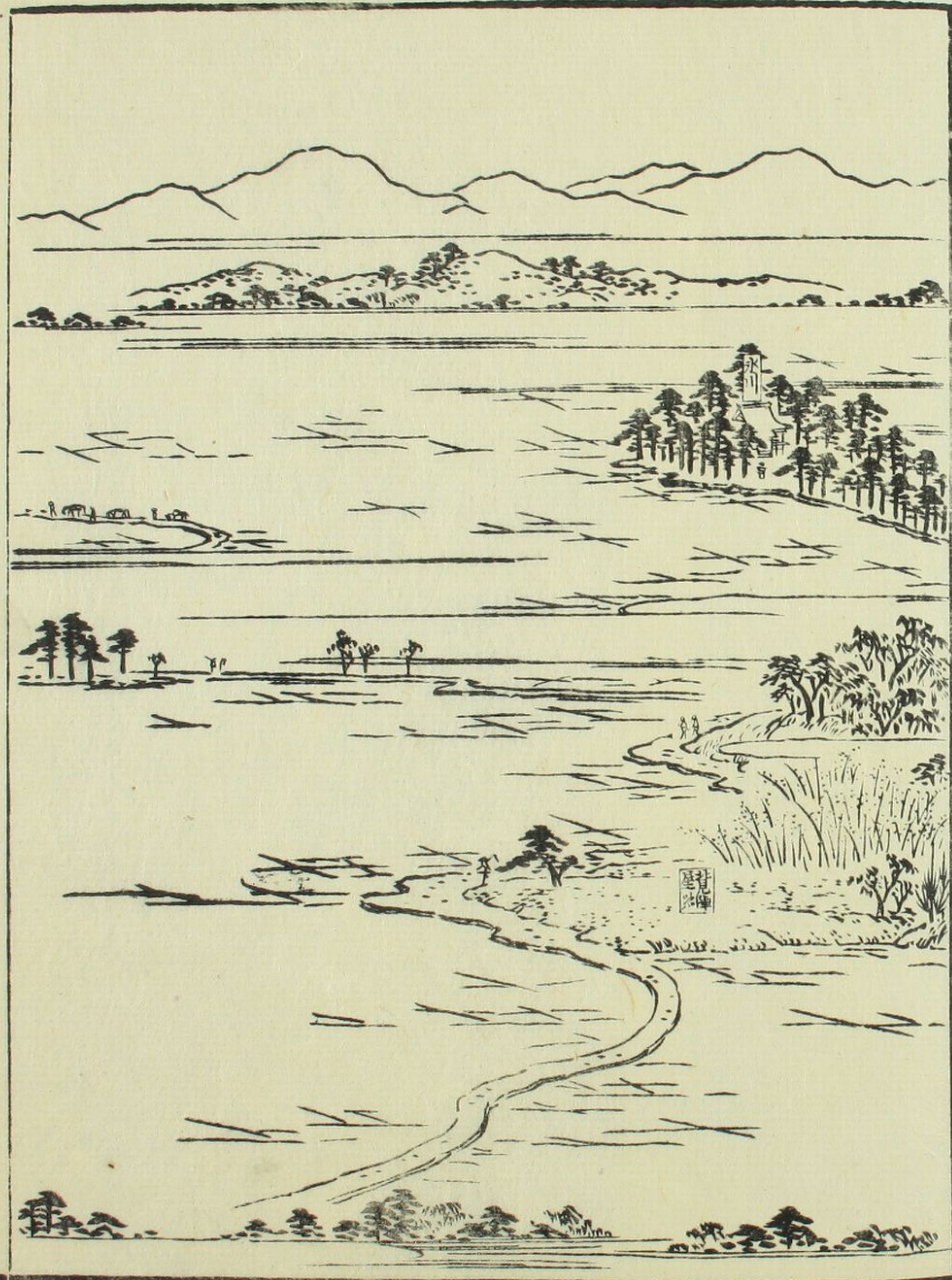
日本紀等ハ伊弉或ハ伊波ともあり一字ニ訓なり土人云磐の文字最筆畫多く

改めりて伊弉或ハ伊波ともあり一字ニ訓なり土人云磐の文字最筆畫多く

その例多し舊地ハ今の社より七八町を隔て同邑石井土谷や

つるふあり其地ハ甘泉あり武蔵國風土記殘編ハ所謂荏

原郡磐井神社の辺磐井ありと記されり則此靈泉ありと



ひくさく
氷川明神社
禱善寺
慶元寺



云云相傳へ往古鎌倉右大将家の幕下安達藤九郎盛長の
孫同出羽守景盛の次男石井石見守兼周その子同左衛門尉
兼章仁治元年庚子執權武藏守経時の吹挙より始る
武州石井郷を賜りて此地に移り住む
石井郷は明暦の頃大蔵邑
今大蔵邑は属し小名とあり今石井神社の旧地と石井土谷と古の郷を
證する又等が満願寺古文書の中弘治二年丙辰十二月十八日吉良左衛門佐
頼康より賜入の文大蔵村年貢四十貫皆納石井戸新開二貫満願寺へ一貫
分と故石井を以て氏と則當社と云ふなり石井氏累世鎮
護の神とすとの

按は荏原郡不入斗村は鎮座よりゆへ鈴の森八幡宮と云ふ社司等ハ式内
磐井神社と稱し又石川中納言豊人脚武藏守は住し荏原郡に在せし頃
中宮大夫從四位上石川朝臣豊人を兼武藏守とも同年七月大蔵郡を
と云然國の守上古八幡中は在せし頃旧史はも當國の府古多摩郡に
あり大蔵村は項荏原郡に屬せし頃多摩郡は接しまた武藏國風
土記殘編荏原郡磐井神社の條下は社近は磐井ありとあり然其地
旧地石井土谷も今多摩郡に屬し然其地磐井ありとあり然其地
成泉浦土と云ふ石井と号く磐井ありとあり然其地磐井ありとあり然其地

八幡の条下と
照合せし

東覺山吉祥院地藏寺と号し大蔵邑の南鎌田村あり天平
十二年庚辰行基大士開創を新義の真言宗とす小杉の西明

寺に屬せり

本堂 本尊地蔵菩薩 立像 長一尺七寸 行基大士の彫像なり

不動尊 同堂内に安置せし良弁僧都の作なり

印子歡喜天 弘法大師の作鎌倉副元帥 七觀音画影 興教大師の筆

當寺盛なり一頃八和寺に屬せし頃久安四年己辰年 覺法親王兵乱を以て
此地より下りて同年中夏の頃より初秋に至りて當寺に宿せし頃一頃八和寺附

あり日輪弘法大師画影 嵯峨帝の宗論の序影なり同大師の真筆

縁起曰天平十二年庚辰行基大士勅を奉りて諸國に伽藍を

造立し其頃當國に至りて然も此地に熟六十を

かり貧女住り幼り地蔵を信し奉りて稱名志すくも

止時なくも供養し奉りて彼貧女一日行基菩薩の心許を

未^レ來成佛の道と問^ハする同十三年辛巳正月廿四日行基菩薩
此地に至^リた多^クひ地藏の像を彫刻ありて^シ貧女と与^テ
曰^ク此地ハ則^チか多^ク有縁の灵地なり汝直^ニ精舎を營^ムむ一^ノ吾
其勝地とト^シて^シ柱杖を以^テ地上^ニ畫^シて^シ是^レを定^ムる^ル今^ノ地
敷^ト云^ハ其^ノ依^テて貧女ハ其^ノ項^ニ世^ニ地^ニ産^ル尼^ニ薙^テ浴^シて^シ寺院建立の大志を
企^テつ^ル小^ノ同郷の富民秦氏某なる人糧財を喜捨^シ田園^ヲ附^シ
これ^ハ精舎僧坊悉^ク落成^シ稱^ス散花梵唄の声絶^スり^テなり
是^レ然^ル建武二年の兵乱^ニ堂宇悉^ク灰燼^トなり^テし^テり^テ己降
年^ノ其^ノ假^ニ草堂^ニ安^シまり^テし^テり^テ遙^クの後世田谷の吉良氏不
測^ノの靈夢を蒙^リて大小崇敬あり^テ寺院再興あり^テし^テり^テ竟^ニ
天正の頃小田原北条家没落の後^ニ吉良氏の家も共^ニ亡^ビたり
し^テり^テ其^ノ後^ニ漸^ニ香花の備^ハれ^テあり^テし^テり^テ今^ハ僅^ニ乃^シ草堂
一^ノ宇を存^スる^ルの^ミ道^レれ^ハ多^クひ^テ恙^ナり^テし^テり^テ後^ニ此^ノ地^ニ住^スる^ル川^ノ邊^ニ氏^ノ某^ノ妻^ノ

觀

其^ノ項^ニ田園等を喜捨^シし^テり^テし^テり^テ奇^ニ瑞^{アリ}あり^テし^テり^テ報^恩の^爲永^世當^寺の^檀那^トなり
音寺 吉祥院あり八町^ニあり^テし^テり^テ西^ノの方^ニ宇^ヲ奈^根村^ニあり^テ當^寺ハ
永^正年間天台の沙門實海^ノ河^越喜^多院^第十^四世^{ナリ}創建^スる^ル其^ノの
寺院^ハし^テり^テ深^大寺^ニ屬^スる^ル本^ノ寺^ハ十一^面觀^音の^木像^ハ傳^教大^師
の^作なり^テ故^ニ寺^号と^せり^テし^テり^テ昔^ハ相^州小^田原^ニあり^テし^テり^テ圓^正寺^ト号^ス
あり^テし^テり^テ更^ニと^りひ^ク寺^号
荒井對馬治義墓 當^寺ニ^{あり}相^傳る^ル治^義天^文中^上野^國新^田村^ニあり^テし^テり^テ
天^正元年癸酉二月十七日没^スる^ル由^碑面^ニあり^テし^テり^テ此^ノ地^ニあり^テし^テり^テ
荒井氏の子孫^今は連^綿と^シて^シり^テ相^續する^ルの^ハ此^ノ地^ニあり^テし^テり^テ

永

劫山慶元寺 華林院と号^ス觀^音寺^{より}七^町あり^テし^テり^テ西^ノの方^ニ喜^多
見^村あり^テし^テり^テ淨^業の^精舎^中に^{あり}し^テり^テ木^机の^泉谷^寺に^屬す
本^ノ寺^ハ阿^彌陀^佛の^座像^ハ一^尺計^{あり}し^テり^テ惠^心僧^都の^作あり^テし^テり^テ
云^ハ開^山ハ^真蓮^社空^誓上^人と^号せ^り當^寺ハ^江戸^遠江^守の^後裔^ト
江^戸刑^部少^輔賴^忠の^子と^江戸^攝津^守朝^忠と^{あり}し^テり^テ此^ノ人^も賴^忠ノ^同
屬^スる^ル賴^忠の^次男^勝重^ト始^メと^云ふ^ル江^戸氏^を改^メ其^ノ來^邑喜^多見^ノ地^名を^以て^シり^テ氏^ト

喜多見若狹守勝重と云く小田原没落の遠遊客となり御當家は居城の地なるを以てちかめて此を改てり勝重の二男喜多見
五郎左衛門重恒其子若狹守喜多見氏建立の寺院なりとのみ
轉政より後其家滅す

天神森 慶元寺の前小高き岡あり 北見氏陣屋 歌枕天神と号し
奇枕の由来 天王を相殿とせり 相傳往古澤庵和尚堺南宗寺ふ

勸請せしれを兼應年間喜多見久太夫重勝大坂あり

項神木の梅樹と共小この地に移し自の園中勸請を天神

森其田跡なりと云神影ハ画像中々古土佐の筆と云後故

あり此地石井兼重の家は傳へ梅樹も又自庭前遷りたり

後兼重の子通兼と云人大藏村の永安寺安置せり

なを故永安寺の神木の善本あり

除地神符 北見村の内宿と云る地小住る農家森藤伊右衛門

某家傳へ毎歳四月八日は此神符を猪人よと小蝮蛇に

敷れり此家至り禁呪を乞へハ忽ち其痛を去毒を消

せり甚奇なり其神符永安祿二年未九月廿日齊藤道善

藤原忠嘉再改之と注したり

普命山禱善寺 華藏院と号同所北の方へ廻り三町餘あり

あり天台宗中々深大寺村の深大寺に属せり 水川明神の別當

坊と号 寺あり昔宮本

本座の像の薬師如来中々二尺五寸計あり脇士十二神將

の像を置り往古江戸刑部少輔頼忠を以大檀那と云 此頼

江戸太郎重長より五代の孫江戸彦次郎

常光の子中々小田原北条家は属す 作者あり

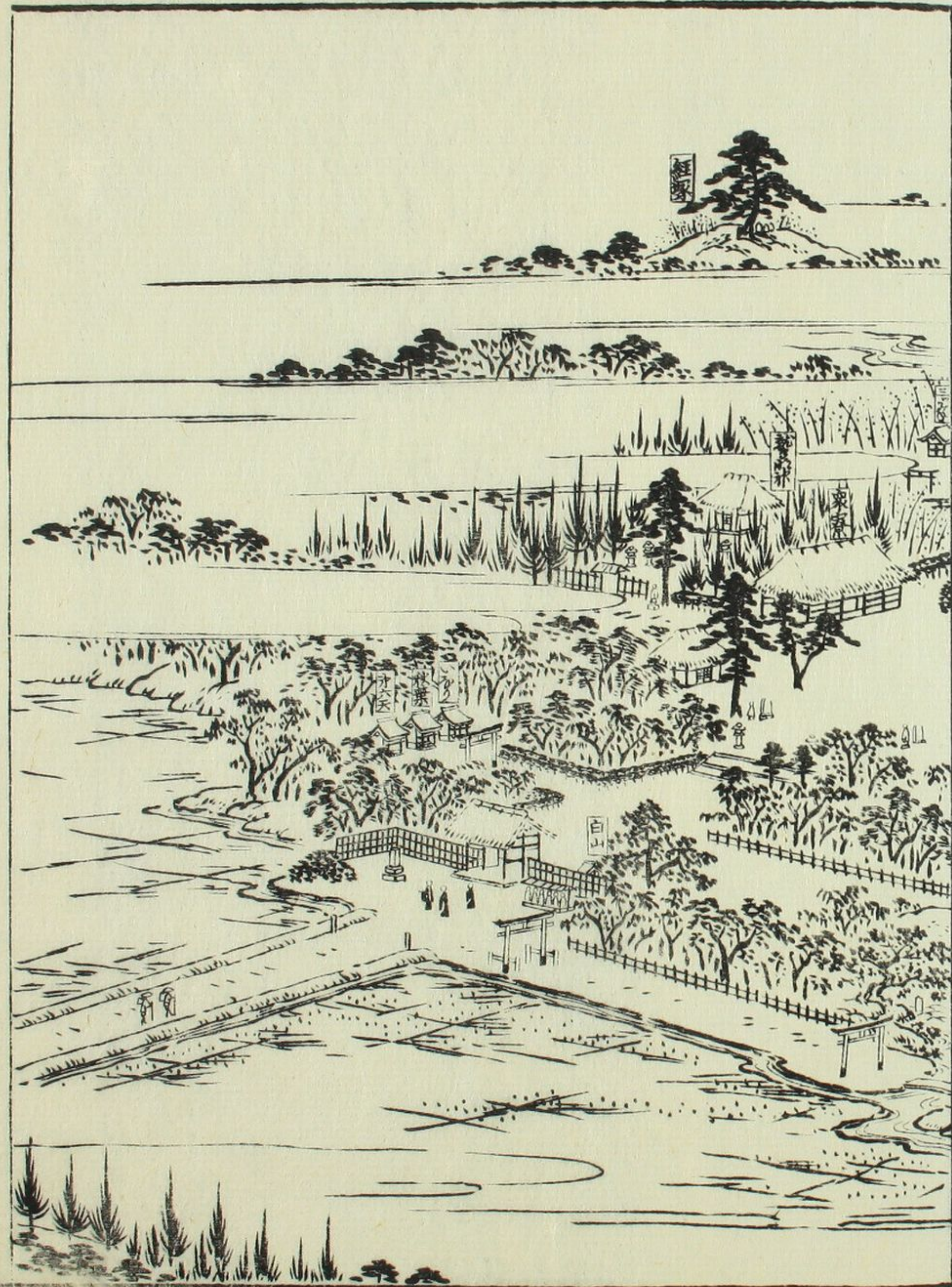
薬師堂 本堂の前左の方あり立像一尺八寸計の本像中々 作者あり

故道俗宿薬師あり 家へ送りまわらせ通宵法施供養あり

水川明神社 同所の左に並み禱善寺別當奉祀を祭礼ハ九月十

八日なり相傳勸請の年歴久遠中々詳ならずと云永安祿十

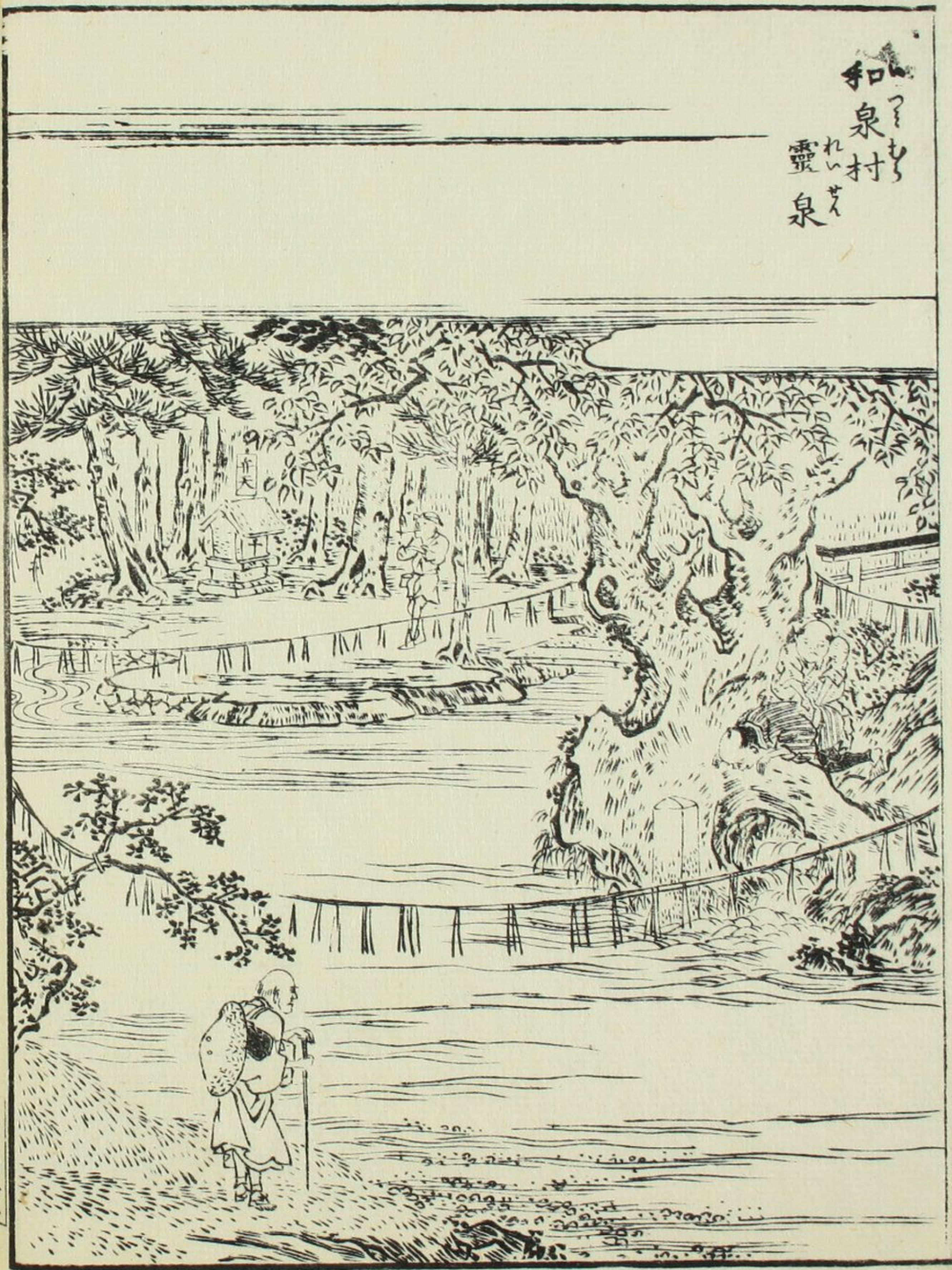
三年庚午四月江戸刑部少輔頼忠社を建立せし頃の梁牌



泉龍寺



和泉村
靈泉



一枚當社に存す
寛永二年己丑五月江戸氏の遠裔喜多見
勝重當社と重載せしとり

深淵銘曰

別當宮本房
聖主天中天 加茂頻伽聲 代官 香取新兵衛
奉再造水川明神社 頭一等宇天道納受依
良愍衆生者 我等今敬禮
大檀那江戸川部少輔頼忠
同背面曰
大工石渡
鍛冶正吉

于時永祿十三庚午歲卯月二十七日
武州下多東郡中丸江喜多見村

石華表 左石柱小兼應三年甲午九月喜多見氏久太夫重勝同五郎左衛門
馬頭觀音堂 華表の右の方にあり喜多見重勝の乗馬の斃れしを
戸遠江守旧館地 水川明神の社地より一丁計巽の方小
篠の根難なるを名づく今ハ除地とす延文三年十月十日

竹澤右京亮と共謀と矢口の渡り新田左兵衛佐義興と
亡したる江戸遠江守是なり其の二巻矢口明神の

雲松山泉龍寺 氷川明神より八町と隔て西北の方和泉

村あり曹洞派の禪刹や相州高座の宝泉寺に属せり

本多釋迦如来の坐像ハ八寸計あり脇士中を阿難迦葉は

像と置くも脇檀は聖觀音の像と安置も良辨僧都の

作ありと云當寺ハ良辨僧都の草創や往古ハ法相華嚴を

兼く大伽藍なりとあり中興を錢斐瑞牛和尚と号に相傳

孝謙天皇の御宇天下大旱暵す依く良辨僧都請雨の

法を修せられ奇特ありく清泉湧かると云即門外南の方

有る靈泉是なり此地と和泉邑と若くは此清泉は又小田原

靈泉徳門に并びて右の方あり觀の樹根より湧か

沸く此池水つる早暵を枯らさく此近里悉く耕

田の用水引とて寺号も此靈泉に依く名付と云

池の島に蛇形の弁天の像と安せし宮居

經塚寺の後の方用水堀と越く良の方畑の中あり少き岡の

印此樹下の古碑にあり一ハ上は梵字を刻し下は六字名号と記し左右の

明應三年壬申六月十日とあり又左は每自作是必何令衆生得入無上道速成

松本山廣福寺 昔ハ稻毛山と号し菅村の内府中往來の

道右の方四町あり新義の真言宗やく三瀆の

高勝寺に属す本多五智めまハ座像九尺計あり岡山を慈覺

大師中興ハ長辨阿闍梨と号安貞元年丁亥

觀音堂本堂は稻毛三郎重成念持佛の觀音の小像を収むるなり此堂中

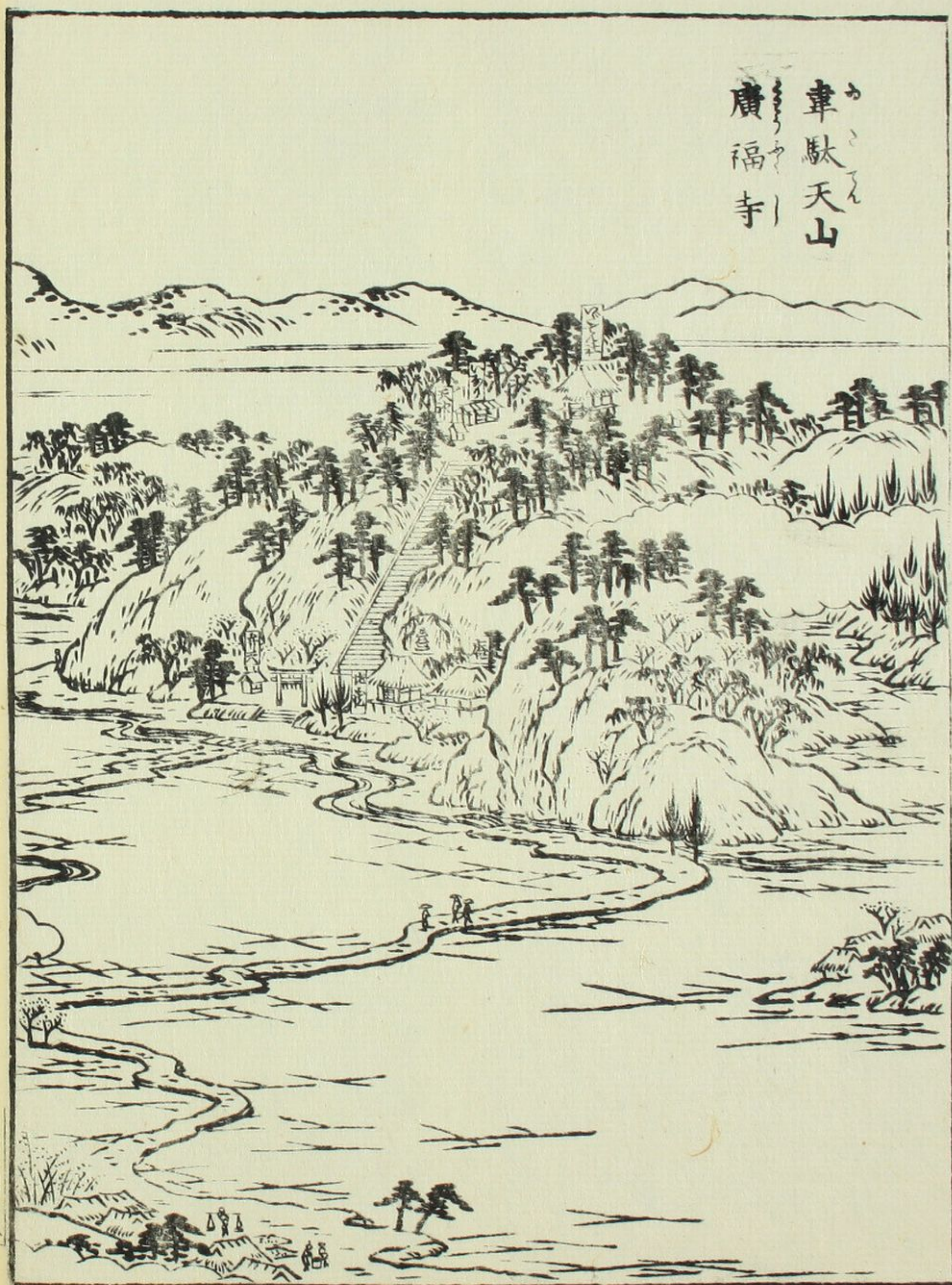
稻毛三郎平重成禪門法名道全

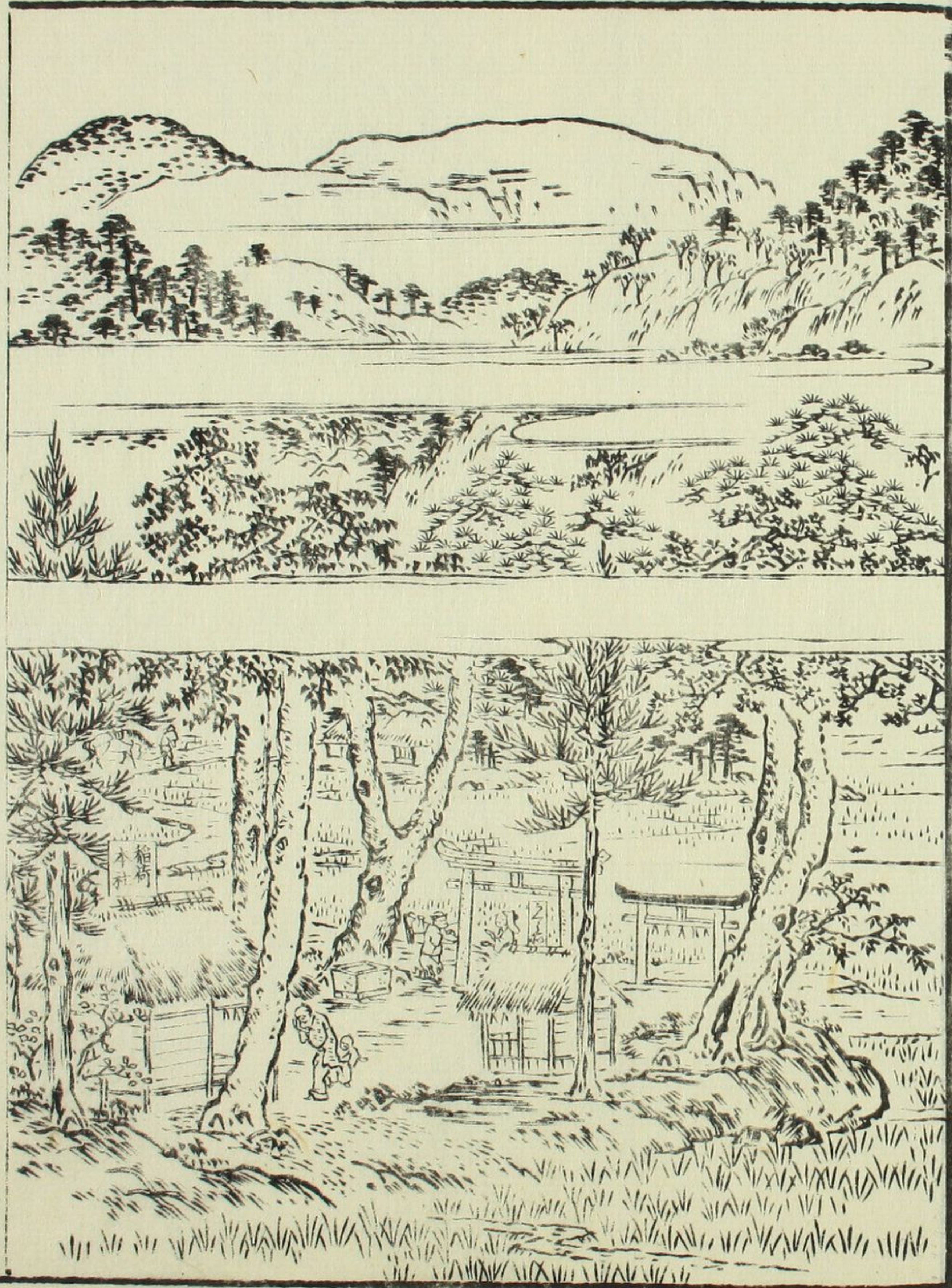
元久二乙丑年六月廿四日

名の上丸の中上羽蝶の
下は一文字の杖と畫す

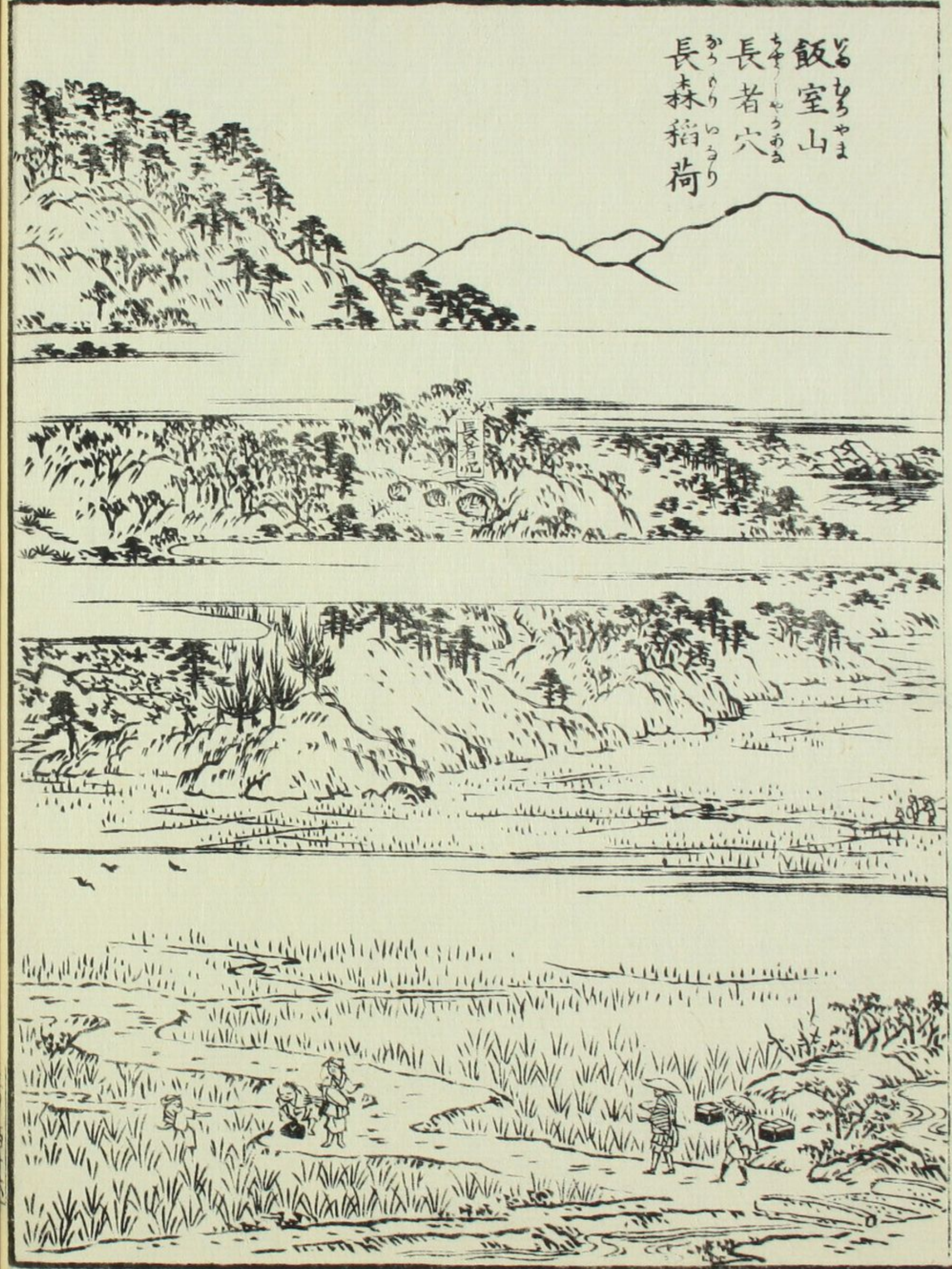


小
車
馱
天
山
廣
福
寺





飯室山
長者穴
長森稻荷



雪ヶ坂



其餘重成の父小山田別當平有重法名寂照同舍弟榛谷四郎平重朝法名諦悟
同朝の榛谷太郎平重秀法名蓮風同小次郎平重秀法名如月一子小澤次郎
平重政法名真悟等以上五人の靈牌ありつゝ元久二年七月三日とある
又同形の靈牌小森五郎平行重法名玄理と注せしものも存せしと没卒の年
月忌日と注せしものも追て考ふべし

按元久二年六月北条時政の室牧の方小山朝政の讒訴を請け重忠父子を
討つしむと計議ありて同日北濱の地獄に山六郎と誅せり同日申刻二侯
何小朝の重忠愛甲三郎季隆を前中として誅せり後小次郎重秀等四郎
郎後等自害せり翌日又鎌倉中發動せり三浦平六兵衛尉謀り榛谷四郎
重朝同朝男太郎重季次郎秀重等と経師の谷小誅せり毛入道大河戸
三郎等も誅せり子息小澤次郎重政の宇佐美与一誅せり由東鑑
えり又按榛谷太郎當寺靈牌は重秀とあり大系図ハ季重は作らざり考
重季と子同小次郎靈牌ハ重秀と一系図ハ季重は作らざり考

一室圓如大禪定尼

建久六乙卯年七月十四日
東鑑注せし靈牌あり寺僧も其人とありて東鑑は因て考ふ即指毛
三郎重成の室なる明けり
東鑑曰建久六年乙卯六月二十八日辛巳指毛三
郎重成妻北条殿於武蔵國病惱太危急之由飛脚
到著下略
書曰同年七月四日丙戌指毛三郎重成妻於武
藏國他界日來病惱頻雖如鶻瘵終被侵風病畢重
成不耐別離之愁頗倦勇敢心忽遂出家云云

稲毛三郎重成墓

觀音堂の後の方山の上あり小き五輪の石塔あり半土中埋れ

當寺境内ハ櫻樹多く春時爛漫故ニ近邑の土人閑花の時を待済く此地ハ宴を催し遅々々々春の日も暮惜く思ふなり

韋駄天宮 廣福寺の前の小路を隔て向の山の中腹あり廣

福寺奉祀まろわしく韋駄天の像ハ廣福寺の佛殿小安

置せり祭礼ハ九月十五日小修りす

按此地の小名を稻の目と稱ふ或人云延喜式神名帳ニ武藏國男余郡稻賣神と云又神名帳頭註ニ稻乃賣神ハ稻田姫なりとあり疑わらるる當社往古ハ稻乃賣社なりと後世稻田姫と韋駄天とを混して誤るる

升形山 廣福寺より南の方の後の山と云稲毛入道重成居城此

旧趾あり山頂八町四方あり升の形状をなす故に号す

重成ハ小山田別當有重の子北条時政前腹の女の聲と云

狭父大夫重弘甥重忠從弟中々頼朝公の幕下小屬と云

稲毛の地と所領とを然ハ重成ハ重忠と日頃不和なるより牧の方ヤ

共ニ時政ニ讒しこれハ元久二年乙丑六月廿二日重忠野心此企

として時政勢を向けく畠山一族を誅伐を重成親族の好を忘れ

重忠を誅害せり天運ハ肖の罪道とて終り和田義盛大

河戸三郎宇佐美与一等とて武藏國へ發向せり同廿四日

稲毛入道父子を誅せり東鑑北条九代記等の書ハ見え

たり稲毛と稱する地尤廣大なり登戸の渡より川崎の辺までの地也稲毛

下野守伯父甥の所領稲毛庄十二郷あり又小田原記ニ信玄江戶を廻りて小田原へ

押寄むとせるとの茶下ニ夫の愛を船せり稲毛の平間と云地へ稲毛

十六郷と追補せりあり又永祿二年北条家の分限帳ニ竹内木月小倉長尾鈴木小

田中成鹿島田端宿中田分鹿島田中村分矢向平間藤屋徑久未長久本小田溝口平の村

高田等稲毛の内と證

臣田島兵部左衛門之房横山式部弘成駒林圖書定朝等皆此地に住

飯室山同所左の山嶺あり山頂ハ七面富士浅間を勸請す

長者穴 同山の東の裾あり入口ハ一間四方あり

同程の巖室ニ川並ひあり土入ハ名義とあり

窟中甚廣く

長森稻荷社 同所四丁計と隔て菅生村府中往来の街より右の
 方蒼林の中より同所日蓮宗安立寺奉祀せり

祭神長森稻荷明神右星夜明神左海光耀明神 以上三神

券族の神長現金狐神渡一銀狐神阿通相狐神阿参玄狐神阿權白狐神以上五神

相傳元祿十年伊豫國宇和島の浪人相馬左仲といふもの

花浴より一頃鳥羽繩手中心一人の美女小逢ふ其美女の云く

我ハ伏見藤森長森明神の臣渡一銀狐神と称せりといふ靈亦

あり翌の十一年の夏四月廿日又神告あるに任せ江戸小至り麻布

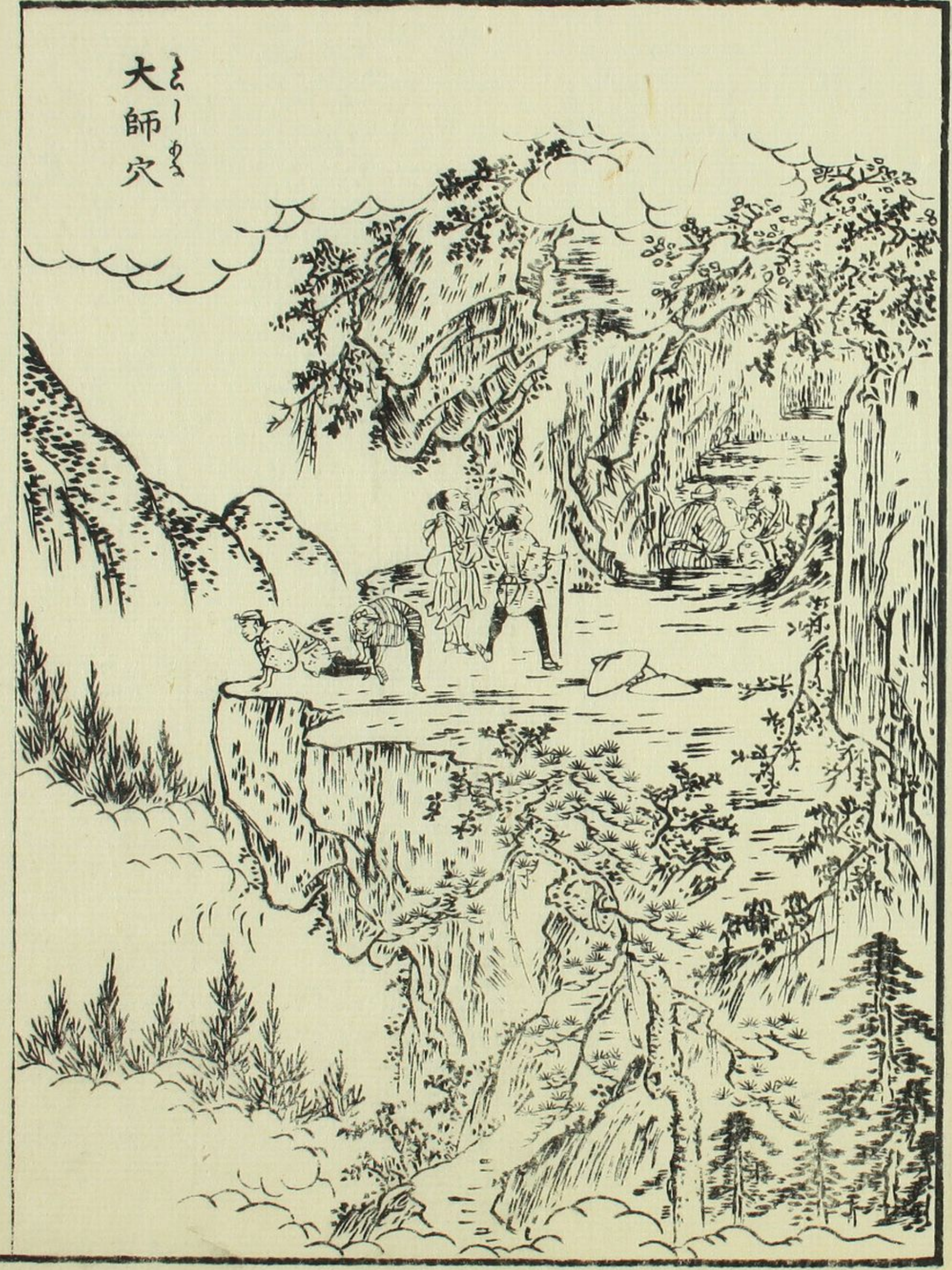
日窪に住る中原与兵衛といふ者の家に勧請なり大小奇瑞

靈驗あり然小正徳五年の夏の頃左仲没するの後一子加藤次と

いふ者此神を譲請る信を終小元文五年十一月安立寺の

主僧日現上人此地に遷すの法華勧請の神とな

せり 中原与兵衛の裔に有偶次兵衛といふ人此神を信し稻穂の銀封の雅等と感得せり奇瑞あり今こゝに安立寺に収めく稻荷の



大師穴

室物

雪ヶ坂 飯室山の南の續より曲折して西へ下る坂路と云登戸の

辺より平村辺への通道なる頗る美景の地なり

薬師堂 長尾村の内二子街道の右側山の上より本尊は薬師

如来の靈像ハ影向寺の本尊と同本なりと慈覚大師の彫造

なりと云秘佛なりと常小拜するなり天台宗同所妙樂寺別當

大師巖室 土人大師穴と称し薬師堂の山の後西向のありあり

入口ハ一間四方をありあり空中ハ二間四方なりと高サも相同し

享保の頃一人の山伏心願のよりありとて断食せし此窟中ハ一七

日の間籠りたりと云信するものなりと大師と称する所謂ありあり

今窟中は青石の古碑四五枚あり

五所権現社 薬師堂の南の山續より祭神詳あり神躰ハ

何れも座像なりと文七八寸なりと鳥帽子を冠りぬるもの或ハ

僧形のものありと都て五躰なり荒木彫り古物あり毎年

正月二日 桃樹の枝を伐て弓と箭を放り旧式の祭事あり

杉山明神祠 相州厚木街道溝口の驛より左より入て十六町より

南の方久本邑より上りの宮と称するハ別當龍基寺天台宗深大寺に属す

毘沙門堂の作ありの西の山續より其間一町を隔つ下此

宮も同一寺の堂の左の方石階の上より祭神詳なり

又當社ハ延喜式内同國都筑郡星川邑鎮座の杉山神社の

摸ありと祭礼ハ九月廿九日なり此社ハ觸穢の者請れハ必災

稻毛薬師堂 野川邑の内府中往來の道より三丁計西よりあり

醫王山影向寺と号し天台宗多摩郡深大寺に属す聖武天皇の御願なり

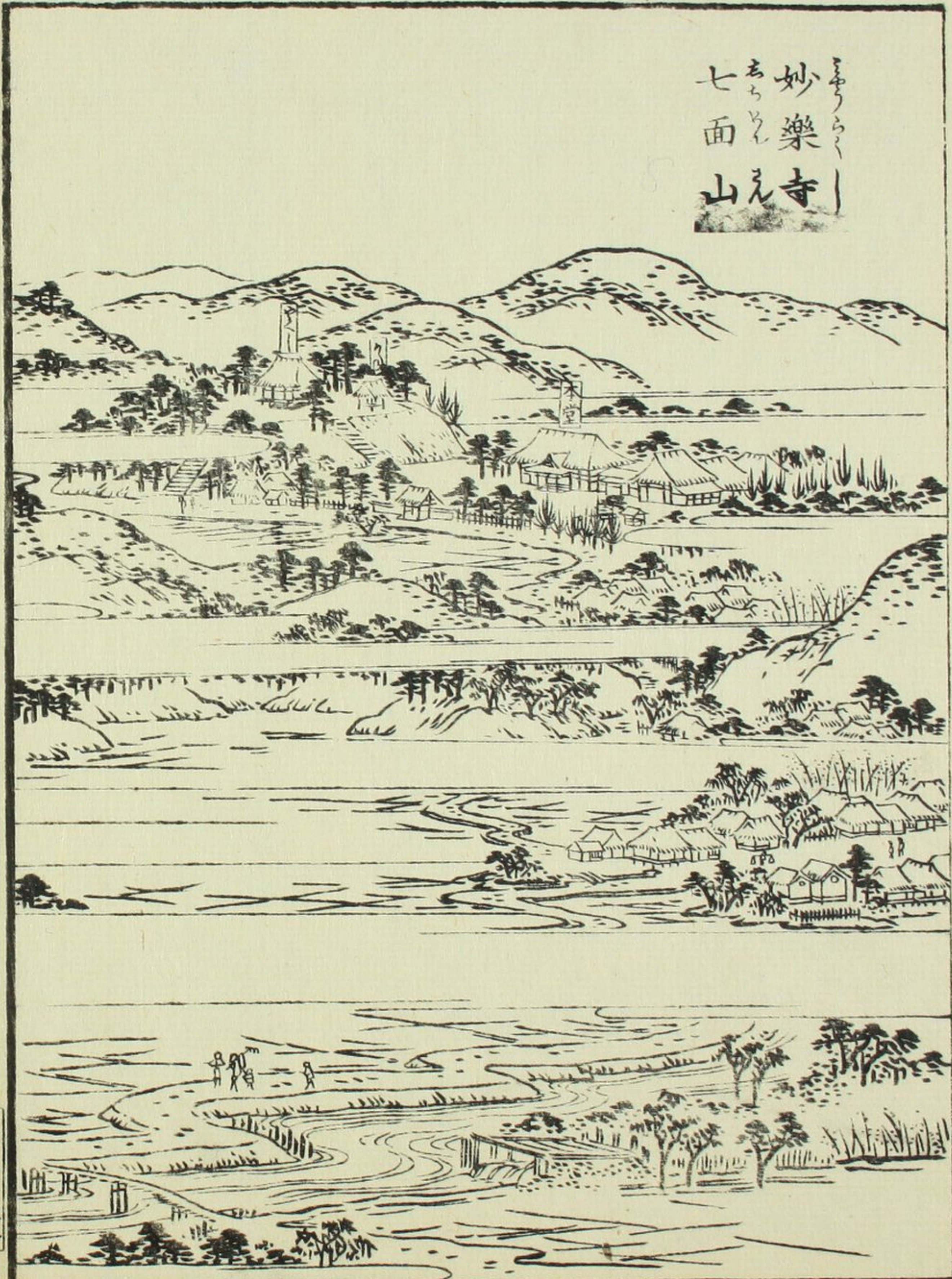
行基大士開基と其後文徳清和兩帝御再興ありと慈覚

大師修造せり三帝の勅願兩大師構營の靈場なりと利益

著し此故ハ上古ハ僧坊百三箇寺九院ありと盛夜仕候しとも盛大の寺院ありとも



七面山
 妙樂寺
 七面山

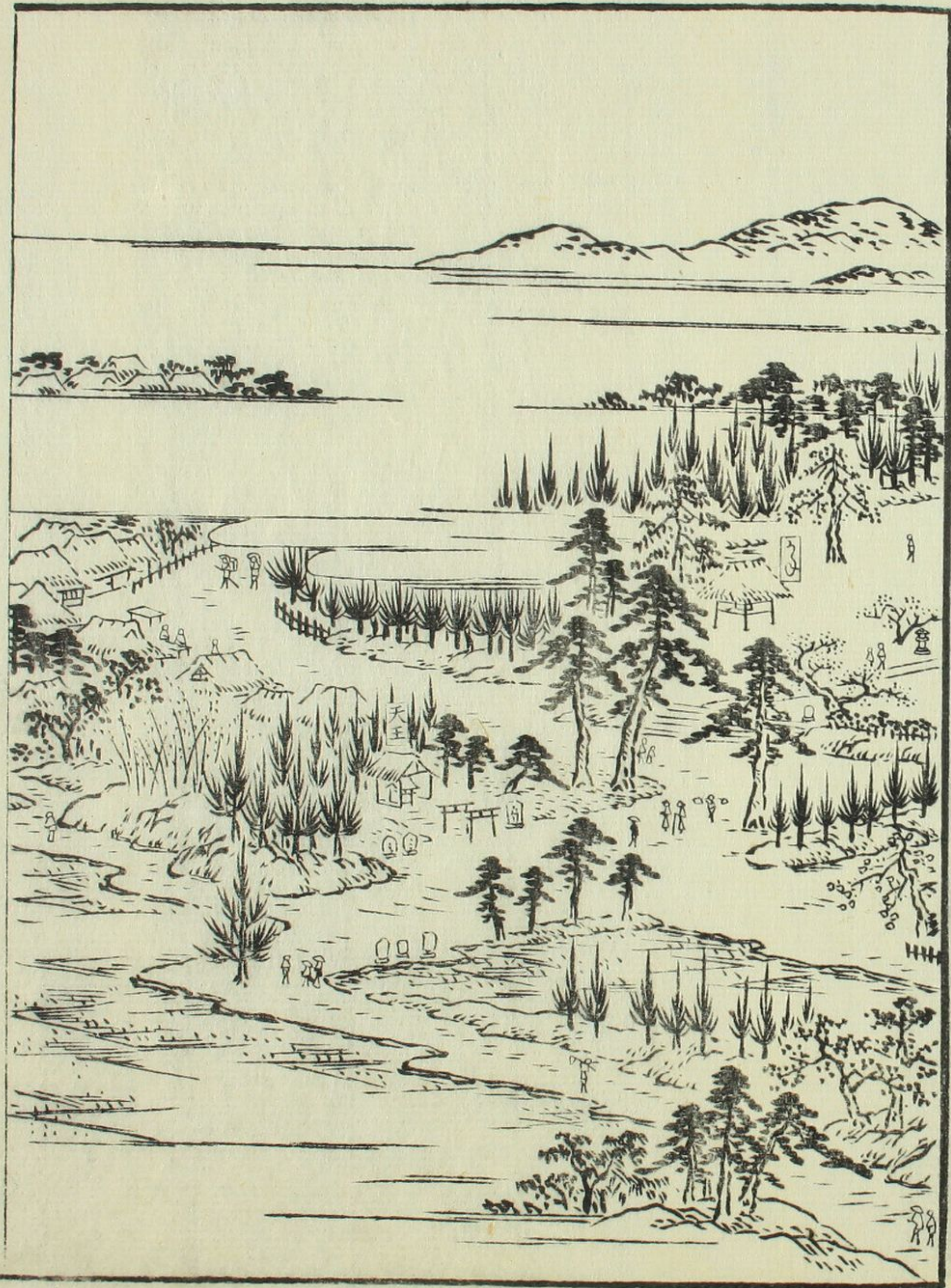


本堂本尊瑠璃光如来（浄土宗）又佛足石とも稱す堂前右の方あり垣をめぐり入口は戸鎖あり一尺五寸計の凹なるがわたり常は水を湛へく上小家根を覆ふことと醫王水と稱し病影向石之碑（入道）其左のこゝに建す

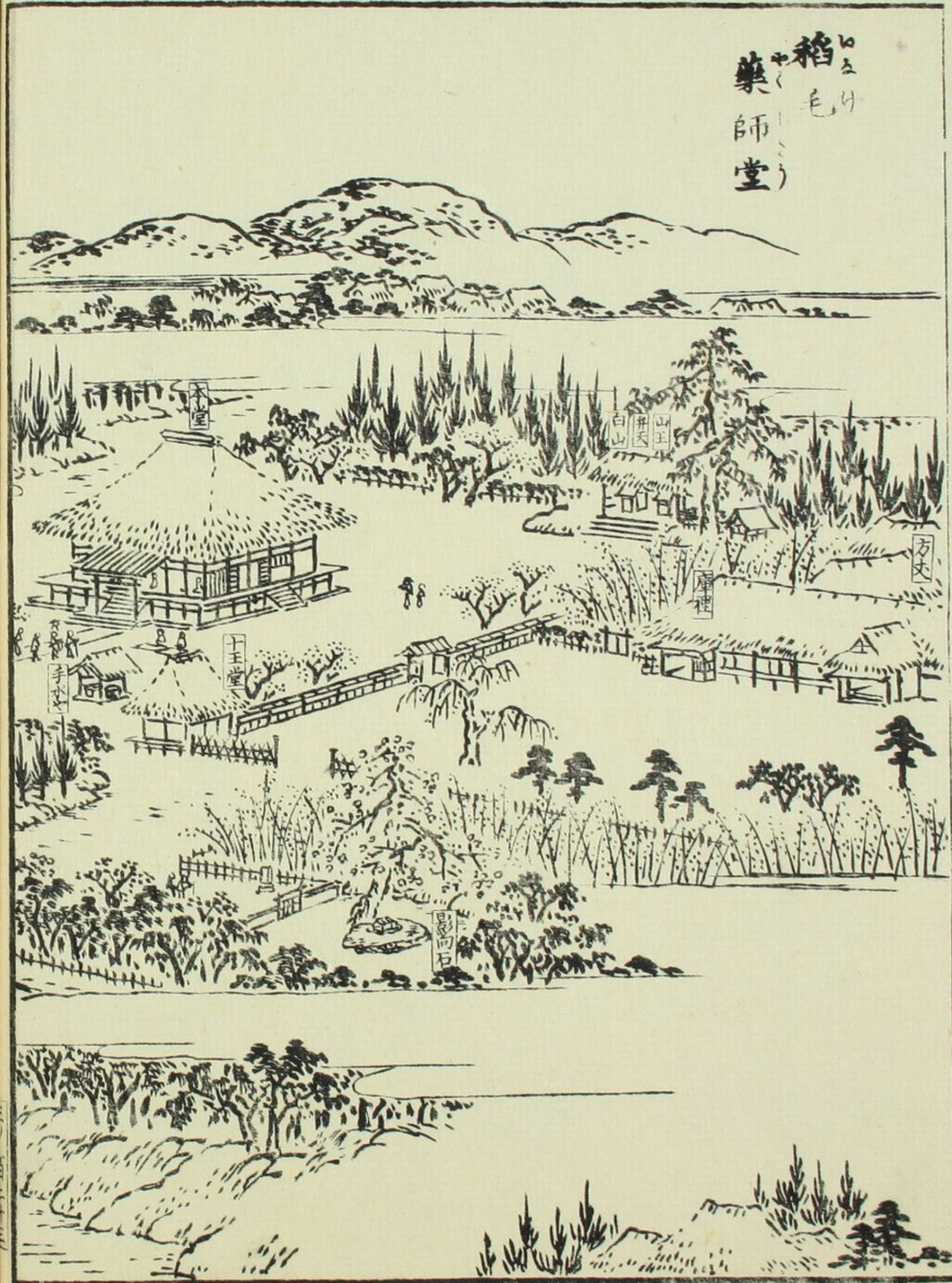
影向石碑
 鳴呼神道之妙聰明正直也哉此地堂構柱皆天平
 有石象凹清泉常滿一帝飲其水則沈痾盡愈人々至
 誠所以感於神也矣余曾患眼也多年矣醫藥極術
 而大未獲其驗偶至此禱之則妙河潤千累也哉敬拜
 焉靈威德而片石以識不朽且表尊信之志也
 延享丙寅季秋本直東立之
 郡大泉村森本直東立之
 菊池政房代撰
 平林博信書

緣起曰天平十一年己卯九月十二日寅の刻小至聖武天皇の妃
 光明皇后是なり（光明皇后）俄小浄惱あり天皇自薬師佛と浄祈念ありしに
 不比等の大匠の二女あり

翌年辛辰二月十二日の夜一人の沙門忽然とて天皇此
 浄前小浄告奉りて曰く武蔵國橘樹の里小（和名抄橘樹郡の中橋樹と云ふ地
 名と記し今此地名と云ひて一の靈石あり中心は水を湛へり
 佛在世の時佛此靈石に向ひ三國小飛行して永く有縁の
 地は止ると云く然る其石忽然とて飛行して此日本の地に移り
 彼地は止まり件の靈石ハ釋尊の浄足と捧り奉り大蓮花の
 其一葉と踏とめて末世は残し置りし所實は奇特の靈
 石よしと彼地も又靈佛安座の勝利なり早く一の伽藍を建
 立し醫王と安置し皇后の心惱立而平愈あり一殊更
 王城の鎮護とて國土豊饒とて坐を立ちて見と其行
 方を見失ひしは天皇此奇特とありしをこれ行基菩薩は業師
 佛彫造の勅あり又武蔵國は勅使を下し同年四月八日
 勅使當國小下向ありて此靈地を探り得り竟に伽藍造立

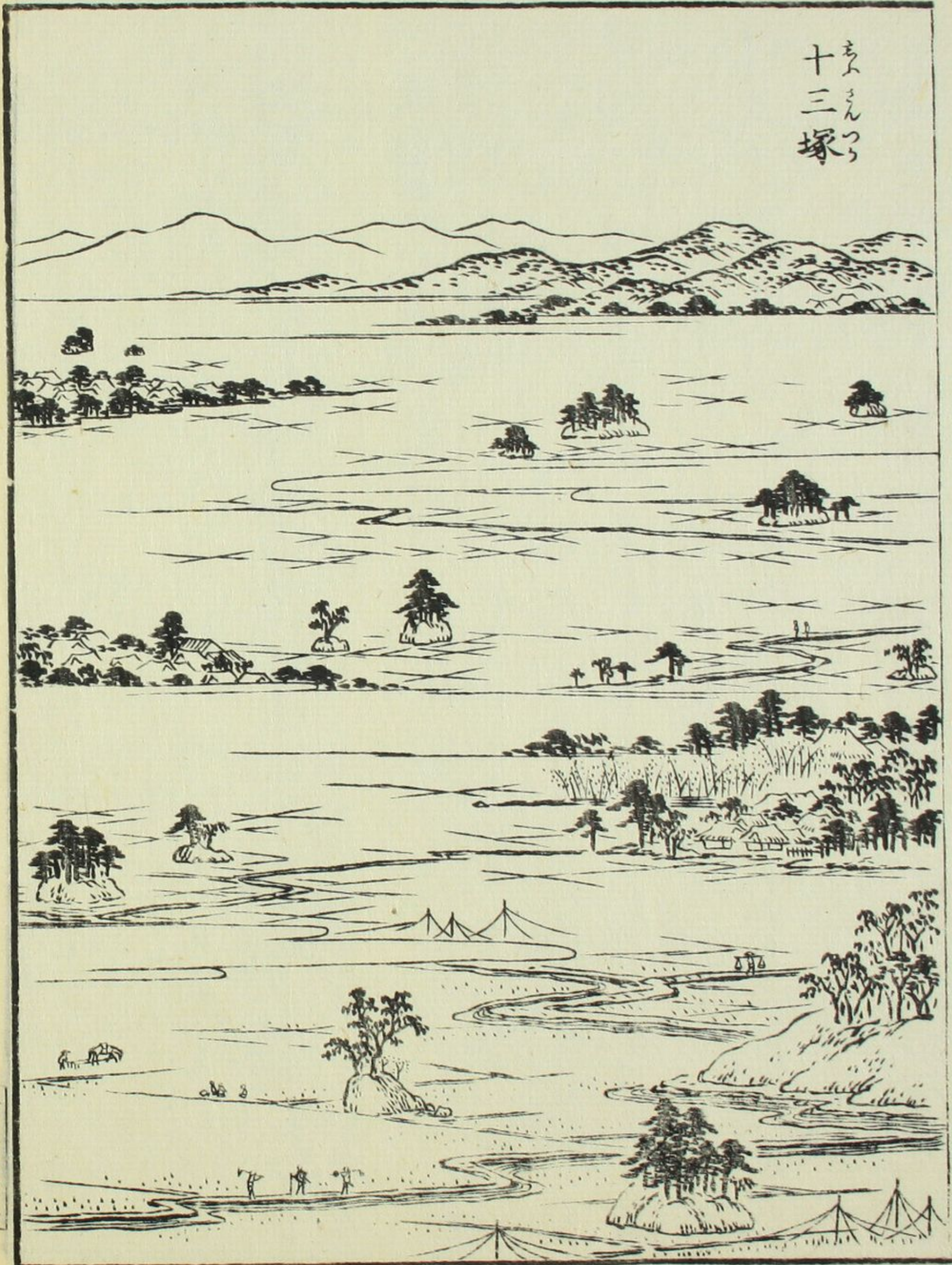


稻毛
藥師堂



あり又行基菩薩ハ良材を得て茶師佛の像を彫刻し
此地と云ふは五十余町其の方倉と号す地一の池あり此間
夜毎に燈籠をくく入后の山嶺も四月八日より佛堂造立落成の
後橋樹郡の地を以て寄附し多し時天平十二年庚辰十一月
なり是後文徳天皇の御宇に當り惟喬惟仁弟同胞の太子
御位定の時慈覺大師惟仁皇子の法為す種々の祈ありて
天安元年丁丑の八月當山に勅使を立ち堂塔法再營あり
翌年戊寅初秋悉く落慶して舊觀より復も同年八月本宮を京
師より移し多し此の地は河國青島の里に至り夜自ら先づ
方の大盤石の石に立せし人々奇異とす則影向石是なり當山辰巳此
其時大師曰く我此山の躰をくく靈石靈水の谷の峯あり
是ハ葉胎藏の徳を備へて末世に至る迄二世の慈地圓滿を
成す相ありとて勅使と共に歸洛の後奏聞ありてハ天皇再
改して橋樹郡を寺と充しむ此年の春三月竟に惟仁太子御位に
ついで清和帝是偏に此本宮の衛護のよろしくあり

なりんとて威徳山と号けられ近江國蒲生郡の地を寄
附の宣旨ありしとのみ
十三塚 土人ハ十三本墓と云ふ野川村の耕地の中此所彼所に
散在せる雜樹茅草茂まり相傳ふ新田佐兵衛佐江戸遠江守此
るに伐りて矢口の渡りて亡ひし時随ふ所の家臣の墳墓
なりとて之とて詳なりす
舟田 子母口村の内府中道の右にあり橋明神の神田なり長
二十歩をわたり幅十四歩ありあり水田なり舟の形なり其回り
悉く陸田なり舟河原と稱する地ハ社より十町をわたり東に當りて
今ハ民村の字とありて次の橋明神の奈下と合せし
橋明神社 同所府中道より四町あり右の方山の上にあり別當
真言宗より蓮乘院と号し祭礼ハ隔年九月九日修行す
祭神ハ弟橋媛と祀ると云神體ハ一尺三四寸計あり男躰女躰二



軀を安置せり女肝ハ弟捕媛勸請の始詳なり此地の人他邦へ

知りあり時を必先當社に詣り然して後發足せり此路中過あり

とて大に恐怖せり

古文書一通子母口村の里正伊藤氏の家に蔵を子母口昔ハ波口なり此書より明けり

波口郷目録

一町 大戸宮 神田

二段 立花宮 神田

領家方 能登出作

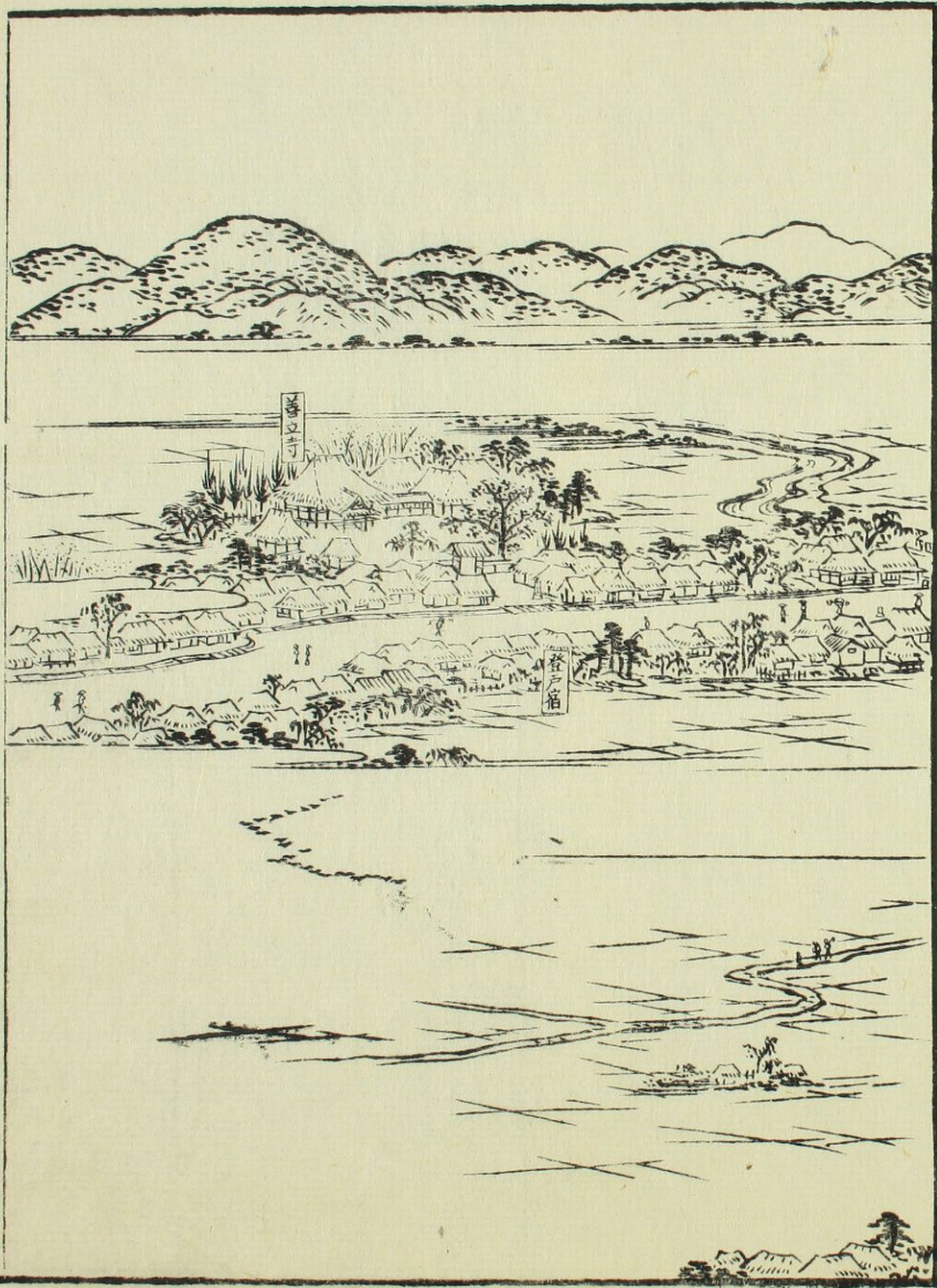
宇田壹町四反

田壹町 散在

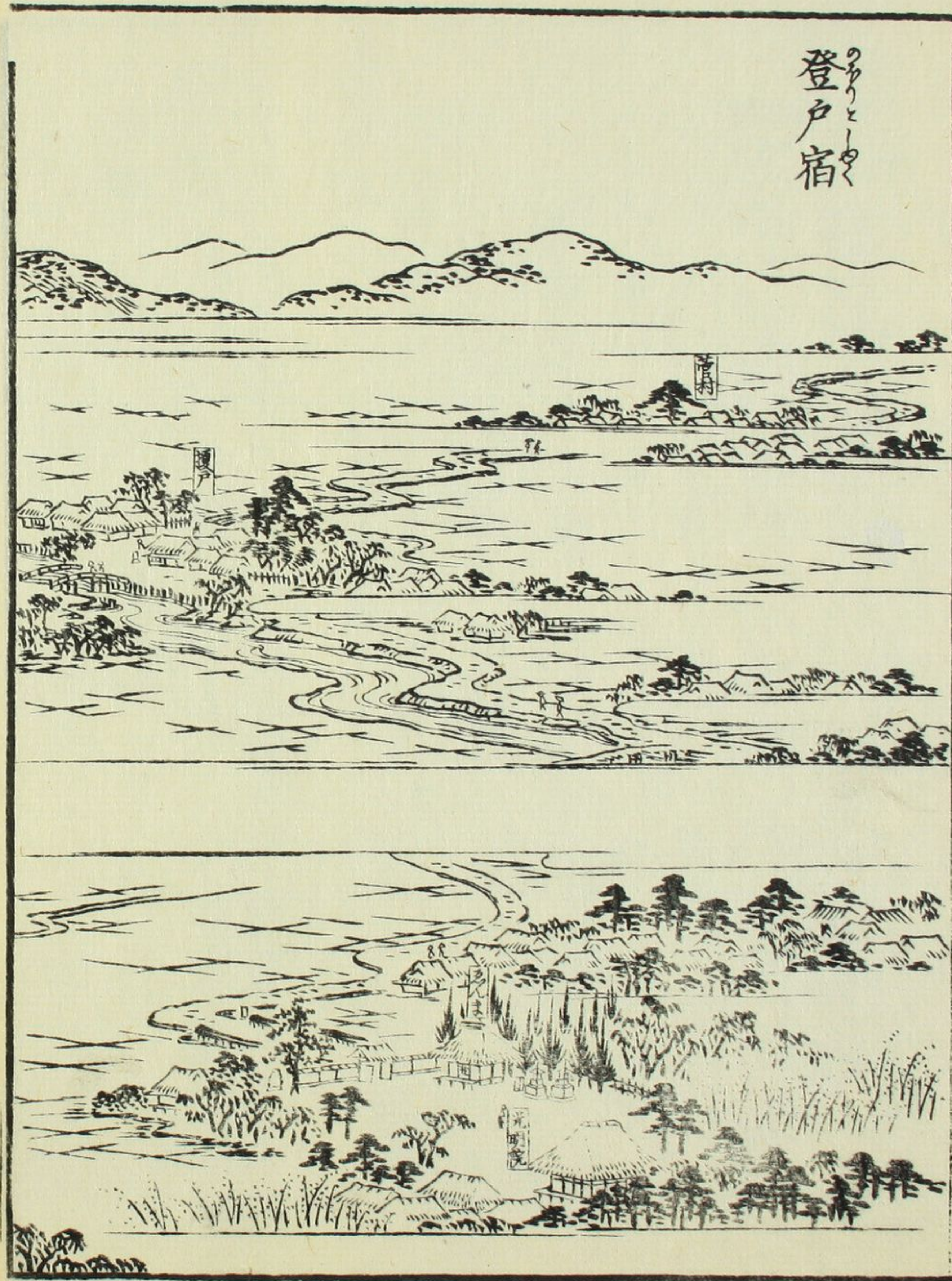
合貳町四反 此内四段小せきあんあまのり先のをく
以上一貫貳百三十七文 分錢

以下略之

若松礼那代國経ノス武藏國稻毛、新庄ノ内



登戸宿



登戸宿

登り戸と渡



とも云てその説一なるは舟田もその伊船の着て

右近屋敷 社地の右より農氏藤七といふ人居住す右近古ハ當社と奉祀の

左近屋敷 同社地の左より今細とあり右近屋敷と共ニ除地よりいふ

橘姫神廟 社地より二丁とあり東は當りて山の中腹あり

相傳日本武尊東征の時此海上逆浪の災は逢多入王頃茅橘姫の

御衣及び冠の具なと流れ寄たりと土中へ収めたり跡ありといふ

大戸明神 橘明神の社より後へ二町ありと回り西の方北山の上

あり蓮兼院兼帯す祭神大斗乃辨神を祀ると云 神世社式の中

意富斗能地神とヤチチ 神躰ハ一尺三四寸ありと男女の容貌

九日よ修行せり 形ハ大斗乃辨神の神躰なり 祭礼ハ隔年九月

龍宿山最明寺 金剛院と号丸子街道の西小杉邑より新義の

真言宗とく江戸愛宕下の真福寺は属せり大日如来此木

壽源寺



像を本尊とす北條時頼公の創建なりと云傳へく堂宇に
三鱗の紋を附く元祿の頃洪水の災よかりく
日記を失ふといふ事

普照山壽源寺 唯称名院と号し南加瀬村岡の中腹より浄

土宗より四十六世念誓覚栄和尚今の堂宇と堂建しく坐像

丈六の観音と安置せり當寺梁牌の銘に建武元年甲戌創

建中しく往古に加瀬山智恵光院新如来寺と号せしとなり

開山に良山上人と稱す十一世良察上人の項寛正元年庚辰兵

火のあふと亡ひしなり

東鑑曰 兼久三年辛巳六月十四日宇治橋合戦手

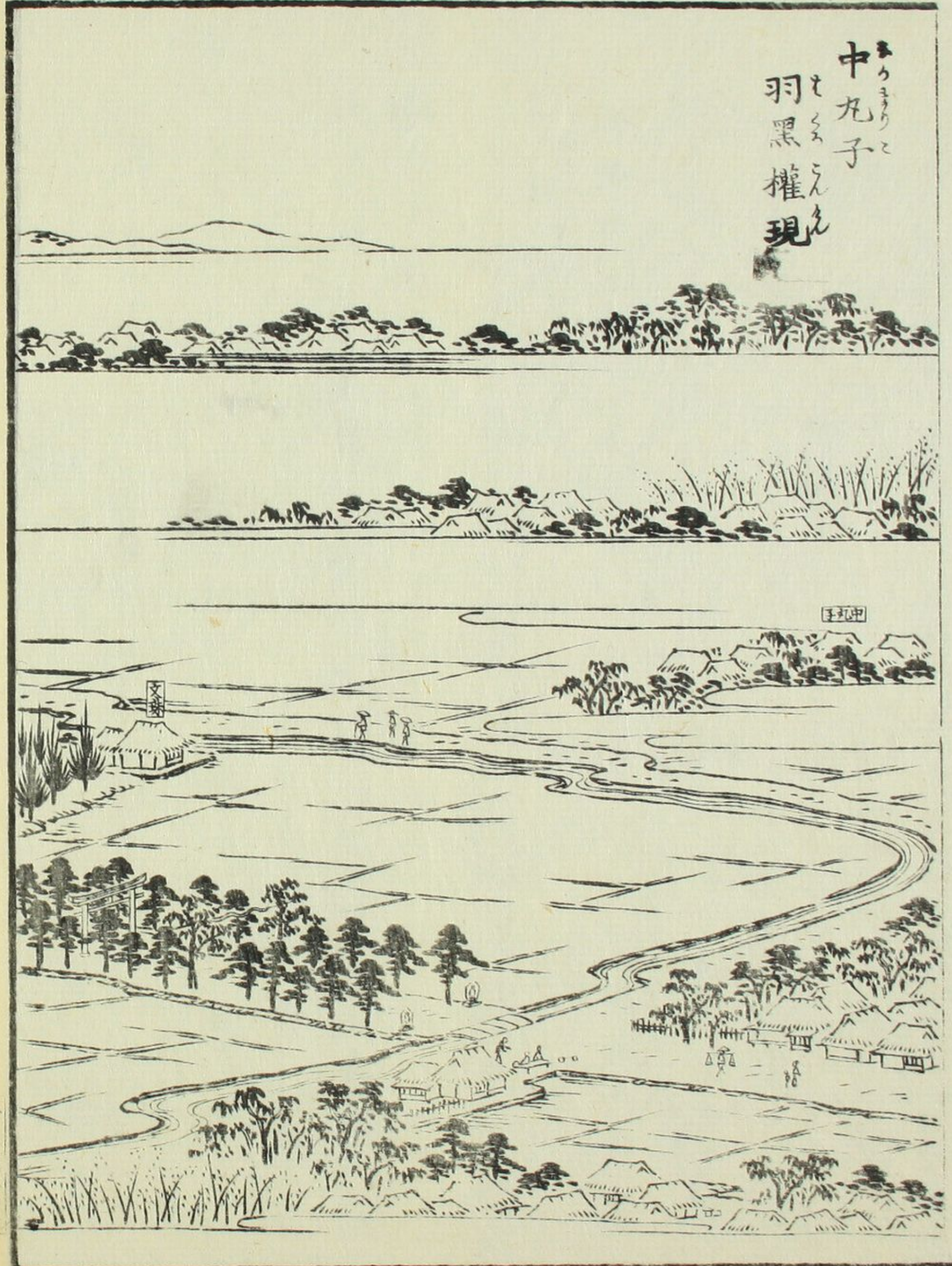
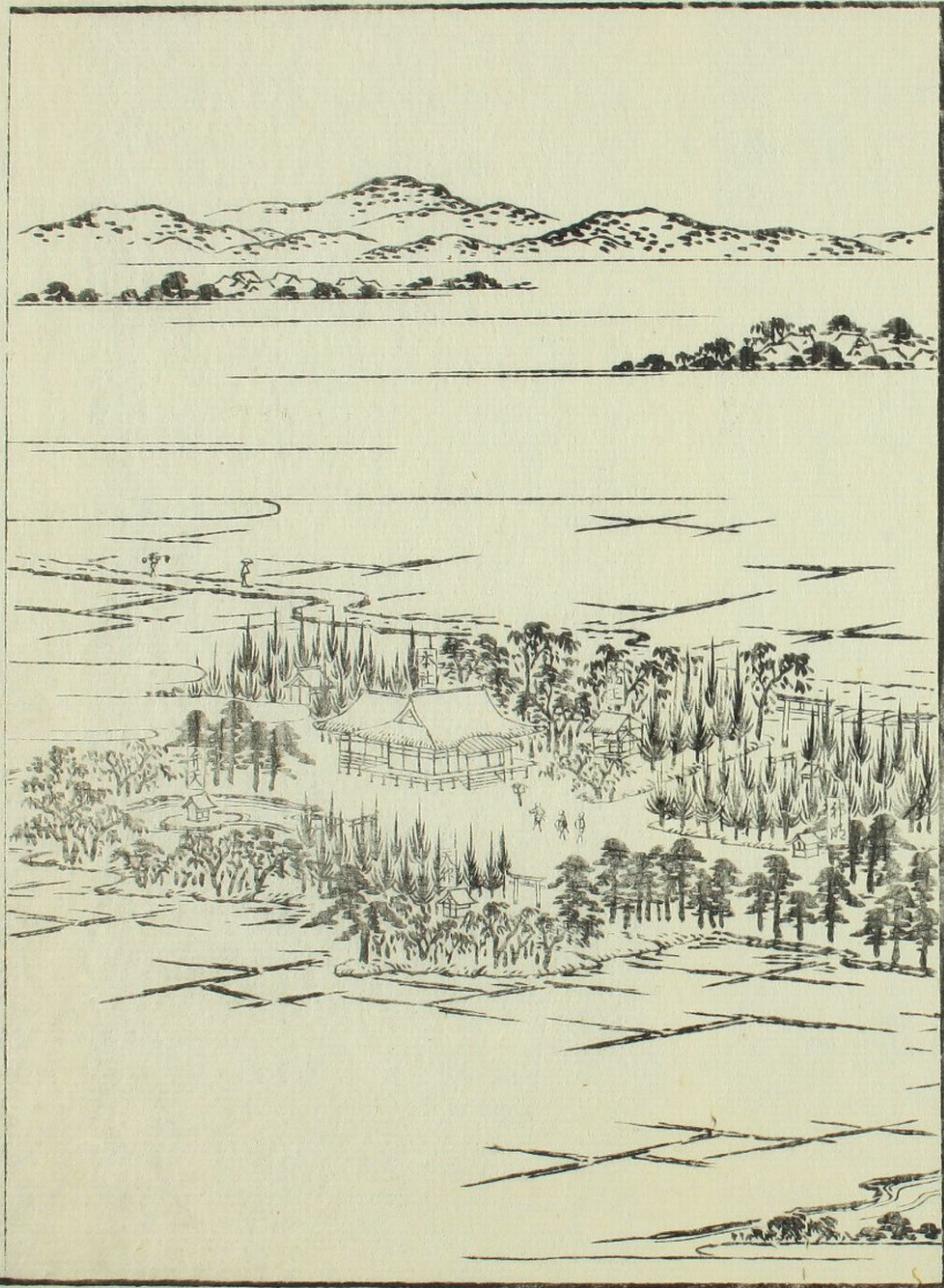
負人々中加世左近將監同称次郎死了云云

小杉河殿地 最明密寺の大門の傍農家の後園の地を旧跡

なりと云慶長十三年に河造堂ありき其後万治三年にたせ

らんと云則此辺省耕のあふ殿なりとのみ

按ふ永祿二年小田原北条家の分限帳に小菅大炊助と云名あり又同書に
小菅長津守縮毛小田村の地を領すとあり小菅正字あり小田原記に



中丸子
羽黒權現

中丸子

概々回國雜記よりまゝこの里とあるふより東海道鞠子驛と混
々れとも此記初より城なるを丸子ののをとりてあり此記外
の浦と芝の浦と新羽と立
鐘倉より〜〜〜を記せるを以て此のあり〜〜〜

